



Attorney Docket No.: 8051-1009

PATENT

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant: Yoshiharu SASAKI
Appl. No.: 10/600,467
Filed: June 23, 2003
For: RECORDING METHOD AND RECORDING
APPARATUS

L E T T E R

Assistant Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, Virginia 22313-1450

Date: August 4, 2003

Sir:

Under the provisions of 35 U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55(a), the applicant(s) hereby claim(s) the right of priority based on the following application(s):

<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2002-181421	June 21, 2002
JAPAN	2002-196044	July 4, 2002

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to Deposit Account No. 25-0120 for any additional fee required under 37 C.F.R. §§ 1.16 or 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

YOUNG & THOMPSON

By *Benoît Castel*

Benoît Castel, #35,041

BC/psf

745 South 23rd Street, Suite 200
Arlington, Virginia 22202
(703) 521-2297

Attachment

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 6 月 2 1 日
Date of Application:

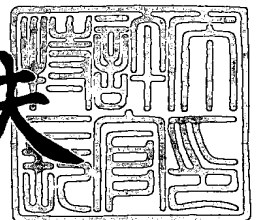
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 1 8 1 4 2 1
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 1 8 1 4 2 1]

出 願 人 富士写真フイルム株式会社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 7 月 2 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 5 8 3 4 0

【書類名】 特許願

【整理番号】 P-40855

【提出日】 平成14年 6月21日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B41M 5/00
B41M 5/30

【発明者】

【住所又は居所】 静岡県富士宮市大中里 2 0 0 番地 富士写真フイルム株式会社内

【氏名】 佐々木 義晴

【特許出願人】

【識別番号】 000005201

【氏名又は名称】 富士写真フイルム株式会社

【代理人】

【識別番号】 100105647

【弁理士】

【氏名又は名称】 小栗 昌平

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100105474

【弁理士】

【氏名又は名称】 本多 弘徳

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100108589

【弁理士】

【氏名又は名称】 市川 利光

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100115107

【弁理士】

【氏名又は名称】 高松 猛

【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

【識別番号】 100090343

【弁理士】

【氏名又は名称】 栗宇 百合子

【電話番号】 03-5561-3990

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 092740

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0003489

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 記録方法及び記録装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 剥離可能な画像形成層を有する転写シートを支持体の記録面上に重ね合わせてストライプ形状を含むパターンを記録し、該記録後に前記転写シートを支持体の記録面から剥離して、支持体の記録面に画像形成層を前記パターン様に転写形成する記録方法であって、

前記支持体から剥離する転写シートを保持し、この記録後の支持体を搬出する一方、次に搬入した支持体の記録面上に前記剥離後の転写シートを戻して重ね合わせ、前記転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を行うことを特徴とする記録方法。

【請求項 2】 前記保持された転写シートを前記支持体の記録面上に、剥離前と略同一の位置に戻し、前記ストライプ形状の長手方向又は該長手方向の直交方向の少なくともいずれか一方に、記録位置をストライプ形状の配置ピッチで 1 ～ 1.5 ピッチ分ずらして記録することを特徴とする請求項 1 記載の記録方法。

【請求項 3】 前記ストライプ形状の長手方向又は該長手方向の直交方向の少なくともいずれか一方に、ストライプ形状の配置ピッチで 1 ～ 1.5 ピッチ分をずらして前記保持された転写シートを前記支持体の記録面上に戻し、剥離前と略同一の位置に記録することを特徴とする請求項 1 記載の記録方法。

【請求項 4】 前記転写シートを剥離ローラを用いて支持体から剥離して保持し、前記転写シートを前記剥離ローラの周方向又は剥離ローラの軸方向の少なくともいずれか一方に、ストライプ形状の配置ピッチで 1 ～ 1.5 ピッチ分をずらして次に搬入された支持体の記録面上に戻すことを特徴とする請求項 1 記載の記録装置。

【請求項 5】 前記記録後の転写シートの未記録部分が、記録するストライプ形状の領域より狭くなったときに、該転写シートを排出することを特徴とする請求項 1 ～ 請求項 4 のいずれか 1 項記載の記録方法。

【請求項 6】 剥離可能な画像形成層を有する転写シートを支持体の記録面上に重ね合わせてストライプ形状を含むパターンを記録し、該記録後に前記転写

シートを支持体の記録面から剥離して、支持体の記録面に画像形成層を前記パターン様に転写形成する記録装置であって、

前記支持体の記録面を移動自在に支持する支持体保持手段と、

前記転写シートを前記支持体保持手段上の支持体上へ供給する転写シート供給手段と、

前記支持体保持手段と協働して前記転写シートへ所望のパターンの記録を行う記録ヘッドと、

前記支持体保持手段に供給されて前記記録ヘッドによる記録が行われた後の転写シートを前記支持体から剥離して保持する一方、次に搬入された支持体の記録面上に前記保持した転写シートを供給する剥離保持手段とを備え、

前記転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を繰り返し行うことを特徴とする記録装置。

【請求項 7】 前記剥離保持手段が、真空吸引により前記転写シートを保持することを特徴とする請求項 6 記載の記録装置。

【請求項 8】 前記剥離保持手段が、少なくとも使用する転写シートの色数分を備えてあり、転写シートの色毎にそれぞれ保持することを特徴とする請求項 6 又は請求項 7 記載の記録装置。

【請求項 9】 前記剥離保持手段が円筒体周面に転写シートを保持する剥離ローラであることを特徴とする請求項 6 ～請求項 8 のいずれか 1 項記載の記録装置。

【請求項 10】 前記剥離ローラの回転方向に対する位置を検出する回転方向位置検出部を備えたことを特徴とする請求項 9 記載の記録装置。

【請求項 11】 前記剥離ローラに該剥離ローラの回転角度を制御する駆動源を接続していることを特徴とする請求項 9 又は請求項 10 記載の記録装置。

【請求項 12】 前記剥離ローラの軸方向に対する位置を検出する軸方向移動位置検出部を備えたことを特徴とする請求項 9 ～請求項 11 のいずれか 1 項記載の記録装置。

【請求項 13】 前記剥離ローラを該剥離ローラの軸方向へ移動制御する軸方向移動駆動部を備えたことを特徴とする請求項 9 ～請求項 12 のいずれか 1 項

記載の記録装置。

【請求項 14】 前記軸方向移動駆動部が、少なくとも軸方向に沿って所定間隔を隔てた複数箇所に停止位置を有することを特徴とする請求項 13 記載の記録装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、記録対象物の表面にストライプ形状を含むパターン画像を記録するための記録方法及び記録装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

液晶表示装置等の表示装置は、コントラスト比の改善等を目的としたブラックストライプ（ブラックマトリクス）と、ブラックストライプの間に交互に形成したレッド、グリーン、ブルーのストライプ状のパターンを設けたカラーフィルタを表示面に取り付けている。

【0003】

図 51 はカラーフィルタの一例を示す平面図で、（a）はカラーフィルタの全体図で、（b）はその一部拡大図である。このカラーフィルタでは、ブラックストライプ（K）のパターンと、このブラックストライプ（K）同士の間で交互にレッド（R）、グリーン（G）、ブルー（B）の順でストライプ状のパターンとを形成している。表 1 は、SXGA 規格のディスプレイにおける呼び名（インチ）毎の、画面サイズ、画素数（R・G・B の 1 組で 1 画素を構成する）、各画素サイズ、ストライプ幅を示し、表 2 は、呼び名（インチ）毎の、各ブラックストライプ幅（BM 幅）に対する開口率（明るさの指標）の関係を示している。

【0004】

【表 1】

呼び名	画面サイズ, mm		画素数		画素サイズ, mm		ストライプ幅 mm
	幅	高さ	幅	高さ	幅	高さ	
28インチ	620	350	1240	1000	0.500	0.350	0.167
32インチ	709	400	1240	1000	0.571	0.400	0.190
36インチ	797	450	1240	1000	0.643	0.450	0.214
42インチ	930	525	1240	1000	0.750	0.525	0.250

【表 2】

呼び名	開口率			
	BM幅, mm			
	0.01	0.02	0.03	0.04
28インチ	94.0%	88.0%	82.0%	76.0%
32インチ	94.8%	89.5%	84.3%	79.0%
36インチ	95.3%	90.7%	86.0%	81.3%
42インチ	96.0%	92.0%	88.0%	84.0%

【0005】

このようなカラーフィルタを作製する場合、カラーフィルタのパターンの作製には、例えば、次のようなレーザ露光による記録方法を利用することができる。即ち、その方法は、剥離可能な画像形成層を有する転写シートを支持体の記録面上に重ね合わせ、その状態で転写シートの上からレーザ露光によりストライプ形状を含むパターンを記録し、その記録後に転写シートを支持体の記録面から剥離して、支持体の記録面に画像形成層をパターン様に転写形成するものである。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

この記録方法を用いて、図52のようにレッド(R)、グリーン(G)、ブルー(B)が順番にストライプ状に並ぶパターンを得る場合、例えばまずレッド(R)の転写シートを用いてレッド(R)のストライプ状パターンを記録し、次にグリーン(G)の転写シートを用いてグリーン(G)のストライプ状パターンを記録し、最後にブルー(B)の転写シートを用いてブルー(B)のストライプ状パターンを記録するという手順で記録を進める。

【0007】

その場合、従来では、一色につき一度記録に使用した転写シートは、そのまま廃棄していた。しかし、図53に示すように、一度使用しただけの転写シート7は、記録に使用した領域（記録済み部分）2は色抜けするものの、他の部分はまだ使用可能な領域（未記録部分）3として残っており、これをそのまま廃棄していたのでは、資源の有効利用、また製造コスト低減の面から思わしくなく、無駄が多い問題があった。

【0008】

本発明は、上記事情を考慮し、転写シートを複数回の記録に使い回すことで、資源の有効利用を図り、使用材料の減量による製造コストの低減を図るようにした記録方法及び記録装置を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

上記目的達成のため、本発明に係る請求項1記載の記録方法は、剥離可能な画像形成層を有する転写シートを支持体の記録面上に重ね合わせてストライプ形状を含むパターンを記録し、該記録後に前記転写シートを支持体の記録面から剥離して、支持体の記録面に画像形成層を前記パターン様に転写形成する記録方法であって、前記支持体から剥離する転写シートを保持し、この記録後の支持体を搬出する一方、次に搬入した支持体の記録面上に前記剥離後の転写シートを戻して重ね合わせ、前記転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を行うことを特徴とする。

【0010】

この記録方法では、1枚の転写シートを用いて1回目の記録を行った後、2回目以降の記録を行う際に、転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を行う。従って、このように転写シートを2回以上の記録に使い回すことにより、転写シートの有効利用を図ることができると共に、使用する転写シートの減量を図ることができ、それにより製造コストの低減に寄与することができる。

【0011】

請求項2の発明の記録方法は、請求項1において、前記保持された転写シート

を前記支持体の記録面上に、剥離前と略同一の位置に戻し、前記ストライプ形状の長手方向又は該長手方向の直交方向の少なくともいずれか一方に、記録位置をストライプ形状の配置ピッチで1～1.5ピッチ分ずらして記録することを特徴とする。

【0012】

この記録方法では、転写シートを支持体に対して剥離前と略同じ位置に戻し、記録位置の方を支持体に対してずらすことにより、転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を行うようにしている。従って、記録位置をずらすことで、転写シートを2回以上の記録に使い回すことができる。例えば、レッド(R)、グリーン(G)、ブルー(B)のストライプ状パターンを順番に記録する場合において、今、レッド(R)の転写シートを用いて支持体の記録面上に1回だけレッド(R)のストライプ状パターンを記録した場合を考えると、その場合は、転写シートの記録済みのストライプ間に、グリーン(G)とブルー(B)の位置に対応した、2ストライプ分を超える面積の未記録部分(未使用領域)が残っている。従って、次の記録の際に、剥離前と略同じ位置に転写シートを戻した状態で、記録ごとにストライプ形状の配置ピッチで1ピッチ分ずつ記録位置をずらすことにより、1回目の記録のときにグリーン(G)とブルー(B)に対応した位置にある転写シート上の未使用領域で、順次レッド(R)を記録することができ、全部で3回の記録に転写シートを使い回すことができる。

また、1.5ピッチ分だけ記録位置をずらすことで、2回の記録に1枚の転写シートを使い回すことができる。1.5ピッチ分だけ記録位置をずらす場合は、2ストライプ分を超える面積の未使用領域で、1ストライプ形状のパターン記録を行うのであるから、領域的に余裕があり、多少転写シートを戻す位置の精度が劣っていても、無理なく記録を行うことができる。

【0013】

請求項3の発明の記録方法は、前記ストライプ形状の長手方向又は該長手方向の直交方向の少なくともいずれか一方に、ストライプ形状の配置ピッチで1～1.5ピッチ分をずらして前記保持された転写シートを前記支持体の記録面上に戻

し、剥離前と略同一の位置に記録することを特徴とする。

【0014】

この記録方法では、転写シートの方を支持体に対して位置をずらして戻し、記録位置の方を剥離前と略同じ位置に設定することにより、転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を行うようにしている。従って、転写シート側をずらして戻すように設定することにより、1枚の転写シートを2回以上の記録に使い回すことができる。この場合も、レッド（R）、グリーン（G）、ブルー（B）のパターンを順番に記録する際に、例えば、各色の記録において記録ごとに転写シートを1ピッチあるいは1.5ピッチ分ずつずらすことで、上記同様の作用を得ることができる。

【0015】

請求項4の発明の記録方法は、前記転写シートを剥離ローラを用いて支持体から剥離して保持し、前記転写シートを前記剥離ローラの周方向又は剥離ローラの軸方向の少なくともいずれか一方に、ストライプ形状の配置ピッチで1～1.5ピッチ分をずらして次に搬入された支持体の記録面上に戻すことを特徴とする。

【0016】

この記録方法では、剥離ローラを、回転させながら支持体に対して相対的に移動することにより、転写シートを剥離ローラの外周面に巻き取りつつ支持体から剥離することができる。また、その状態のまま、剥離した転写シートを保持することができる。従って、剥離ローラを使用した簡単な機構を装備するだけで、転写シートの剥離並びに保持を行うことができる。また、次に搬入された支持体の記録面に、剥離した転写シートを戻す際には、転写シートを剥離ローラの周方向又は剥離ローラの軸方向の少なくともいずれか一方に、ストライプ形状の配置ピッチで1～1.5ピッチ分だけずらして戻すことにより、記録位置を剥離前と略同じ位置に設定した状態で、転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を行うことができ、転写シートを2回以上の記録に使い回すことができる。

【0017】

請求項5の発明の記録方法は、前記記録後の転写シートの未記録部分が、記録

するストライプ形状の領域より狭くなったときに、該転写シートを排出することを特徴とする。

【0018】

この記録方法では、転写シートの未記録部分が、記録するストライプ形状の領域より狭くなったときに、転写シートを排出するようにしているので、無駄なく転写シートを使い切ることができる。

【0019】

請求項6の発明の記録装置は、剥離可能な画像形成層を有する転写シートを支持体の記録面上に重ね合わせてストライプ形状を含むパターンを記録し、該記録後に前記転写シートを支持体の記録面から剥離して、支持体の記録面に画像形成層を前記パターン様に転写形成する記録装置であって、前記支持体の記録面を移動自在に支持する支持体保持手段と、前記転写シートを前記支持体保持手段上の支持体上へ供給する転写シート供給手段と、前記支持体保持手段と協働して前記転写シートへ所望のパターンの記録を行う記録ヘッドと、前記支持体保持手段に供給されて前記記録ヘッドによる記録が行われた後の転写シートを前記支持体から剥離して保持する一方、次に搬入された支持体の記録面上に前記保持した転写シートを供給する剥離保持手段とを備え、前記転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を繰り返し行うことを特徴とする。

【0020】

この記録装置では、支持体保持手段、転写シート供給手段、記録ヘッド、剥離保持手段を順次動作させることにより、転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を繰り返し行うようにしたので、転写シートを複数回の記録に使い回すことができる。従って、転写シートの有効利用を図ることができると共に、使用する転写シートの減量を図ることができ、それにより製造コストの低減に寄与することができる。

【0021】

請求項7の発明の記録装置は、前記剥離保持手段が、真空吸引により前記転写シートを保持することを特徴とする。

【 0 0 2 2 】

この記録装置では、剥離保持手段が真空吸引によって転写シートを保持するので、機械的なチャック機構の場合と比較して、簡単な構造及び操作で、転写シートの剥離から保持までの動作、並びに保持から支持体への戻しまでの動作を行うことができる。

【 0 0 2 3 】

請求項 8 の発明の記録装置は、前記剥離保持手段が、少なくとも使用する転写シートの色数分を備えてあり、転写シートの色毎にそれぞれ保持することを特徴とする。

【 0 0 2 4 】

この記録装置では、各色の転写シートをそれぞれ無駄なく複数回ずつ使い回すことができる。

【 0 0 2 5 】

請求項 9 の発明の記録装置は、前記剥離保持手段が円筒体周面に転写シートを保持する剥離ローラであることを特徴とする。

【 0 0 2 6 】

この記録装置では、剥離保持手段が円筒体周面に転写シートを保持する剥離ローラよりなるので、該剥離ローラを回転させながら支持体に対して相対的に移動することにより、転写シートを剥離ローラの外周面に巻き取りながら支持体から剥離することができ、剥離した転写シートをそのまま保持することができる。従って、簡単な機構で転写シートの剥離及び保持を行うことができる。

【 0 0 2 7 】

請求項 1 0 の発明の記録装置は、前記剥離ローラの回転方向に対する位置を検出する回転方向位置検出部を備えたことを特徴とする。

【 0 0 2 8 】

この記録装置では、剥離ローラが回転方向位置検出部を備えているので、保持した転写シートを支持体の記録面上に戻すときに、剥離ローラの回転位置を精度良く制御することで、支持体の記録面に対する転写シートの戻し位置を任意に変化させることができる。従って、転写シートを剥離ローラ上で周方向にずらしな

がら、次に搬入された支持体に対して戻すことができる。

【 0 0 2 9 】

請求項 1 1 の発明の記録装置は、前記剥離ローラに該剥離ローラの回転角度を制御する駆動源を接続していることを特徴とする。

【 0 0 3 0 】

この記録装置では、回転角度制御可能な駆動源に剥離ローラを接続しているので、保持した転写シートを支持体の記録面上に戻すときに、剥離ローラの回転位置を精度良く制御することができ、それにより支持体の記録面に対する転写シートの戻し位置を任意に変化させることができる。従って、転写シートを剥離ローラ上で周方向にずらしながら、次の支持体に対して戻すことができる。

【 0 0 3 1 】

請求項 1 2 の発明の記録装置は、前記剥離ローラの軸方向に対する位置を検出する軸方向移動位置検出部を備えていることを特徴とする。

【 0 0 3 2 】

この記録装置では、剥離ローラが軸方向移動位置検出部を備えているので、保持した転写シートを支持体の記録面上に戻すときに、剥離ローラの軸方向位置を精度良く制御することで、支持体の記録面に対する転写シートの戻し位置を任意に変化させることができる。従って、転写シートを剥離ローラ上で軸方向にずらしながら、次に搬入された支持体に対して戻すことができる。

【 0 0 3 3 】

請求項 1 3 の発明の記録装置は、前記剥離ローラを該剥離ローラの軸方向へ移動制御する軸方向移動駆動部を備えたことを特徴とする。

【 0 0 3 4 】

この記録装置では、剥離ローラを軸方向に移動制御する軸方向移動駆動部を備えているので、剥離ローラの外周面に保持した転写シートの位置を、その保持した状態のまま軸方向に移動することができる。従って、剥離ローラから転写シートを支持体の記録面上に戻すときに、剥離ローラの軸方向位置を制御することにより、支持体の記録面に対する転写シートの戻し位置を任意に変化させることができる。従って、転写シートを剥離ローラ上で軸方向にずらしながら、次に搬入

された支持体に対して戻すことができる。

【0035】

請求項14の発明の記録装置は、前記軸方向移動駆動部が、少なくとも軸方向に沿って所定間隔を隔てた複数箇所に停止位置を有することを特徴とする。

【0036】

この記録装置では、剥離ローラを軸方向に移動させた際の停止位置を予め決めているので、その停止位置をストライプ形状の配置ピッチに対応させて予め定めておくことにより、ストライプ形状の配置ピッチを基準にして、転写シートを支持体の記録面上に位置をずらして戻すことが容易に行える。

【0037】

【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る記録方法及び記録装置の好適な実施の形態について、図面を参照して詳細に説明する。

<第1実施形態>

本実施形態の記録装置は、記録対象物である支持体をXYステージ上に供給し、その支持体の記録面上に剥離可能な画像形成層を有する転写シートを重ね合わせて密着させ、レーザービームで転写シートにストライプ形状を含むパターン画像を記録し、記録後に転写シートを支持体から剥離することで、支持体の記録面にパターン画像を転写形成するというものであり、ドラムに巻き付けることのできない撓み変形の小さい支持体への記録ができるようにしたXYステージ式の記録装置である。

【0038】

ここで記録対象とする支持体としては、ガラス基板、石、金属、セラミック等の折り曲げることのできないものを想定している。支持体としてガラス基板等を使用した場合には、本記録装置によって、液晶用ブラックマトリクスや液晶用カラーフィルタ等を形成することができる。例えば、三色の異なる転写シートであるレッド、グリーン、ブルーの転写シートのそれぞれを用いて、レッド、グリーン、ブルーのストライプを繰り返し配置するストライプ状パターンを形成することにより、ガラス基板等の支持体に、カラー液晶表示装置のカラーフィルタを形

成することができる。この場合、各色専用の転写シートを用いることにより、各色に対する色調の均一化を図ることができ、高精度なカラーフィルタを得ることができる。また、上述した硬質の材料の他に、軟質の材料であっても、例えば固定板に貼り付ける等の常套手段を用いることで、本記録装置により同様にして記録できる。

【0039】

また、この記録装置では、転写シートを記録部に供給する前に、画像形成層を受け止める受像層を有する受像シートを記録部に供給して、支持体の記録面上に受像層を重ね合わせ、受像シートの受像層を支持体に密着させた後、受像シートを支持体から剥離することにより、受像層を支持体に転写して記録層を形成するようにしている。こうすることで、受像層を有しない支持体に対しても、本方式による画像記録が可能となる。

【0040】

まず、本記録装置の基本構成及び基本動作を説明する。

図1は本発明に係る記録装置の概念的な構成を表したブロック図、図2は支持体の断面図、図3は図1に示した記録装置の構成を示す側面図である。

本実施形態による記録装置100は、その主要な構成として、記録対象の支持体23を保持し且つ支持体23の記録面25と平行な面に沿って移動自在なステージ（支持体保持手段）27と、スタンバイ位置65から記録原点位置69へ移動してレーザービームにより形成した複数のスポットで画像を記録する記録ヘッド29と、ステージ27に保持した支持体23に記録媒体（受像シート又は転写シート）を供給する記録媒体供給部31と、詳細は後述するが、記録媒体を押圧して支持体23の記録面25に密着させる加圧ローラと、記録媒体を支持体23から剥離する第1の剥離手段（図示略）と、記録媒体のうち転写シートを複数回の記録に使い回しするときに記録が行われた後の転写シートを支持体23から剥離し且つそれを保持して、次にステージ27上に搬入された支持体23の記録面上に、保持した転写シートを供給する第2の剥離手段（剥離保持手段）200とを有している。本発明に係る記録装置は、この第2の剥離手段200を備える点に特徴を有するが、第2の剥離手段200についての詳細は後述することにする。

。

【0041】

記録装置100は、これら主要構成に加えて、支持体23を積層して載置する支持体供給部33と、支持体供給部33から支持体23をステージ27へ搬送するための詳細を後述する搬入機構49と、画像の転写された支持体23をステージ27から排出する後述の排出機構51と、排出機構51によって排出した支持体23を積層して載置する支持体受部35とを付設している。また、図1中の37は、使用済みの記録媒体を廃棄する廃棄箱を示す。

【0042】

ここで、記録装置100は、ステージ27、記録ヘッド29を有する記録部39と記録媒体供給部31との外周を、レーザ漏出防止の安全上の観点から遮蔽フレーム41により覆うことが望ましい。なお、この遮蔽フレーム41には、支持体23を搬入・排出するための開閉可能な通過開口部や、使用済み記録媒体を排出する通過開口部を設けている。

【0043】

液晶用ブラックストライプ、又は液晶用カラーフィルタを形成する目的で本記録装置100を用いる場合には、少なくとも記録装置100の本体と、支持体供給部33、支持体受部35をクリーンルーム内に設置する。

【0044】

図2に示すように、この支持体23としては、記録面25に予め機能層（即ち、トナー層（画像形成層）を受け止める受像層26）の形成された支持体23を用いてもよい。この機能層は例えばシアンカップリング処理によっても得られる。これによりトナー層の転写性が向上すると共に記録工程が簡略化される。また、支持体23は、この機能層を有することなく、本記録装置100において受像層26を転写形成するものであってもよい。また、支持体上に直接転写可能な転写シートもあり、この場合には機能層を設けることなく記録を行うことができる。本実施形態においては、受像層26を有しない支持体23に、本記録装置100を用いて受像層87cを転写形成する場合を例として説明する。

【0045】

次に、本実施形態の記録装置 1 0 0 の詳細を以下に順次説明する。

図 4 は支持体供給部における支持体の積載状態を表す斜視図である。

支持体供給部 3 3 は、複数の支持体 2 3 を所定間隔で積層して載置するよう構成されている。通常、支持体 2 3 は、埃等が降り積もらないようにするため、記録面 2 5 が下側となるようにして載置する。また、支持体 2 3 は、記録面 2 5 に極力異物が付着しないようにするため、点接触で支持することが望ましい。この点接触による支持は、例えば図 4 に示す先端の尖った形状のピン 4 5、或いは先端が球面のピンを用いる。ピン 4 5 は、支持体 2 3 が四角形である場合には、四隅を支持できるように少なくとも 4 本を配設する。また、支持体 2 3 の大きさや曲げこわさに応じて、必要とあれば 4 本以上ピンを配設してもよい。

【 0 0 4 6 】

一枚の支持体 2 3 を支持する四本のピン 4 5 は、図示しない枠体等によって図 3 に示すように支持体供給部 3 3 の台座 4 7 に多段状に配設される。この台座 4 7 は、最上層の支持体 2 3 が所望の高さとなるように、昇降機構を有することが好ましい。この場合、昇降機構の高さ制御方法としては、支持体 2 3 の重量を検出して、支持体 2 3 の減少数に応じて高さを一定に管理する方法や、最上層の支持体 2 3 の位置を検出して高さを一定に管理する方法、或いは支持体 2 3 の厚さを記憶しておき、使用枚数を減算しながら高さを管理する方法等を採用することができる。

【 0 0 4 7 】

記録装置 1 0 0 は、支持体供給部 3 3 とステージ 2 7 との間に搬入機構 4 9 を有している。また、記録装置 1 0 0 は、ステージ 2 7 と支持体受部 3 5 との間に排出機構 5 1 を有している。これらの搬入機構 4 9 及び排出機構 5 1 は、支持体 2 3 を保持するための真空吸引方式の吸盤 5 3 を有している。吸盤 5 3 は、少なくとも 3 個以上設け、好ましくは 4 個とする。それぞれの吸盤 5 3 には図示しないエア配管を接続し、このエア配管の端部には真空ポンプやブロア等の吸引源 5 5 を接続する。なお、吸盤の数は、支持体 2 3 のサイズ等により、必要に応じて増やしてもよい。

【 0 0 4 8 】

搬入機構 49 及び排出機構 51 は、吸盤 53 を基台 57 に取り付けている。基台 57 は、図示しないスライドレール又はガイド溝によって、ステージ 27 と、搬入機構 49 又は排出機構 51 との間を往復できるようになっている。この基台 57 は、電動モータ、エアシリンダ、油圧シリンダ等のいずれかの駆動源を用いて駆動させる。また、搬入機構 49、排出機構 51 は、上記した構成を一体化したリニアモータや、ロボットアームを用いるものであってもよい。

【0049】

記録装置 100 の本体は、記録ヘッド 29 の画像形成回路、記録ヘッド 29 の駆動モータ、ステージ 27 の駆動モータ、搬入機構 49、排出機構 51、第 2 の剥離手段 200、吸引源 55 等を制御する主制御部 59 と、この主制御部 59 や吸引源 55 並びに各駆動モータ等へ電源を供給する電源部 61 を備えている。また記録装置 100 は、主制御部 59 とホストコンピュータ 63 とを通信線で接続し、画像形成制御、支持体 23 の供給及び排出等の制御が制御信号の送受信によって行えるようになっている。

【0050】

次に、支持体供給部 33 から支持体 23 を取り出してステージ 27 へ搬入する動作について説明する。

図 5 は記録ヘッド 29 とステージ 27 の動作を説明する平面図、図 6 は搬入機構 49 の基台 57 が支持体供給部 33 に進入して支持体 23 を吸着するまでの動作を (a) ～ (d) で示した動作説明図、図 7 は搬入機構 49 が支持体 23 を保持して上昇し支持体供給部 33 から支持体 23 を取り出すまでの動作を (e) ～ (h) で示した動作説明図である。

【0051】

図 5 に示すように、記録装置 100 の本体において、記録ヘッド 29 は、ステージ 27 上から記録ヘッドスタンバイ位置 65 へ退避させておく。また、ステージ 27 は、支持体 23 の供給位置 67 に移動させておく。ここで、記録部 39 は、図 1 に示すように、中心位置が記録ヘッド 29 の記録原点位置 69 となる。またステージ 27 の移動範囲は、記録原点位置 69 を中心として、各面積がステージ 27 と同面積の第一象限、第二象限、第三象限、第四象限の範囲となる。つま

りステージ 27 は、縦横サイズの二倍の距離を移動可能となっている。これにより記録原点位置 69 に位置した記録ヘッド 29 は、ステージ 27 上の全ての位置に相対的に走査可能となっている。

【0052】

搬入機構 49 は、図 6 (a) に示すように、基台 57 を、支持体供給部 33 の最上層に載置した支持体 23 の上方まで略水平方向に移動させる。基台 57 は、支持体供給部 33 において上方に突出しているピン 45 と干渉しない寸法となっている。例えば、図 6 (b) に示すように、記録装置 100 側から支持体供給部 33 を見た位置関係において、Y 方向に並んだピン 45、45 の内側に、基台 57 及び吸盤 53 が進入可能となる位置関係となっている。

【0053】

略水平方向に移動された基台 57 は、図 6 (c) に示すように、支持体 23 の上方で停止する。次いで基台 57 は、図 6 (d) に示すように下降を開始して、吸盤 53 が支持体 23 に当接したときに下降を停止する。この停止の制御は、例えば吸盤 53 に加わる反力を圧力センサ等により検出することで行うことができる。また、停止の制御は、下降の移動量を検出することで行ってもよい。

【0054】

搬入機構 49 は、吸盤 53 が支持体 23 に当接した状態で、吸引源 55 を駆動させて吸盤 53 に負圧を作用させる。この際、エア配管中の真空度が所定値になるまで基台 57 の上昇動作を保留する。エア配管内の真空度が所定値となった後、図 7 (e) に示すように、基台 57 を上昇させ、支持体 23 をピン 45 から浮上させて吸着保持する。支持体 23 は、吸盤 53 による吸着面と反対側の面（図 7 (f) の下面）が記録面 25 となる。このため、記録面 25 には吸盤による吸着跡が残ることはない。

【0055】

支持体 23 を保持した基台 57 は、図 7 (f) に示すように、略水平方向に記録装置 100 本体側へ移動する。このようにして支持体供給部 33 から支持体 23 を取り出した基台 57 は、図 7 (g) に示すように、記録装置 100 の本体手前で一旦停止する。次いで、図 7 (h) に示すように、基台 57 は、搬入機構 4

9の図示しない反転装置によって上下を反転させ、記録面25が上向きとなるようにして支持体23を支持する。基台57は、この支持姿勢のまま、遮蔽フレーム41に形成した図示しない搬入開口部を通過して、支持体23をステージ27の上方まで搬入する。

【0056】

ここで、図8は底面からピンを突出させた状態のY方向から見たステージ27を表す断面図、図9は凹部に支持体を収容したステージ27の平面図、図10は凹部に支持体を収容したステージ27の断面図である。

【0057】

図8に示すように、ステージ27の上面には、支持体23の厚みと略同一の深さとなった平面視四角形状の凹部71を形成している。この凹部71は、ザクリ加工等により形成され、図9に示すように内部に支持体23を収容する。四角形状に形成した凹部71の対向する側面同士間の距離は、これら側面に対応する支持体23の対向する側面同士間の距離より長く形成されており、その結果、凹部71は、支持体23を遊びを有して収容している。

【0058】

また、この凹部71の底面には、支持体23を支持しながら持ち上げる昇降自在な複数のピン73が立設されている。また、凹部71は、直交する2つの側面のそれぞれに、対向する側面に向かって片寄せする突出自在な片寄せピン75を有している。

【0059】

図10に示すように、ステージ27は、凹部71周縁の土手部70及び凹部71の底面に、複数の吸引孔77を穿設している。この吸引孔77は、吸引源55にエア配管によって接続される。ステージ27は、吸引孔77からエアを吸引することで、支持体23を凹部71の底面に吸引固定するようになっている。なお、ステージ27の凹部71周縁の土手部70に穿設した吸引孔77は、後述する記録媒体を吸着固定するためのものである。

【0060】

図8に示すように。搬入機構49の基台57がステージ27の上方で停止した

際、ステージ 27 はピン 73 を突出させている。この状態で、基台 57 は下降する。基台 57 は、支持体 23 がピン 73 に接したときに下降を停止する。この下降停止の制御は、例えば吸盤 53 に加わる反力を圧力センサ等により検出することで行うことができる。また、停止の制御は下降の移動量を検出することで行ってもよい。

【0061】

搬入機構 49 は、基台 57 が停止するとエア配管を大気に開放する。すると支持体 23 がピン 73 により支持される。搬入機構 49 は、吸盤 53 内の真空度が大気圧となるまで動作を停止した後、基台 57 を遮蔽フレーム 41 の通過開口部から平面記録装置 100 の本体外部へと退避させる。ステージ 27 は、ピン 73 を下降させることにより、支持体 23 を凹部 71 内に載置する。ステージ 27 は、支持体 23 が凹部 71 の底面に接したなら、直交する 2 つの側面から片寄せピン 75 を対向する側面に向かって移動させる。これにより、支持体 23 は、図 9 に示すように直交する 2 つの側面が、凹部 71 の直交する 2 つの側面に当接し、XY 方向の位置決めが行われる。なお、図 9 に示した支持体 23 は、右上角部が記録原点位置 69 となる。

【0062】

次いで、ステージ 27 は、吸引源 55 によって吸引孔 77 からエアを吸気することで、支持体 23 を凹部 71 内の底面に吸引固定する。これにより、支持体 23 のステージ 27 への保持が完了する。

【0063】

ステージ 27 は、その上面に凹部 71 を設けたことにより、支持体 23 より面積の大きい記録媒体を重ねた際に、支持体 23 からはみ出した記録媒体をステージ 27 の凹部 71 周縁の土手部 70 に平坦なまま載せることができる。従って、段差による撓みやしわが記録媒体に生じ難くなり、記録面 25 に対する記録媒体の密着性が良好となる。

【0064】

次に、ステージに保持された支持体に対して記録を行うための構成について説明する。図 11 は記録媒体供給部 31 と記録部 39 とを表した要部構成図、図 1

2は平面記録装置に使用する受像シート及び転写シートの断面図である。

図11に示すように、記録媒体供給部31は、受像シート供給部81と、転写シート供給部（転写シート供給手段）83とを備えている。受像シート供給部81は、記録部39に対して受像シートを供給することができる。また、転写シート供給部83は、複数の種類の転写シートを供給することが可能であり、記録部39に対して複数の種類の転写シートの中から1種類の転写シートを選択的に供給することができる。

【0065】

受像シート供給部81は受像シートロール85を有している。受像シートロール85は芯に受像シート87が巻回されたものである。受像シート87は、図12(a)に示すように、支持層87aに受像層87cを積層したものである。支持層87aとしては、PET（ポリエチレンテレフタレート）ベース、TAC（トリアセチルセルロース）ベース、PEN（ポリエチレンナフタレート）ベース等を用いることができる。受像層87cは、転写されるトナーを受け止める働きをなす。

【0066】

受像シート供給部81は、さらに、受像シート搬送部89を有している。受像シート搬送部89は、モータ（図示なし）と、駆動伝達用のベルト又はチェーン（図示なし）と、搬送用ローラ91、93と、支持ガイド95と、受像シート切断部97と、受像シートの端点を検出する検出センサ（図示なし）とを有している。搬送用ローラ91及び搬送用ローラ93はそれぞれ一对のローラを有している。このような駆動機構によって、受像シート87を記録部39へ送出或いは記録部39から戻したりすることができる。

【0067】

受像シートロール85は、先端部が搬送用ローラ91に挟まれた状態で、モータ等の前述の駆動機構によって受像シート87が引き出される。これによって、受像シートロール85は回転し、受像シート87が繰り出されていく。受像シート87はさらに搬送用ローラ93に挟まれ、支持ガイド95に案内されて搬送される。

【0068】

受像シート搬送部 89 によって搬送された受像シート 87 は、受像シート切断部 97 によって所定の長さに切断される。長さの測定には光センサ等の検出センサが利用される。即ち、受像シート 87 の先端を検出センサにより検出し、モータの回転数等を考慮すること等によって長さを測定できる。受像シート 87 は、この測定結果に基づいて所定の長さに切断され、記録部 39 へと供給される。受像シート切断部 97 は、図示しないカッタの他に支持部やガイドを有する。上記の駆動により受像シートロール 85 から繰り出された受像シート 87 は、上述した受像シート長の測定結果に基づいて、その搬送が停止された後、カッタによって所定の長さに切断される。

【0069】

以上のようにして、受像シート供給部 81 は、受像シートロール 85 の一部を繰り出して切断することによって、所定の長さの受像シート 87 を記録部 39 に対して供給する。

【0070】

一方、転写シート供給部 83 は回転ラック 99 を有している。この回転ラック 99 は、後述するように回転軸 101 を中心に回転駆動される。また、回転ラック 99 には、複数（図では 6 個）の転写シートロール 103 が収容されており、各転写シートロール 103 は回転軸 101 を中心にして「放射状」に配置されている。各転写シートロール 103 は、芯と、それに巻回される転写シート 7 と、芯の両側から差し込まれるフランジ（図示なし）とを有している。各々の転写シートロール 103 は、各芯を中心に回転自在に保持されている。フランジの外径は転写シート部分の径よりも大とすることで、転写シート部分が崩れないようになっている。

【0071】

各転写シート 7 は、図 12（b）に示すように、支持層 7a、光熱変換層 7b、剥離可能な画像形成層（トナー層）7c を、この順序に積層したものである。支持層 7a は、レーザ光が透過する物であれば、一般的な支持体材料（例えば上記した受像シート 87 の支持層 87a と同じ支持体材料）から任意のものを選択

できる。光熱変換層 7b は、レーザエネルギーを熱に変換する働きをする部分である。この光熱変換層 7b の材料としては、カーボン、黒色物質、赤外吸収色素、特定波長吸収物質等、光エネルギーを熱エネルギーに変換する物質であれば、一般的な光熱変換材料から任意のものを選択できる。画像形成層であるトナー層 7c としては、例えばブラック (K)、レッド (R)、グリーン (G)、ブルー (B) の 4 色の他、印刷用のシアン (C)、マゼンタ (M)、イエロー (Y) や、特色と呼ばれる金、銀、オレンジ、グレー、ピンク等がある。

【0072】

転写シートロール 103 においては、トナー層 7c が支持層 7a に対して外側になるように巻回されている。後述するように、トナー層 7c はトナーインクを有しており、このトナーインクがレーザ露光により受像シートに転写される。

【0073】

図 11 では、6 つの転写シートロール 103 が回転ラック 99 内に收容されている場合が示されている。この 6 種類の転写シートとしては、例えば、上記したブラック、レッド、グリーン、ブルーの 4 色の転写シートが含まれている。

【0074】

回転ラック 99 は、さらに、これらの複数の転写シートロール 103 のそれぞれに対応して、それぞれ転写シート繰り出し機構 107 を有している。この転写シート繰り出し機構 107 は、フィードローラ 109 と支持ガイド 111 とから成っている。図の例においては、このような転写シート繰り出し機構 107 が 6 つ設けられている。フィードローラ 109 はローラ 109a、109b を有しており、ローラ 109a は、後述するようにギヤ機構によってモータと接続され、モータによって駆動される。ローラ 109a は、ローラ 109b との間で所定の圧力で転写シート 7 を挟み込むことができる。そして、ローラ 109b は、ローラ 109a の回転とは逆向きに回転することによって、転写シート 7 を搬送する。転写シート 7 は、ローラ 109a、109b によって挟持され、送り出されたり或いは逆に戻されたりすることが可能である。また、転写シート 7 の搬送に伴って、転写シートロール 103 が回転する。

【0075】

このような構造を有する転写シート繰り出し機構 107 によって、転写シート 7 が記録部 39 に対して供給される。転写シート 7 の先端がフィードローラ 109 に挟まれた状態において、モータ等の前述の駆動機構によってフィードローラ 109 を駆動する。この駆動により転写シート 7 は繰り出されていく。また、転写シート 7 は、さらに後述する転写シート搬送部 113 において、所定長さに切断されて記録部 39 に対して供給される。

【0076】

以上のように、複数の転写シートロール 103 を収容する回転ラック 99 は、所望の種類の転写シート 7 を、転写シート搬送部 113 に対して選択的に供給することができる。

【0077】

転写シート搬送部 113 は、モータ（図示なし）と、駆動伝達用のベルト又はチェーン（図示なし）と、搬送用ローラ 115、117 と、ガイド 119 と、転写シート切断部 121 と、転写シートの端を検出する検出センサ（図示なし）とを有している。搬送用ローラ 115、117 は、それぞれ一对のローラを有している。これらローラ 115、117 は、駆動伝達用のベルト又はチェーンによってモータと接続されており、モータによって駆動されて、転写シート 7 を搬送する。

【0078】

このような駆動機構によって、転写シート 7 を記録部 39 の方へ送出したり、或いは逆に戻したりすることができる。また、このようにして搬送された転写シート 7 は、転写シート切断部 121 によって所定の長さに切断される。転写シート 7 の長さの測定には、光センサ等の検出センサが利用される。即ち、転写シート 7 の端を検出センサにより検出し、モータの回転数等を考慮すること等によって長さを測定できる。転写シート 7 は、この測定結果に基づいて所定の長さに切断され、記録部 39 へと供給される。転写シート切断部 121 は、図示しないがカッタの他に支持部やガイド等を有する。

【0079】

以上のようにして、転写シート供給部 83 は、転写シートロール 103 の一部

を繰り出して切断することによって、所定の長さの転写シート 7 を記録部 39 に対して供給する。

【0080】

上記の転写シート 7 が繰り出されて消費されると、使用済みの転写シートロール 103 を取り外して、新しい転写シート 7 と交換する必要がある。この転写シートロール 103 の交換は、記録装置 100 の上部又は側部に設けた図示しない蓋を開けて行うことができる。この際には、回転ラック 99 を回転させることにより、交換対象の転写シートロール 103 を、蓋に対応する所定の交換位置に移動させておく。一方、受像シートロール 85 の交換も、蓋を開けることによって行う。

【0081】

記録媒体供給部 31 のガイド 95、119 と、記録部 39 との間には、記録媒体供給部 31 から送られた記録媒体（受像シート 87 又は転写シート 7）が載るガイド板 123 が設けられている。ガイド板 123 は、ステージ 27 の移動に干渉しないように、上昇又は折り畳まれて退避するようになっている。

【0082】

ガイド板 123 の上方には、記録媒体の幅方向（図 11 の紙面垂直方向）に複数の吸盤を並べた吸盤列 125 を配設している。この吸盤列 125 は、吸引源 55 にエア配管によって接続され、さらに支持アーム等によって昇降方向及びステージ移動面に対して平行方向に移動自在に支持されている。吸盤列 125 は、ガイド板 123 の上方から下降することにより、ガイド板 123 上に載った受像シート 87（又は転写シート 7）の端部をガイド板 123 に押し付けて吸着する。受像シート 87（又は転写シート 7）の端部を吸引保持した吸盤列 125 は、ステージ 27 の記録媒体供給部 31 側とは反対側端部（始端側）まで移動することで、受像シート 87（又は転写シート 7）を引き出す。これによって、ステージ 27 上に保持した支持体 23 の上面に、受像シート 87（又は転写シート 7）が重ねられる。ここで、受像シート 87 の幅（X 方向長さ）は支持体 23 の幅と略一致していることが望ましい。

【0083】

図 13 に剥離溝を設けたステージの凹部周縁の拡大斜視図を示した。

ステージ 27 の始端側である凹部 71 の周縁には、図 13 に示すように、第 1 の剥離手段の一構成要素としての剥離溝 127 が形成されている。剥離溝 127 は、ステージ 27 の右側面で開口し、後述の剥離爪が挿入可能となっている。吸盤列 125 によって引き出された受像シート 87（又は転写シート 7）の端部は、この剥離溝 127 を覆うようにしてステージ 27 上に被せられる。

【0084】

また、図 11 に示す記録部 39 のステージ 27 上方には、加圧ローラ（スクイズローラ）129 が配設され、このスクイズローラ 129 は昇降方向及び Y 方向に移動自在に支持されている。スクイズローラ 129 は、始端側に移動された吸盤列 125 の記録媒体供給部 31 側の近傍で下降して、受像シート 87（又は転写シート 7）の端部を押さえ付けた後、受像シート 87（又は転写シート 7）を押圧しながら記録媒体供給部 31 側へ転動することで、受像シート 87（又は転写シート 7）を支持体 23 にスクイズし、受像シート 87（又は転写シート 7）のシワを伸ばすように動作する。

【0085】

記録部 39 は、スクイズローラ 129 の他に、補助的にヒートローラを備えていてもよい。ヒートローラは、スクイズローラ 129 によるスクイズの終了した受像シート 87（又は転写シート 7）上を、さらに加熱押圧しながら転動する。このようなヒートローラを備えれば、スクイズローラ 129 のみを用いて受像シート 87（又は転写シート 7）を支持体 23 に密着させる場合に比べて、より高い密着力で受像シート 87（又は転写シート 7）を支持体 23 に密着させることができ、剥離強度を向上できる。また、このスクイズローラ 129 自身がヒートローラを兼ねていてもよい。

【0086】

上述の手段を用いて支持体 23 の記録面上に受像シート 87 を密着させたら、次に、支持体 23 に密着した受像シート 87 を剥離することで、支持体 23 の記録面 25 に受像層 87c を形成する。

【0087】

図 14 は記録部近傍の受像シート 87 の剥離動作を示す説明図である。記録部 39 は、昇降方向及び Y 方向に移動する第 1 の剥離ローラを有している。本記録装置では、この第 1 の剥離ローラは、スクイーズローラ 129 が兼用している。

【0088】

また、記録部 39 は、図 13、図 14 に示すように、ステージ 27 の始端側に剥離爪 131 を有している。この剥離爪 131 は、上記したステージ 27 の上面に設けた剥離溝 127 に進入可能に設けられ、不使用時にはステージ 27 等との干渉を避けるため、退避位置に移動するようになっている。

【0089】

受像シート 87 の剥離の際は、剥離ローラを兼ねたスクイーズローラ 129 を吸盤列 125 の剥離進行方向上流側近傍に下降させ、受像シート 87 の端部近傍をスクイーズローラ 129 によって押圧する。次いで、吸盤列 125 を少し上昇させ、剥離溝 127 に剥離爪 131 を進入させる。そして、剥離爪 131 をステージ 27 や支持体 23 に干渉しない位置まで少し上昇させ、スクイーズローラ 129 に接近する方向に移動させる。

【0090】

その後、図 14 (a) に示すように、スクイーズローラ 129 の位置を固定したままで、吸盤列 125 と、受像シート 87 と、支持体 23 と、ステージ 27 とを共に、スクイーズローラ 129 から離反する方向（-Y 方向）に移動させることで、剥離力がスクイーズローラ 129 の押し付け部に加わり、さらにこの押し付け部が支持体 23 の一方の端部から他方の端部へと相対移動することで、記録面全面からの受像シート 87 の剥離が可能となる。

【0091】

受像シート 87 が支持体 23 から剥離されることで、受像層 87c が支持体 23 の記録面 25 に転写され、支持層 87a のみとなる。この支持層 87a は、吸盤列 125 に吸引保持されたままとなる。吸盤列 125 は、支持層 87a を吸引保持した状態で、図 14 (b) 中の右方向（-Y 方向）に移動し、遮蔽フレーム 41 に設けた通過開口部を通過して、不要となった支持層 87a を廃棄箱 37 に投入して廃棄する。

【0092】

次いで、受像層 87c を形成した支持体 23 の上面には、記録媒体供給部 31 から受像シート 87 と同様にして転写シート 7 が供給される。転写シート 7 は、記録媒体供給部 31 の転写シート搬送部 113 から供給される。この転写シート 7 の面積はステージ 27 の凹部 71 の面積、つまり支持体 23 の面積より大きくなっており、支持体 23 からはみ出した転写シート 7 の周縁は、ステージ 27 の凹部 71 周縁の土手部 70 に載った状態となる。この状態で、吸引孔 77（図 10 参照）からエアーを吸引し、転写シート 7 の周縁を凹部 71 周縁の土手部 70 に吸着固定して、転写シート 7 を支持体 23 の記録面に密着させる。

【0093】

次に、この転写シート 7 の上方から、記録ヘッド 29 を転写シート 7 に対して相対的に走査して露光記録を行う。図 15 は記録ヘッド 29 と支持体 23（転写シート 7）との相対移動方向を表す斜視図、図 16 は記録ヘッドのスポット列による記録動作を示す説明図で、（a）は記録ヘッド 29 により形成されるスポット列を表す説明図、（b）はスポット列を走査することによる記録過程の説明図である。

【0094】

この記録動作は、図 15 に示すように、記録ヘッド 29 を記録原点位置から X 方向へ主走査すると共に、Y 方向へ副走査することによって行われる。記録開始時にはステージ 27 は原点位置にあり、記録ヘッド 29 はスタンバイ位置 65（図 1 参照）から記録原点位置 69 へと移動する。記録に際し、記録ヘッド 29 は記録面 25 の全面を走査することになるが、この走査は、記録ヘッド 29 のみの移動、ステージ 27 のみの移動、或いは記録ヘッド 29 及びステージ 27 の双方の移動によって行うもののいずれであってもよい。つまり、記録ヘッド 29 と支持体 23 とが相対的に移動すればよい。本実施形態では、記録ヘッド 29 を記録原点位置 69 に固定し、ステージ 27 を X Y 方向に移動する場合を例に説明する。

【0095】

記録ヘッド 29 は、レーザービーム Lb の照射により、図 16 に示すように、

複数のスポット S_p を転写シート 7 の背面に形成する。これらスポット S_p は、少なくとも副走査方向に複数個を並べて形成される。これら複数のスポット S_p は、図 17 に記録ヘッド 29 の模式的な拡大図を示すように、副走査記録方向上流端のスポット S_{p1} が副走査記録方向下流端のスポット S_{p2} より主走査記録方向下流側に配置される向きで傾斜させることが好ましい。つまり、スポット配列を一次元配列として、副走査記録方向上流端のスポット S_{p1} が副走査記録方向下流端のスポット S_{p2} より主走査記録方向下流側に配置される向きで傾斜させることで、記録時に、記録局部で発生したガスが副走査記録方向下流側に逃がされる。これにより、記録済領域のトナー層 7c と受像層 87c との間にガスが残留することがなくなり、その結果、トナー層 7c と受像層 87c との密着性が保たれ、画像欠陥が防止されて、良好な画像が得られるようになる。

【0096】

記録ヘッド 29 には、ホストコンピュータ 63 から、主制御部 59 を介して画像、文字等のパターンデータが送られる（図 3 参照）。また、ホストコンピュータ 63 からは主制御部 59 を介してステージ 27 等の駆動モータに移動制御信号が送られる。これにより、記録ヘッド 29 と支持体 23 とが相対的に移動制御され、転写シート 7 に画像が形成される。本実施形態では、上記の相対動作によって記録範囲の全面を走査し、画像データの存在する部分のみレーザービーム L_b を照射して記録を行う。

【0097】

次に、上記のように構成した記録装置 100 によって所望の画像を支持体 23 に記録する一連の基本的な手順を図 18 に基づいて説明する。なお、転写シートを複数回の記録に使い回しする場合の手順については後で詳しく述べる。

【0098】

以下では、ブラック（K）、レッド（R）、グリーン（G）、ブルー（B）の 4 色を用いて、ブラックマトリクスやカラーフィルタ形成のための画像（ストライプ状のパターン）を記録する場合についての動作手順を説明する。

【0099】

図 18 は記録工程を概念的に表した説明図である。

図18に示すように、先ずステップ1において、支持体供給部33（図3参照）から支持体23を搬入機構49によって記録部39に供給する。即ち、記録部39のステージ27に、上記した動作手順によって支持体23を凹部71に固定する（図10参照）。

【0100】

次いで、ステップ2にて、記録媒体供給部31からステージ27上の支持体23に受像シート87を供給し、受像シート87を載せる（図11参照）。受像シート87は、スクイーズローラ129によって支持体23に密着させる。

この後、受像シート87は、ステップ3において、ヒートローラを用いてさらに加熱圧着（即ち、ラミネート）してもよい。

【0101】

次いで、ステップ4にて、受像シート87を支持体23から剥離することにより、受像シート87の受像層87cを支持体23に転写する。受像層87cが転写された支持層87aは、吸盤列125によって記録部39から搬出し、廃棄箱37に廃棄する。なお、以上のステップ2～ステップ4は、支持体上に直接転写する場合や、受像層を予め備えた支持体の場合には不要となる。

【0102】

次いで、ステップ5にて、記録媒体供給部31の転写シート供給部83から転写シート7をステージ27上に供給する。転写シート7は、所定長に切断されたものが、スクイーズローラ129によって支持体23上に密接される。この後、転写シート7は、受像シート87の場合と同様に、ステップ6にてヒートローラを用いてさらに加熱圧着（即ち、ラミネート）してもよい。

【0103】

次いで、ステップ7にて、予め与えられた画像データに基づいて、転写シート7上に記録ヘッド29からレーザービームLbが出射され、スポットSpの所定のものがオンオフ制御されると共に、これに同期してステージ27が移動される。つまり、所定のスポットSpが転写シート7の背面（図18の上面）を画像様に走査する。ここで、与えられた画像データは、各色ごとの画像にさらに色分解されており、レーザ露光は、色分解された各色ごとの画像データに基づいて行わ

れる。これにより、支持体 2 3 の受像層 8 7 c に転写シート 7 のトナー層 7 c が転写され、支持体 2 3 上に本例において最初の記録色であるブラック（K）での画像が形成される。

【0 1 0 4】

以上のようにしてブラック（K）の画像記録が終了したなら、ステップ 8 にてブラックの転写シート 7 を支持体 2 3 から剥離する。基本動作における転写シート 7 剥離（転写シートの廃棄時）は、受像シート 8 7 の場合と同様の手順で行う。また、転写シート 7 を複数回使い回すときは、後述する第 2 の剥離手段（剥離保持手段）を用いて剥離する。いずれの場合も、支持体 2 3 に密着した転写シート 7 を剥離することで、支持体 2 3 の受像層 8 7 c に転写シート 7 の色の画像が形成される。

【0 1 0 5】

そして、別の種類の転写シート 7 の供給が必要な場合は、上記のステップ 5 ～ 8 までの処理を繰り返す。つまり、他のレッド、グリーン、ブルーの各色の転写シート 7 について、ステップ 5 ～ 8 までの各動作が繰り返される。その結果、4 色のトナー層 7 c のトナーインク K R G B が 1 枚の支持体 2 3 に転写され、支持体 2 3 の記録面 2 5 上に所望のパターン画像が形成される。

【0 1 0 6】

記録の終了した支持体 2 3 は、排出機構 5 1 によって記録部 3 9 から排出して支持体受部 3 5 にスタックする。この排出動作では、先ず、ステージ 2 7 の吸引孔 7 7（図 1 0 参照）からの吸引を解除する。次いで、凹部 7 1 の底面からピン 7 3 を突出させて、支持体 2 3 をステージ 2 7 から浮上させた状態に支持する。次いで、排出機構 5 1 の基台 5 7 を支持体 2 3 の下面側に進入させる。この際、基台 5 7 は、吸盤 5 3 が上向きの状態となっている。次いで、基台 5 7 は、上昇を開始し、吸盤 5 3 が支持体 2 3 に当接したとき、上昇を停止する。

【0 1 0 7】

排出機構 5 1 は、吸盤 5 3 が支持体 2 3 に当接した状態で、吸引源 5 5 を駆動させて吸盤 5 3 に負圧を作用させる。この際、エア配管中の真空度が所定値になるまで、基台 5 7 の上昇動作を保留する。エア配管内の真空度が所定値となった

後、基台 57 を上昇させ、支持体 23 をピン 73 から浮かせて吸着保持する。この際、支持体 23 は、吸盤 53 による吸着面と反対側の面（上面）が記録面 25 となるため、記録面 25 に形成された画像を傷つけることがない。

【0108】

支持体 23 を保持した基台 57 は、略水平方向に移動する。このようにして記録部 39 から支持体 23 を取り出した基台 57 は、遮蔽フレーム 41 の通過開口部を通過した直後、一旦停止する。基台 57 は、この位置で、排出機構 51 の図示しない反転装置によって上下を反転させ、記録面 25 が下向きとなるようにして支持体 23 を支持する。基台 57 は、この支持姿勢のまま、支持体 23 を支持体受部 35 の上方まで搬入する。

【0109】

支持体受部 35 は、支持体供給部 33 と同様に、支持体 23 を間隔を有して積載するピン 45 を有している。排出機構 51 の基台 57 は、水平移動してこのピン 45 の上方に支持体 23 を位置合わせして停止する。次いで、基台 57 は、下降を開始し、支持体 23 がピン 45 に当接したとき、下降を停止する。

【0110】

排出機構 51 は、この停止位置で、エア配管中の真空度が所定値になるまで、基台 57 の上昇動作を保留する。エア配管内の真空度が所定値となった後、即ち吸盤 53 による吸引保持が解除された後、基台 57 を上昇させ、支持体 23 をピン 45 上に受け渡す。支持体 23 を支持体受部 35 に排出させた基台 57 は、次の支持体 23 の排出に備えて待機位置へと移動する。

【0111】

以上の各動作を繰返すことにより、複数の支持体 23 に、ブラックマトリクスやカラーフィルタ等のパターンを連続的に形成することができる。

【0112】

なお、上記の説明では、記録ヘッド 29 を記録原点位置 69 に固定し、ステージ 27 を主走査方向及び副走査方向に移動する場合を例に説明したが、ステージ 27 を固定とし、記録ヘッド 29 を主走査方向及び副走査方向に移動する構成としてもよい。

【0113】

以上、記録装置100の基本構成及び基本動作を中心に説明した。次に、転写シートを複数回の記録に使い回しする場合の構成と動作について説明する。ここでは、説明の簡単化のため、1種類の転写シート（例えばレッド＝R）を複数回の記録に使い回す場合について述べる。

【0114】

図19に転写シートを複数回の記録に使い回す場合の転写シートの剥離動作を説明する動作図説明図を示した。

構成としては、まず、図19に示すように、第2の剥離手段（剥離保持手段）を構成する剥離ローラ201が主体となる。剥離ローラ201は、記録が行われた後の転写シート7を支持体23から剥離すると共に剥離した転写シート7を保持し、次の記録のためにステージ27に搬入された支持体23の記録面上に、保持した転写シート7を重ね合わせる役目を果たすものである。この剥離ローラ201は、ステージ27の上方空間に移動自在に設けられており、前述した基本動作の際には、他の手段との干渉を避けるように、図19（a）に示すよう初期位置に退避している。

【0115】

剥離ローラ201は、転写シート7の供給方向（長さ方向＝Y方向）と直交する方向（X方向）に軸線に向けて設けられており、剥離動作の開始指令が出されると、前記の初期位置から、ステージ27上の支持体23の上に重ね合わされた転写シート7の始端（図中右端）の上方位置まで所定の経路で移動し、転写シート7の上面に下降する。

【0116】

そして、その状態で図19（b）に示すように、剥離ローラ201とステージ27を相対的にY方向に移動しつつ、その移動速度に見合った速度で剥離ローラ201を回転させることにより、転写シート7を始端から剥離ローラ201の外周（円筒体周面）に巻き取って行く。最終的に巻き取りが終了して剥離ローラ201が転写シート7を保持すると、剥離ローラ201は図19（c）に示すように、初期位置または保管位置に移動して停止する。

【0117】

図20に剥離ローラ201の具体的構成例を示す外観斜視図(a)と、その外周面の展開図(b)を示した。この剥離ローラ201は、真空吸引により転写シート7を吸着保持するタイプとして構成されている。

【0118】

剥離ローラ201は、その周長が転写シート7の長手方向の長さ(Y方向の長さ)よりも長く設定されており、外周面に、転写シート7を吸引するための多数の吸引孔202を有している。吸引孔202は、剥離ローラ201の軸線方向に沿って列状に設けられ、各列が所定間隔をおいて周方向に配列されている。この場合、剥離ローラ201の周方向における吸引孔202の分布は、転写シート7の長手方向の端部を吸引するために配置密度が高く、長手方向の中間部を吸引する位置に向けて徐々に疎になっている。その疎密の分布は、吸引孔202の列の周方向間隔を変化させることにより形成している。特に、転写シート7の始端を吸引する位置の吸引孔203は、各吸引孔を連結した溝孔として形成し、吸着力を強めている。

【0119】

剥離ローラ201は、ローラ内空間部を図示略の吸引源(真空ポンプやブロー)によって負圧にすることで、各吸引孔202、203から外気を吸引し、それにより、外周面に接触する転写シート7を吸着する。この場合の吸引源は、ステージ27等の吸引源を共通に使用することができ、その場合は、吸引経路の切り替えを行う切り替え手段を設ける。

【0120】

なお、本実施形態においては、真空吸引により転写シート7を吸引保持するタイプの剥離ローラ201を示しているが、剥離ローラに転写シート7の先端を機械的にチャッキングできる機構を設けて、転写シートを剥離及び保持するように構成することも可能である。その場合、そのチャッキング機構は、エア駆動やモータ駆動とすることができる。また、通常は電力等のエネルギーを与えなくとも、チャッキング状態を保つことができるように、バネ等の保持部材を組み込んで構成することもできる。

【0121】

ただし、簡単な構成及び操作で転写シートの剥離、保持、支持体への戻し動作を行うには、真空吸引により転写シート7を吸着保持するタイプの方が、機械的なチャッキング機構を用いるタイプのものよりも優れる。

【0122】

図21は第2の剥離手段200を含む制御系のブロック図である。第2の剥離手段200は、剥離ローラ201を回転駆動する剥離ローラ回転駆動部211と、剥離ローラ201の回転方向の位置を検出する剥離ローラ回転方向位置検出部212とを有する。また、後述するように剥離ローラを軸方向へスライド可能に構成する場合には、剥離ローラ軸方向移動駆動部216と、剥離ローラの軸方向の移動位置を検出する剥離ローラ軸方向移動位置検出部217とを有する。これらの要素は全て主制御部59に接続されており、主制御部59が、各検出部212、217の検出信号に基づいて、各駆動部211、216に駆動信号を与えることで、剥離ローラ201の回転方向位置や軸方向位置を制御する。

【0123】

剥離ローラ回転方向位置検出部212は、エンコーダ装置等の高精度の角度検出装置で構成することにより、正確な回転方向位置が検出可能になる。また、回転方向の基準位置さえ検出できればよいという場合には、フォトセンサ等の簡易なセンサで構成することもできる。また、剥離ローラ回転駆動部211の駆動源としては、ステッピングモータやサーボモータ等を採用することが高い回転精度と制御の容易性を得る上で好ましい。また、各種モータにギヤ機構等を組み合わせることで、更に高精度の回転位置制御も可能となる。

【0124】

第2の剥離手段200は、その他の構成要素として、転写シート7の剥離動作や戻し動作を行うために、剥離ローラ201を所定の経路で移動させるローラ移動機構や、その位置合決め手段等を有している。また、剥離ローラ201を転写シート7の始端位置上方に位置合わせするための位置検出センサを有している。このように、適宜の位置にセンサを設けて、剥離ローラ201の位置検出ができるようにすることが望ましい。

【0125】

また、記録装置100の制御系には、図21に示すように、前述した吸引源55を構成する要素として、吸引装置251と吸引力調整部253とを設けている。吸引装置251は真空ポンプやブロア等よりなり、吸引力調整部253は流路切替弁や流量調整弁等の組み合わせよりなる。剥離ローラ201やステージ27等に設けられた吸引室は、吸引力調整部253を介して吸引装置251に接続されており、それにより、吸引力を自在に調整できるようになっている。また、記録部39の他の要素としては、記録ヘッド29とステージ駆動部260とが設けられている。ステージ駆動部260は、ステージ29をX方向及びY方向に移動させるものである。

【0126】

このように、上記した剥離ローラ回転方向位置検出部212を備えることにより、第2の剥離手段200は、吸着保持した転写シート7を支持体23の記録面上に戻すときに、剥離ローラ201の回転位置を精度良く制御することで、支持体23の記録面に対する転写シート7の戻し位置を任意に変更することができる。従って、転写シート7を剥離ローラ201上に保持させつつ周方向へ任意の量だけずらし、次に搬入された支持体23に対して、剥離ローラ201に保持した転写シート7を戻すことができる。この戻し動作について以下に説明する。

【0127】

図22(a)～(d)は、剥離ローラ201を用いて転写シート7を剥離して保持するまでの動作説明図、図23(a)～(e)は、保持した転写シート7を、次にステージ27上に搬入された支持体23の上に戻して重ね合わせるまでの動作説明図である。

【0128】

支持体23上の記録に使用した転写シート7を一時的に剥離して保持する場合には、まず、図22(a)に示すように、剥離ローラ201を転写シート7の始端上方に移動する。その際の位置決めには位置検出センサ220の信号を用い、センサ220が剥離ローラ201を検出したときに剥離ローラ201の駆動を停止する。転写シート7の始端上方まで剥離ローラ201を移動したら、剥離ロー

ラ 201 の始端吸着部 205（溝孔である吸引孔 203 を形成した部分に相当する）を、転写シート 7 の始端の直上に位置決めし、その状態で剥離ローラ 201 を下降することで、図 22（b）に示すように、剥離ローラ 201 の始端吸着部 205 を転写シート 7 の始端上面に接触させる。この状態で剥離ローラ 201 に真空吸引力を作用させることで、転写シート 7 の始端を吸着する。

【0129】

次に、その状態で剥離ローラ 201 を巻き取り方向に回転させながら、剥離ローラ 201 とステージ 27 とを、剥離ローラ 201 の周速に対応した速度で Y 方向に相対移動させる。すると、図 22（c）に示すように、転写シート 7 は、剥離ローラ 201 の外周面からの吸引力を受けているので、剥離ローラ 201 の外周面に巻き取られて行く。終端までの全長分を吸着したら、図 22（d）に示すように、剥離ローラ 201 を上方に移動して保管位置に待避させる。保管状態においては、ほとんど全部の吸引孔 202 が転写シート 7 で塞がれることになるので、吸引力を一定に制限した状態に保つ。

【0130】

このような剥離動作の際に、剥離ローラ 201 の吸引力とステージ 27 の吸引力（転写シート 7 の周縁部を吸着している）を各々制御し、無理なく転写シート 7 の巻き取りが行われるようにする。例えば、剥離ローラ 201 の吸引力を最大にした状態で、ステージ 27 の吸引力を巻き取りの進行に従って徐々に下げることによって、転写シート 7 を巻き取って行く。また、前述した剥離爪 131 を併用することにより、剥離しやすくすることもできる。また、真空吸引式でなく機械式のチャッキング機構を使う場合は、剥離開始時の転写シート 7 の固定を、剥離爪 131 の動きと連動させることで、簡単にチャッキングすることができる。

【0131】

次に、剥離ローラ 201 の外周面に保持した転写シート 7 を、新たにステージ 27 上に搬入した支持体 23 の上面に戻す場合は、まず、図 23（a）に示すように、剥離ローラ 201 を、ステージ 27 上の転写シート 7 を戻すべき位置の始端上方に設けた位置検出センサ 220 を用いて移動・停止する。剥離ローラ 201 を停止させたら、図 23（b）に示すように、剥離ローラ 201 を吸引孔 20

3が最下部となるように回転角 θ_p の制御を行う。このようにして、転写シート7の始端が吸着保持されている始端吸着部205を、ステージ27上の転写シート7始端を戻す位置の直上に位置決めする。この場合、転写シート7の始端を戻すべき位置は、支持体23を収容する凹部71周縁の土手部70であって、ここには吸引孔77が穿設されており、転写シート7を吸着可能にしている。

【0132】

次に、その状態で剥離ローラ201を下降することで、図23(c)に示すように、剥離ローラ201の外周に巻き取り保持してある転写シート7の始端を、ステージ27の始端側部分(図の右端)に接触させる。この状態で、ステージ27に真空吸引力を作用させることで、転写シート7の始端をステージ27上に吸着する。

【0133】

次に、剥離ローラ201の吸引力を徐々に弱めながら、図23(d)に示すように、剥離ローラ201を巻き戻し方向(=転写シート7を始端から巻き戻すので、巻き取り時と同一の方向)に回転させ、併せて剥離ローラ201とステージ27とを、剥離ローラ201の周速に対応した速度でY方向に相対移動させることにより、転写シート7を支持体23上に戻して行く。終端まで戻したら、図23(e)に示すように、剥離ローラ201を上方に移動して初期位置に待避させる。

【0134】

このように転写シート7を新たにステージ27上に搬入した支持体23の上に戻すときに、剥離ローラ201の回転角度を精度良く制御することができるので、先に剥離したときと略同じ位置に戻したり、先に剥離したときと周方向(転写シート7の長さ方向)に位置をずらして戻したりすることが任意に行える。

【0135】

なお、機械式のチャッキング機構を使う場合は、転写シート7の戻し開始時に、転写シート7のチャッキングを解除して、ステージ27の吸引をONにすればよい。その場合、ステージ27側の戻し予定位置の先端部に、転写シート7の始端を押さえる押さえ機構を設けておくと、より安定した動作で戻すことができる

。

また、図 22 (a) と図 23 (a) における剥離ローラ 201 の停止制御は、位置検出センサ 220 による方式以外にも、機械的な付き当てにより停止させたり、リミットスイッチにより停止させたり、リニア位置センサにより停止位置を制御する等の任意の方式が採用できる。

【0136】

次に、外周面上に保持した転写シートをステージ 27 上に戻すときに、X 方向に位置をずらして戻すことのできる剥離ローラの一構成例について述べる。

図 24 は自身の軸線方向にスライドできるように構成した剥離ローラ 271 を一例として示している。この剥離ローラ 271 は、中に通した支持軸 273 の周囲に回転自在に取り付けられており、支持軸 273 の一端が、ブラケット 275 に対して軸方向移動自在に固定されている。また、剥離ローラ 271 の他端に設けた軸部 277 が他方のブラケット 279 に対して回転自在に支持され、モータ 281 を駆動することで、ギヤ 283 を介して剥離ローラ 271 を回転させることができるようになっている。また、図中の 285 は、支持軸 273 を軸方向に変位させるスライド駆動部であり、このスライド駆動部 285 のモータ 286 を回転駆動することにより、支持軸 273 に取り付けた剥離ローラ 271 を、図 24 (a) に示す左端位置と、(b) に示す右端位置との間で軸方向にスライドさせることができるようになっている（剥離ローラ軸方向移動駆動部 216 に相当）。なお、前述した真空吸引方式を採用する場合は、剥離ローラ 271 の内部空間 282 を吸引源に接続する。

【0137】

この剥離ローラ 271 の支持機構には、図示しないが、前述の剥離ローラ軸方向移動位置検出部 217 が設けられており、軸方向の任意の位置で剥離ローラ 271 を位置決め停止することができるようになっている。例えば、少なくとも、初期位置と、ストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ及び 1.5 ピッチ分だけ初期位置から離間した位置との停止位置が設定されるように構成することが望ましい。また、対応の柔軟性を持たせるために、任意の位置に停止可能にすることが好ましい。

【0 1 3 8】

以上説明した機構を用いて、1枚の転写シートを複数回の記録に使い回す本発明の記録方法について詳細に説明する。

本発明の記録方法は、支持体 2 3 から転写シート 7 を剥離し、剥離した転写シート 7 を保持し、次に搬入した支持体 2 3 の記録面上に、剥離後の転写シート 7 を戻して重ね合わせ、転写シート 7 の記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体 2 3 への記録を行うというものである。ここでは、未記録部分で記録する際のずらし方を違えた幾つかの例を説明する。なお、ここで形成の対象とする最終画像は、レッド、グリーン、ブルーの同幅のストライプを等ピッチで順番に配したパターン画像であり、例えば、そのうちのレッド（R）の記録を行う場合を想定して以下の説明を行う。

【0 1 3 9】

（第 1 の記録方法）

図 2 5 は第 1 の記録方法の説明図、図 2 6 はその方法を実施する際の動作順序を示すフローチャートである。

第 1 の記録方法では、1回目には図 2 5（a）に示すように、転写シート 7 を支持体（支持体 A）2 3 の記録面上に重ねて 1 回目の記録を行う。この結果、支持体 A からの剥離後には、図 2 5（b）に示すような転写シート 7 が得られる。この転写シート 7 には、記録済みのストライプ部分（色抜けした記録済み部分 2）の間に、2 ストライプ分の相当面積を超える大きさの未記録部分（まだ使用可能な領域）3 が残る。

【0 1 4 0】

そこで、図 2 5（b）に示すように、次の支持体 B の上に重ね合わせる際に、剥離して保持した転写シート 7 を、支持体 2 3 の記録面上に剥離前と略同一位置で戻し、そして、ストライプ形状の長手方向と直交する方向（ストライプ形状の幅方向＝図 2 5 の左右方向）に、記録位置 5 を、ストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分ずらして記録する。即ち、ストライプ形状を含む画像データに、ストライプ幅で 1 ピッチ分の平行移動を指令する補正を加えることで、記録位置 5 を 1 ピッチだけずらして 2 回目の記録を行う。このようにして、記録済みのストライプ

イプ部分の間に存在する未記録部分 3 を用いて支持体 B への記録を行う。

【 0 1 4 1 】

この結果、支持体 B からの剥離後には、図 2 5 (c) に示すような転写シート 7 が得られる。この転写シート 7 には、記録済みのストライプ部分（色抜けした記録済み部分 2）の間に、1 本のストライプ分の相当面積を超える大きさの未記録部分（まだ使用可能な領域） 3 が残る。

【 0 1 4 2 】

そこで、3 回目には図 2 5 (c) に示すように、次の支持体 C の上に重ね合わせる際に、剥離して保持した転写シート 7 を支持体 C の記録面上に剥離前と略同一の位置で戻し、そして、ストライプ形状の長手方向と直交する方向（ストライプ形状の幅方向＝図の左右方向）に、記録位置 5 をストライプ形状の配置ピッチで更に 1 ピッチ分ずらして記録する。このようにして、前の 2 回の記録で残っている未記録部分 3 を用いて支持体 C への記録を行う。

【 0 1 4 3 】

3 回目の記録を終えると、図 2 5 (d) に示すように、転写シート 7 の未記録部分が、記録するストライプ形状の領域よりも狭くなるので、先に説明した基本動作に基づいて、つまり吸盤列 1 2 5 や剥離爪 1 3 1 を用いた剥離動作により、転写シート 7 を廃棄箱 3 7 へ排出する。

【 0 1 4 4 】

このように 1 枚の転写シート 7 で 3 回の記録を行い、3 回の記録後に使用できる未記録領域が少なくなった段階で、初めて転写シート 7 を廃棄するので、無駄なく転写シート 7 を使い切ることができ、転写シート 7 の有効利用を図ることができる。また、その結果、使用する転写シート 7 を減量させることができるので、製造コストの低減に寄与することができる。

【 0 1 4 5 】

次に、図 2 6 のフローチャートを用いて上記動作を説明すると、まず、ステップ 5 0 1（以降は、S 5 0 1 と略記する）で 1 回目の記録を行う支持体 A をステージ 2 7 上に搬入する。次いで、その支持体 A の上に転写シート 7 を搬入して（S 5 0 2）、正規位置で支持体 A の上に重ね合わせる（S 5 0 3）。この状態で

1 回目の記録を行う（S 5 0 4）。なお、ここでは簡略化のために受像シートの搬入の説明は省略する。

【0 1 4 6】

次に、1 回目の記録の終了後、転写シート 7 を支持体 A から剥離し（S 5 0 5）、記録済みの支持体 A を搬出する（S 5 0 6）。なお、転写シート 7 の剥離の手順は、前述の剥離ローラ 2 0 1 を使用した手順による。1 回目の支持体 A を搬出したら、次の 2 回目の記録を行う支持体 B をステージ 2 7 上に搬入する（S 5 0 7）。次いで、その支持体 B の上に、剥離ローラ 2 0 1 で保持している転写シート 7 を戻し、正規位置で支持体 B の上に重ね合わせる（S 5 0 8）。この状態で 2 回目の記録を行う（S 5 0 9）。その際、記録位置をストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分ずらして記録する。

【0 1 4 7】

2 回目の記録の終了後、転写シート 7 を支持体 B から剥離し（S 5 1 0）、記録済みの支持体 B を搬出する（S 5 1 1）。2 回目の支持体 A を搬出したら、次の 3 回目の記録を行う支持体 C をステージ 2 7 上に搬入する（S 5 1 2）。次いで、その支持体 C の上に、剥離ローラ 2 0 1 で保持している転写シート 7 を戻して、正規位置で支持体 C の上に重ね合わせる（S 5 1 3）。この状態で 3 回目の記録を行う（S 5 1 4）。その際、記録位置を更にストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分ずらして記録する。

【0 1 4 8】

3 回目の記録の終了後、前述の基本動作に基づいて転写シート 7 を支持体 C から剥離し（S 5 1 5）、その転写シート 7 を廃棄し（S 5 1 6）、記録済みの支持体 C を搬出する（S 5 1 7）。これにより、1 サイクルの動作を終了する。このように 3 回の記録動作を 1 サイクルとして繰り返し行うことにより、転写シート 7 の有効利用が図れる。

【0 1 4 9】

以上の第 1 の記録方法では、記録位置をストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分ずらして記録する場合を説明したが、記録位置を 1. 5 ピッチ分ずらして記録してもよい。

【0 1 5 0】**(第 2 の記録方法)**

図 2 7 は記録位置をストライプ形状の配置ピッチで 1. 5 ピッチ分ずらして記録する第 2 の記録方法の説明図、図 2 8 はその記録方法を実施する際の動作の順番を示すフローチャートである。

第 2 の記録方法では、図 2 7 (a)、(b) に示すように、1 回目の記録後の転写シート 7 に、2 ストライプ分の相当面積を超える大きさの未記録部分（記録に使用可能な領域）3 が残るので、位置的な余裕を持って 2 回目の記録を行うようにしている。

【0 1 5 1】

ここでは、図 2 7 (b) に示すように、剥離ローラ 2 0 1 で剥離して保持した転写シート 7 を、支持体（支持体 B）2 3 の記録面上に剥離前と略同一位置で戻した後、ストライプ形状の長手方向と直交する方向（ストライプ形状の幅方向＝図の左右方向）に、記録位置 5 を、ストライプ形状の配置ピッチで 1. 5 ピッチ分ずらして記録する。即ち、ストライプ形状を含む画像データに、ストライプ幅で 1. 5 ピッチ分の平行移動を指令する補正を加えることで、記録位置 5 を 1. 5 ピッチ分だけずらして 2 回目の記録を行う。これにより、記録済みのストライプ部分（記録済み部分 2）の間に存在する未記録部分 3 を用いて支持体 2. 3 への記録を行うことができる。

【0 1 5 2】

その結果、支持体 2 3 からの剥離後には、図 2 7 (c) に示すような転写シート 7 が得られる。この転写シート 7 の未記録部分は、記録するストライプ形状の領域よりも狭くなるので、先に説明した剥離の基本動作に基づいて、転写シート 7 を廃棄箱 3 7 へ排出する。

【0 1 5 3】

このように 1 枚の転写シート 7 で 2 回の記録を行うので、無駄なく転写シート 7 を使い切ることができ、転写シート 7 の有効利用を図ることができる。また、使用する転写シート 7 を減量できるので、製造コストの低減に寄与することができる。特に、この場合は、使い回しの回数は減るが、2 回目の記録の際に転写シ

ート7の戻し位置の位置決め精度を緩和することができるという利点を得られる。即ち、上記した1ピッチ分だけずらして記録する場合は、新たな記録位置5と、それに隣接する記録済み部分2との間隔が狭くなるので、転写シート7を次の支持体上に戻す際に精度を高めて位置決めを行う必要がある。その点、記録位置を1.5ピッチ分ずらして記録する場合には、2ストライプ分の未使記録面積に1ストライプ分の記録をすることになるので、位置的な裕度を持たせることができ、位置決め精度が別段高くなくても支障なく位置決めが行える。

【0154】

次に、図28のフローチャートを用いて上記動作を説明する。まず、1回目の記録を行う支持体Aをステージ27上に搬入する(S521)。次いで、支持体Aの上に転写シート7を搬入して(S522)、正規位置で支持体Aの上に重ね合わせる(S523)。この状態で1回目の記録を行う(S524)。

【0155】

1回目の記録の終了後、転写シート7を支持体Aから剥離し(S525)、記録済みの支持体Aを搬出する(S526)。1回目の支持体Aを搬出した後、次の2回目の記録を行う支持体Bをステージ27上に搬入する(S527)。次いで、その支持体Bの上に、剥離ローラで保持している転写シート7を戻して、正規位置で支持体Bの上に重ね合わせる(S528)。この状態で2回目の記録を行う(S529)。その際、記録位置をストライプ形状の配置ピッチで1.5ピッチ分ずらして記録する。

【0156】

2回目の記録の終了後、前述の基本動作に基づいて転写シート7を支持体Bから剥離し(S530)、その転写シート7を廃棄し(S531)、記録済みの支持体Bを搬出する(S532)。これにて1サイクルの動作を終了する。このように2回の記録を1サイクルとして繰り返し行うことにより、転写シート7の有効利用が図れる。

【0157】

上述した第1、第2の2つの記録方法では、記録位置を順次ずらすことにより、転写シート7の未記録部分を用いて次の支持体への記録を行ったが、記録位置

をずらさずに、転写シートを次の支持体の上に戻すときに、転写シートの位置をずらして戻すことにより、同様の効果を得ることができる。ここで、転写シートのずらし方向は、剥離ローラ 201 の周方向（即ち、Y 方向に平行な方向）でもよく、また、剥離ローラ 201 の軸方向（X 方向）でもよい。

【0158】

ストライプ形状の幅方向（長手方向に直交する方向）が剥離ローラ 201 の周方向と一致する場合には、剥離ローラ 201 の回転角制御により、ストライプ形状の 1～1.5 ピッチのずらし分だけ、保持している転写シート 7 の始端位置をずらして支持体上に戻せばよい。また、ストライプ形状の幅方向（長手方向に直交する方向）が剥離ローラ 201 の軸方向と一致する場合には、剥離ローラ 201 の軸方向位置制御により、ストライプ形状の 1～1.5 ピッチのずらし分だけ、保持している転写シート 7 の載置位置をずらして支持体上に戻せばよい。

【0159】

また、剥離ローラ 201 上で転写シート 7 の位置をずらすのではなく、ステージ 27 で転写シート 7 を受けるときに、ステージ 27 の位置を剥離前の位置からずらすことによっても、同様に支持体 23 に対して転写シート 7 をずらして戻すことができる。即ち、剥離ローラ 201 から転写シート 7 を次の支持体 23 上に戻すときに、ステージ 27 をストライプ形状の 1～1.5 ピッチ分だけ移動して受けることにより、支持体 23 上に転写シート 7 を所定ピッチずらして戻すことができる。次のその方法として、第 3、第 4 の記録方法を説明する。

【0160】

（第 3 の記録方法）

図 29 は第 3 の記録方法の説明図、図 30 はその記録方法を実施する際の動作の順番を示すフローチャートである。

第 3 の記録方法では、1 回目に図 29（a）に示すような記録位置 5 で記録を行って剥離した転写シート 7 を、次の 2 回目の支持体（支持体 B）23 の上に戻して重ね合わせるときに、図 29（b）に示すように、支持体 B の記録面上に、剥離前とストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分ずらして戻す。そして、記録位置は剥離前と同じ位置に設定して記録を行う。これにより、記録済みのストラ

イブ部分（記録済み部分 2）の間に存在する未記録部分 3 を用いて支持体 2 3 への記録を行うことができる。

【0 1 6 1】

同様に、2 回目の記録に使用し剥離して保持した転写シート 7 を、次の 3 回目の支持体 C の上に戻して重ね合わせるときに、図 2 9（c）に示すように、支持体 C の記録面上に、2 回目の剥離前とストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分だけ更にずらして戻す。そして、記録位置は剥離前と同じ位置に設定して記録を行う。これにより、2 回の記録で残った未記録部分 3 を用いて支持体 2 3 への記録を行うことができる。この場合も、3 回目の記録を終えると、図 2 9（d）に示すように、転写シート 7 の未記録部分が、記録するストライプ形状の領域よりも狭くなるので、先に説明した剥離の基本動作に基づいて、転写シート 7 を廃棄箱 3 7 へ排出する。

【0 1 6 2】

このように 1 枚の転写シート 7 で 3 回の記録を行い、3 回の記録後に使用できる領域がなくなった段階で初めて転写シート 7 を廃棄するので、無駄なく転写シート 7 を使い切ることができ、転写シート 7 の有効利用を図ることができる。また、使用する転写シート 7 が減量できるので、製造コストの低減に寄与することができる。

【0 1 6 3】

次に、図 3 0 のフローチャートを用いて上記動作を説明する。まず、1 回目の記録を行う支持体 A をステージ 2 7 上に搬入する（S 6 0 1）。次いで、その支持体 A の上に転写シート 7 を搬入して（S 6 0 2）、正規位置で支持体 A の上に重ね合わせる（S 6 0 3）。この状態で 1 回目の記録を行う（S 6 0 4）。

【0 1 6 4】

1 回目の記録の終了後、転写シート 7 を支持体 A から剥離し（S 6 0 5）、記録済みの支持体 A を搬出する（S 6 0 6）。なお、転写シート 6 0 5 の剥離の手順は、前述の剥離ローラ 2 0 1 を使用した手順による。1 回目の支持体 A を搬出したら、次の 2 回目の記録を行う支持体 B をステージ 2 7 上に搬入する（S 6 0 7）。次いで、その支持体 B の上に、剥離ローラ 2 0 1 で保持している転写シ

ト 7 を戻す。その際、正規位置（剥離前の位置）からストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分だけずらした位置で、支持体 B の上に転写シート 7 を重ね合わせる（S 6 0 8）。この状態で 2 回目の記録を行う（S 6 0 9）。この場合の記録位置はピッチずらしを行わない正規の位置である。

【 0 1 6 5 】

2 回目の記録の終了後、転写シート 7 を支持体 B から剥離し（S 6 1 0）、記録済みの支持体 B を搬出する（S 6 1 1）。2 回目の支持体 B を搬出したら、次の 3 回目の記録を行う支持体 C をステージ 2 7 上に搬入する（S 6 1 2）。次いで、その支持体 C の上に、剥離ローラ 2 0 1 で保持している転写シート 7 を戻す。その際、2 回目の剥離位置からストライプ形状の配置ピッチで更に 1 ピッチ分だけずらした位置（正規位置から 2 ピッチ分ずらした位置）で、支持体 C の上に転写シート 7 を重ね合わせる（S 6 1 3）。この状態で 3 回目の記録を行う（S 6 1 4）。この場合の記録位置も、ピッチずらしを行わない正規の位置である。

【 0 1 6 6 】

3 回目の記録の終了後、前述の基本動作に基づいて転写シート 7 を支持体 C から剥離し（S 6 1 5）、その転写シート 7 を廃棄し（S 6 1 6）、記録済みの支持体 C を搬出する（S 6 1 7）。これにて 1 サイクルの動作を終了する。このように 3 回の記録を 1 サイクルとして繰り返し行うことにより、転写シート 7 の有効利用が図れる。

【 0 1 6 7 】

上記の第 3 の記録方法では、転写シート 7 の戻し位置をストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分ずつ順次ずらして記録する場合を説明したが、転写シート 7 の戻し位置を 1. 5 ピッチ分ずらして記録してもよい。

【 0 1 6 8 】

（第 4 の記録方法）

図 3 1 は転写シートの戻し位置を 1. 5 ピッチ分ずらして記録する第 4 の記録方法の説明図、図 3 2 はその記録方法を実施する際の動作の順番を示すフローチャートである。

第 4 の記録方法では、図 3 1（a）、（b）に示すように、1 回目の記録後の

転写シート 7 に、2 ストライプ分の相当面積を超える大きさの未記録部分 3 が残るので、位置的な余裕を持って 2 回目の記録を行うことができる。

【0169】

ここでは、図 3 1 (b) に示すように、剥離して保持した転写シート 7 を次の支持体 (支持体 B) 2 3 の記録面上に戻すときに、ストライプ形状の長手方向と直交する方向 (ストライプ形状の幅方向＝図の左右方向) に、戻し位置をストライプ形状の配置ピッチで 1.5 ピッチ分ずらして戻す。そして、同じ記録位置で 2 回目の記録を行う。これにより、記録済みのストライプ部分 (記録済み部分 2) の間に存在する未記録部分 3 を用いて支持体 2 3 への記録を行うことができる。

【0170】

この結果、支持体 B からの剥離後には、図 3 1 (c) に示すような転写シート 7 が得られる。この転写シート 7 の未記録部分は、記録するストライプ形状の領域よりも狭くなるので、先に説明した基本動作に基づいて転写シート 7 を廃棄箱 3 7 へ排出する。

【0171】

このように 1 枚の転写シート 7 で 2 回の記録を行うので、無駄なく転写シート 7 を使い切ることができ、転写シート 7 の有効利用を図ることができる。また、使用する転写シート 7 が減量できるので、製造コストの低減に寄与することができる。特に、この場合は、使い回しの回数は減るが、2 回目の記録の際に転写シート 7 の戻し位置の位置決め精度を緩和することができるという利点を得られる。

【0172】

次に、図 3 2 のフローチャートを用いて上記動作を説明する。まず、1 回目の記録を行う支持体 A をステージ 2 7 上に搬入する (S 6 2 1)。次いで、その支持体 A の上に転写シート 7 を搬入して (S 6 2 2)、正規位置で支持体 A の上に重ね合わせる (S 6 2 3)。この状態で 1 回目の記録を行う (S 6 2 4)。

【0173】

1 回目の記録の終了後、転写シート 7 を支持体 A から剥離し (S 6 2 5)、記

録済みの支持体Aを搬出する（S 6 2 6）。1回目の支持体Aを搬出したら、次の2回目の記録を行う支持体Bをステージ27上に搬入する（S 6 2 7）。次いで、その支持体Bの上に、剥離ローラで保持している転写シート7を戻す。その際、正規位置（剥離前の位置）に対してストライプ形状の配置ピッチで1.5ピッチ分だけ位置をずらして転写シート7を戻す（S 6 2 8）。そして、正規の記録位置にて2回目の記録を行う（S 6 2 9）。

【0174】

2回目の記録の終了後、前述の基本動作に基づいて転写シート7を支持体Bから剥離し（S 6 3 0）、その転写シート7を廃棄し（S 6 3 1）、記録済みの支持体Bを搬出する（S 6 3 2）。これにて1サイクルの動作を終了する。このように2回の記録を1サイクルとして繰り返し行うことにより、転写シート7の有効利用が図れる。

【0175】

以上説明したように、転写シート7のずらし量としては、次に示す種類がある。

図33に記録位置を正規位置に設定した場合における転写シート7のずらしピッチ量（ピッチ＝ストライプ形状の配置ピッチ）と、支持体23及び記録位置5との関係を表す説明図を示した。即ち、図33における（c）の位置を初期位置とし、（a）は左側に転写シート7を1.5ピッチずらして配置した場合、（b）は左側に転写シート7を1ピッチずらして配置した場合、（d）は右側に転写シート7を1ピッチずらして配置した場合、（e）は右側に転写シート7を1.5ピッチずらして配置した場合をそれぞれ示している。このように転写シート7をずらして戻す位置を予め決めておくことにより、ずらし動作を容易に制御できるようになる。

【0176】

<第2実施形態>

ところで、上の説明では、1色の転写シート7を複数回の記録に使い回す場合を述べたが、複数色のストライプ状パターンを形成する場合には、各色の転写シートについて同じように複数回ずつ使い回すことができる。

【0 1 7 7】

図 3 4 に示す第 2 実施形態の記録装置は、3 色の転写シート 7 のそれぞれを使い回すことができるように、各色毎の 3 個の剥離ローラ 2 0 1 R、2 0 1 G、2 0 1 B を備えている。各剥離ローラ 2 0 1 R、2 0 1 G、2 0 1 B は、それぞれ別個に移動、剥離、保持、戻し動作できるものである。図 3 4 (a) に示すように初期位置に待避している剥離ローラ 2 0 1 R、2 0 1 G、2 0 1 B は、各色の転写シート 7 を使用する毎に順番に動作する。図 3 4 (b) はレッド専用の剥離ローラ 2 0 1 R が動作して、転写シート 7 を巻取る様子を示している。

【0 1 7 8】

この構成によれば、各色の転写シートのそれぞれを無駄なく使い切ることができ、低コストな記録が行えるようになる。

【0 1 7 9】

次にストライプ形状を含む画像パターンの幾つかの実例について説明する。上記のパターンは典型的なストライプパターンであるが、この他にも種々の用途に対して作製される。

図 3 5 は、レッド (R)、グリーン (G)、ブルー (B) がこの順番で単純なストライプ形状に並ぶ画像パターンの例を示している。このストライプパターンは、例えば PDP (プラズマディスプレイ)、HDTV (ハイビジョンテレビ) 等に用いられる。短冊状ではなく切れ目のない、支持体幅 (または高さ) より若干短い幅の縦長ストライプ形状であることが特徴となる。このような画像パターンを得る場合、例えば、まずレッド (R) の転写シートを用いてレッド (R) のストライプ状画像を記録すると、1 回目の記録を終えて剥離した転写シート 7 は図 3 6 に示すようになる。即ち、転写シート 7 の記録済みのストライプ形状 (記録済み部分 2) の間に、グリーン (G) とブルー (B) の位置に対応した、2 ストライプ分の未記録部分 (未使用領域) 3 が残る。

【0 1 8 0】

従って、次の記録の際に、上述した記録方法を用い、記録の度にストライプ形状の配置ピッチで 1 ピッチ分ずつ転写シート 7 に対して相対的に記録位置をずらすことにより、1 回目の記録のときにグリーン (G) とブルー (B) に対応した

位置にある転写シート 7 上の未記録部分 3 で、順次レッド (R) を記録することができ、合計 3 回転写シート 7 を使い回すことができる。また、1. 5 ピッチ記録位置をずらすことにより、1 回目の記録のときにグリーン (G) とブルー (B) に対応した位置にある 2 ストライプ分の転写シート 7 の未記録部分 3 で、レッド (R) を記録することができ、合計 2 回転写シート 7 を使い回すことができる。

【0 1 8 1】

図 3 7 は、レッド (R)、グリーン (G)、ブルー (B) のストライプ形状をモザイク状に配したモザイクパターンの例を示している。このパターンは、各種機器のファインダ、携帯型のビデオ撮影機器の表示部、小型の TV 等、サイズの小さいものに適用される。このパターンでは、同色の位置が縦横に 1 つずつずれている。このような画像パターンを得るに際し、レッド (R) の転写シートを用いてレッド (R) のストライプ状画像を記録すると、1 回目の記録を終えて剥離した転写シート 7 は図 3 8 に示すようになる。従って、この転写シート 7 を複数回の記録に使い回す場合には、図の横方向 (ストライプ形状の長手方向に直交する方向) に相対的な記録位置を 1 ピッチずつずらす方法と、図の縦方向 (ストライプ形状の長手方向) に相対的な記録位置を 1 ピッチだけずらす方法の少なくともいずれかを採ることができる。

【0 1 8 2】

図 3 9 は、レッド (R)、グリーン (G)、ブルー (B) のストライプで三角形を形取り、これを基本形にパターン化したデルタパターン (同色の画素は隣り合わない) と呼ばれるものの例を示している。このパターンもモザイクパターンと同様な用途に採用される。このようなパターン画像を得るために、レッド (R) の転写シートを用いてレッド (R) のストライプ状画像を記録すると、1 回目の記録を終えて剥離した転写シート 7 は図 4 0 に示すようになる。従って、この転写シート 7 を複数回の記録に使い回す場合には、図の横方向 (ストライプ形状の長手方向に直交する方向) に相対的な記録位置を 1 ピッチずつずらす方法と、図の縦方向 (ストライプ形状の長手方向) に相対的な記録位置を 1 ピッチずらし且つ横方向に半ピッチずらす方法の少なくともいずれかを採ることができる。

【 0 1 8 3 】**< 第 3 実施形態 >**

なお、上述した各例では、剥離ローラ 2 0 1 で剥離した転写シート 7 を、そのまま剥離ローラ 2 0 1 自身で保持・保管する場合を説明したが、剥離ローラ 2 0 1 を剥離と戻しの動作に限定して、剥離した転写シート 7 の保管は別の手段で行うようにすることもできる。これによると、例えば各色毎に剥離ローラ 2 0 1 を装備する必要をなくすることができる。

【 0 1 8 4 】

図 4 1 は、そのような剥離した転写シート 7 の保管棚を備えた記録装置の例を示している。図 4 1 において、2 9 0 は、剥離した転写シート 7 を一時的に保管する保管ケースである。この保管ケース 2 9 0 には、各色の転写シート 7 を別に保管できる複数の保管棚 2 9 1 K、2 9 1 R、2 9 1 G、2 9 1 B が設けられている。各保管棚 2 9 1 K、2 9 1 R、2 9 1 G、2 9 1 B は個別に引き出すことができ、引き出した状態で、剥離ローラ 2 0 1 との間で転写シート 7 の受け渡しができるようになっている。

【 0 1 8 5 】

転写シート 7 の受け渡しは、前述したステージ 2 7 と剥離ローラ 2 0 1 との間の受け渡しと同じ要領で行う。保管棚 2 9 1 K、2 9 1 R、2 9 1 G、2 9 1 B の引き出し動作及び押し入れ動作は、剥離ローラ 2 0 1 の動作と連動させて自動で行うようにする。なお、単色の記録を行う場合には、各色毎の保管棚は必ずしも必要としない。剥離ローラ 2 0 1 から転写シート 7 を取り外して保管ケース 2 9 0 に収容する場合には、収容先の保管棚（例えば 2 9 1 K）を引き出した状態にし、引き出された保管棚 2 9 1 K の位置に剥離ローラ 2 0 1 を移動させ、剥離ローラ 2 0 1 の転写シート 7 の真空吸着を停止する。これにより、転写シート 7 は保管棚 2 9 1 K に載置される。そして、保管棚 2 9 1 K は、初期位置に退避して保管ケース 2 9 0 内に収容される。

【 0 1 8 6 】

次に、図 4 1 に示す保管ケースの変形例を説明する。

図 4 2 は、保管ケース 2 9 0 を傾斜させて設ける場合の例を示している。各保

管棚 291K、291R、291G、291Bは、保管ケース 290 の奥側に向かって下り傾斜した状態でスライド自在に設けられている。従って、図 42 (a)、(b)、(c) のように保管棚 291K に転写シート 7 を収納した際に、転写シート 7 が、自重により自然に保管棚 291K に載置され、転写シート 7 が保管棚 291K の傾斜によって奥まで滑り移動して止まるようになる。これにより図 42 (d) に示すように、定位置に収納した状態で、転写シート 7 を保管することができ、転写シート 7 の取り出し時における、剥離ローラ 201 への再吸着位置が容易に設定できるという効果が得られる。

【0187】

<第 4 実施形態>

図 43 は記録媒体である転写シート 7 が、カットシートの形態で供給される場合の例を示している。図 43 において、295 は転写シート供給部である。この転写シート供給部 295 において、転写シート 7 は、カセット 296 に積層状態で収められ、ピックアップローラ 297 と図示しない吸盤列で順次ステージ 27 に向けて供給される。また、この装置では、カセット 296 の上に、剥離した転写シート 7 を一時保管する転写シート置き場 298 を設けており、この転写シート置き場 298 と剥離ローラ 201 との間で転写シート 7 の受け渡しができるようになっている。このように、転写シート 7 がカットシート形態であっても同様にして記録可能となる。

【0188】

<第 5 実施形態>

以上の各実施形態においては、XY ステージ式の平面記録装置の例について言及したが、本発明は可撓性を有する支持体に記録を行うドラム式の記録装置にも適用することができる。

【0189】

図 44 はドラム式の記録装置 321 に本発明を適用した実施の形態を示し、図 45 は同装置において剥離ローラを使用する場合の剥離ローラの動きを示す。各図において、327 は支持体を保持するドラム、329 はレーザ式の記録ヘッドであり、XY ステージ式記録装置のステージに相当するドラム 327 及び記録ヘ

ッド 3 2 9 によって記録部 3 3 9 が構成されている。記録時のレーザビームの走査は、例えば、ドラム 3 2 7 の回転（主走査）と、記録ヘッド 3 2 9 によるレーザビームのドラム 3 2 7 軸線方向の走査（副走査）により行う。記録対象の支持体は、図示しない支持体供給装置によってドラム 3 2 7 の外周上に供給される。なお、この場合の支持体は、ドラム 3 2 7 の外周面に取り付け可能に変形する材料からなる。記録媒体である受像シート及び転写シートは、受像シート供給部 8 1 及び転写シート供給部 8 3 によって、ドラム 3 2 7 上の支持体の上に供給される。

【 0 1 9 0 】

ドラム 3 2 7 の上方には記録後の製品及び記録媒体（受像シート及び転写シート）を搬送する搬送経路 3 3 0 が設けられ、搬送経路 3 3 0 の終端に製品と廃棄物を振り分ける振り分け装置 3 3 2 が設けられている。また、ドラム 3 2 7 の上方位置には、各色の転写シートを複数回の記録に使い回すために使用する剥離ローラ 2 0 1 R、2 0 1 G、2 0 1 B が設けられている。剥離ローラ 2 0 1 R、2 0 1 G、2 0 1 B の役目は、前述した実施形態と同様である。

【 0 1 9 1 】

上記構成の本記録装置では次の工程で記録を行う。

まず、基本動作について説明すると、最初に、支持体をドラム 3 2 7 上に搬送してドラム 3 2 7 の周面に吸着保持する。次に、受像シートを受像シート供給部 8 1 から搬入して支持体の上に密着させる。その後、受像シートを剥離して支持体の記録面上に受像層を形成したら、剥離後の受像シートを搬送経路 3 3 0 を介して廃棄箱 3 7 に排出する。次に、転写シート供給部 8 3 からドラム 3 2 7 上の支持体の上に転写シートを搬入し重ね合わせる。そして、ドラム 3 2 7 を高速回転させながら記録ヘッド 3 2 9 により露光記録を行う。基本動作では、記録後の転写シートは、支持体から剥離した後、搬送経路 3 3 0 を介して廃棄箱に捨てる。各色の転写シートを順番に支持体の上に重ね合わせて記録を行い、全色の記録が終了したら、支持体を搬送経路 3 3 0 を介してトレイ 3 3 5 に送る。なお、受像シートや転写シートを剥離するには、図示しないが、剥離用粘着ローラ等の公知の剥離機構を使用する。

【0192】

次に、この記録装置321において転写シートを複数回の記録に使い回す場合には、上述の転写シートを剥離する動作の際に、剥離ローラ201R、201G、201Bを使用して剥離を実施する。これらの剥離ローラ201R、201G、201Bを用いてドラム327の外周の転写シートを剥離する場合は、剥離ローラ201R、201G、201Bを移動させてドラム327の外周に接触させ、その状態で、剥離ローラ201R、201G、201Bとドラム327の双方を回転させることで行える。転写シートの剥離後は、次の支持体の搬入まで、剥離ローラ201R、201G、201Bをドラム327上方の待避位置へ待避させる。そして、次の支持体が搬入されたら、剥離ローラ201R、201G、201Bを再びドラム327の外周に接触させ、転写シートをドラム327側に戻す。

【0193】

ここで、転写シートを剥離したり戻したりする場合の転写シートの受け渡しは、XYステージ式記録装置と同様に吸引力の制御により行うことができる。また、複数回の記録に転写シートを使い回す際の方法は、先に説明した、第1～第4の記録方法を採用することができる。なお、剥離ローラ201R、201G、201Bをドラム327の近傍に移動する際に搬送経路330と干渉する場合には、図45に示すように、適宜に待避位置へ移動させる。

【0194】

<第6実施形態>

以上の各実施形態で説明した剥離ローラは、ドラム式記録装置においては平板状の剥離板に代えて使用することもできる。

【0195】

図46は、剥離ローラの代わりに、平板状の剥離板を使用したドラム式記録装置421の例を示す。この記録装置421では、ドラム327の外周に接触した状態でスライド可能な平板状の剥離板401を備えている。剥離板401は、図47に示すように、内部空洞を持つ箱体して構成されており、下面に転写シートを吸着する多数の吸引孔402を備えている。吸引孔402の分布は、前述した

剥離ローラと同様に、転写シートの長手方向の端部を吸着する部分が密、長手方向の中間部を吸着する部分が疎になっている。また、始端を吸着する部分の吸引孔 4 0 3 は長孔になっている。

【0 1 9 6】

剥離板 4 0 1 は、昇降可能且つ水平方向にスライド可能に備えられ、必要時にドラム 3 2 7 の外周に接触し得る位置に移動する。そして、転写シートの剥離及び戻し動作の際には、ドラム 3 2 7 を回転させながら、その回転に見合った速度で剥離板 4 0 1 をドラム 3 2 7 の接線方向にスライドさせることにより、ドラム 3 2 7 と剥離板 4 0 1 との間で転写シートの受け渡しを行う。

【0 1 9 7】

この記録装置 4 2 1 の場合、転写シートを剥離する剥離板 4 0 1 は 1 個しか備わっていないので、剥離した転写シートを保管する保管ケース 2 9 0 を設けている。この保管ケース 2 9 0 は、図 4 1 を用いて先に説明したものと同様のものである。

【0 1 9 8】

図 4 6 は転写シートの剥離時の剥離板 4 0 1 の動きを矢印で示し、図 4 8 は転写シートの戻し時の剥離板 4 0 1 の動きを矢印で示している。ドラム 3 2 7 の回転方向及び剥離板 4 0 1 のスライド方向は、剥離時と戻し時とで逆になる。

【0 1 9 9】

以上の各実施形態の説明では、1 台の記録装置により多色の記録を行う場合を述べてきたが、各色毎に専用の記録装置を配備し、各記録装置でそれぞれ順番に各色の記録を行うようにしてもよい。図 4 9 は両者の区別をブロックで示している。

図 4 9 (a) は 1 台の記録装置でブラック (K)、レッド (R)、グリーン (G)、ブルー (B) の記録を 1 枚の支持体に対して順番に連続して行う場合を示している。図 4 9 (b) は、ブラック (K)、レッド (R)、グリーン (G)、ブルー (B) の各色専用の単色用記録装置で各色の記録を順番に行う場合を示している。前者の方式では設備コストが低減され、後者の方式では製造タスクを早めることが可能となる。

【0200】

なお、各色の記録の順番は任意に変更可能である。通常は、ブラック（K）、レッド（R）、グリーン（G）、ブルー（B）の順に記録を行うが、例えば、図50に示すように、レッド、グリーン、ブルーの三色を記録してカラーストライプを形成したのち、最後に、ブラックの記録を行ってブラックマトリクスを形成してもよい。この場合は、ブラックマトリクスをカラーストライプにオーバーラップさせて形成することができ、記録境界部からの光の漏れが確実に防止できるブラックマトリクスを形成できる。また、記録色は4色に限らず、RGBの3色やいずれかの単色であってもよい。

【0201】**【発明の効果】**

以上説明したように、本発明に係る記録方法によれば、1枚の転写シートを用いて1回目の記録を行った後、2回目以降の記録を行う際に、転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を行うようにしたので、転写シートを2回以上の記録に使い回すことができ、その結果、転写シートの有効利用を図ることができる共に、使用する転写シートの減量を図ることができ、それにより製造コストの低減に寄与することができる。

【0202】

この記録装置では、支持体保持手段、転写シート供給手段、記録ヘッド、剥離保持手段を順次動作させることにより、転写シートの記録済みのストライプ間に存在する未記録部分を用いて支持体への記録を繰り返し行うようにしたので、転写シートを複数回の記録に使い回すことができ、その結果、転写シートの有効利用を図ることができると共に、使用する転写シートの減量を図ることができ、それにより製造コストの低減に寄与することができる。

【図面の簡単な説明】**【図1】**

本発明に係る記録装置の概念的な構成を表したブロック図である。

【図2】

支持体の断面図である。

【図 3】

図 1 に示した記録装置の構成を示す側面図である。

【図 4】

支持体供給部における支持体の積載状態を表す斜視図である。

【図 5】

記録ヘッドとステージの動作を説明する平面図である。

【図 6】

搬入機構が支持体供給部に進入して支持体を吸着するまでの動作を（a）～（d）で示した動作説明図である。

【図 7】

搬入機構が支持体を保持して上昇し支持体供給部から支持体を取り出すまでの動作を（e）～（h）で示した動作説明図である。

【図 8】

ピンを突出させた状態の Y 方向から見たステージを表す断面図である。

【図 9】

凹部に支持体を収容したステージの平面図である。

【図 1 0】

凹部に支持体を収容したステージの断面図である。

【図 1 1】

記録媒体供給部と記録部とを表した要部構成図である。

【図 1 2】

図 1 の記録装置に使用する受像シート及び転写シートの断面図である。

【図 1 3】

剥離溝を設けたステージの凹部周縁の拡大斜視図である。

【図 1 4】

記録部近傍における受像シートの剥離動作を示す説明図である。

【図 1 5】

記録ヘッドと支持体との相対移動方向を表す斜視図である。

【図 1 6】

記録ヘッドのスポット列による記録動作を示す説明図で、(a) は記録ヘッド 29 により形成されるスポット列を表す説明図、(b) はスポット列を走査することによる記録過程の説明図である。

【図 17】

記録ヘッドの模式的な拡大図である。

【図 18】

基本的な記録工程を概念的に表した説明図である。

【図 19】

転写シートを複数回の記録に使い回す場合の転写シートの剥離動作を (a)、(b)、(c) の順で示す動作図説明図である。

【図 20】

剥離ローラの具体的構成例を示す外観斜視図で、(a) は剥離ローラの斜視図、(b) は剥離ローラの外周面の展開図である。

【図 21】

記録装置の第 2 の剥離手段を含む制御系のブロック図である。

【図 22】

剥離ローラによる剥離動作の過程を (a) ～ (d) の順に示す動作説明図である。

【図 23】

剥離した転写シートを次にステージ上に搬入された支持体の上に重ね合わせるときの動作を (a) ～ (e) の順に示す動作説明図である。

【図 24】

軸方向スライド機構を備えた剥離ローラの断面図で、(a) は剥離ローラが左端に停止した状態、(b) は右端に停止した状態をそれぞれ示す図である。

【図 25】

本発明の第 1 の記録方法の説明図である。

【図 26】

第 1 の記録方法の手順を示すフローチャートである。

【図 27】

本発明の第2の記録方法の説明図である。

【図28】

第2の記録方法の手順を示すフローチャートである。

【図29】

本発明の第3の記録方法の説明図である。

【図30】

第3の記録方法の手順を示すフローチャートである。

【図31】

本発明の第4の記録方法の説明図である。

【図32】

第4の記録方法の手順を示すフローチャートである。

【図33】

ストライプ形状の配置ピッチで転写シートをずらす場合のずらし量と記録位置との関係をそれぞれ(a)～(e)で示す説明図である。

【図34】

各色別に剥離ローラを持つ記録装置の例を示し、(a)は剥離ローラを待機させた状態、(b)は待機位置から1つの剥離ローラを剥離開始位置まで移動する動作経路を示す図である。

【図35】

単純なストライプ形状を含むパターンの第1の例を示す図である。

【図36】

図35のパターンを記録する場合の1回のレッド(R)記録後の転写シートを示す図である。

【図37】

モザイク状のストライプ形状を含むパターンの第2の例を示す図である。

【図38】

図37のパターンを記録する場合の1回のレッド(R)記録後の転写シートを示す図である。

【図39】

デルタパターンのストライプ形状を含むパターンの第 3 の例を示す図である。

【図 4 0】

図 3 9 のパターンを記録する場合の 1 回のレッド (R) 記録後の転写シートを示す図である。

【図 4 1】

剥離した転写シートの保管ケースを持つ記録装置の例を示す図である。

【図 4 2】

図 4 1 の保管ケースを斜めに設けた場合の例を示す図で、(a) ~ (d) は剥離した転写シートの収納時の動作順を示す図である。

【図 4 3】

カットシートタイプの転写シートを使用する記録装置を示す構成図である。

【図 4 4】

本発明をドラム式記録装置に適用した場合の実施形態を示す側面図である。

【図 4 5】

図 4 4 の装置における剥離ローラを剥離位置に移動する場合の経路を示す説明図である。

【図 4 6】

本発明をドラム式記録装置に適用し、更に剥離ローラの代わりに平板式の剥離板を使用した例を示す側面図である

【図 4 7】

剥離板の一例を示す斜視図である。

【図 4 8】

図 4 6 の装置における一旦剥離した転写シートをドラム側に戻す場合の動作説明図である。

【図 4 9】

記録装置による記録ラインを示すブロック図で、(a) は 1 台の装置で K R G B を順に記録する場合、(b) は単色記録装置を複数台装備して順次記録する場合の流れを示すブロック図である。

【図 5 0】

カラーフィルタ間にブラックストライプをオーバーラップさせた画像を表す支持体の断面図である。

【図 5 1】

カラーフィルタの一例を示す平面図で、(a) はカラーフィルタの全体図で、(b) はその一部拡大図である。

【図 5 2】

カラーフィルタの記録例を示す図である。

【図 5 3】

1 回の記録を終えた転写シートの部分平面図である。

【符号の説明】

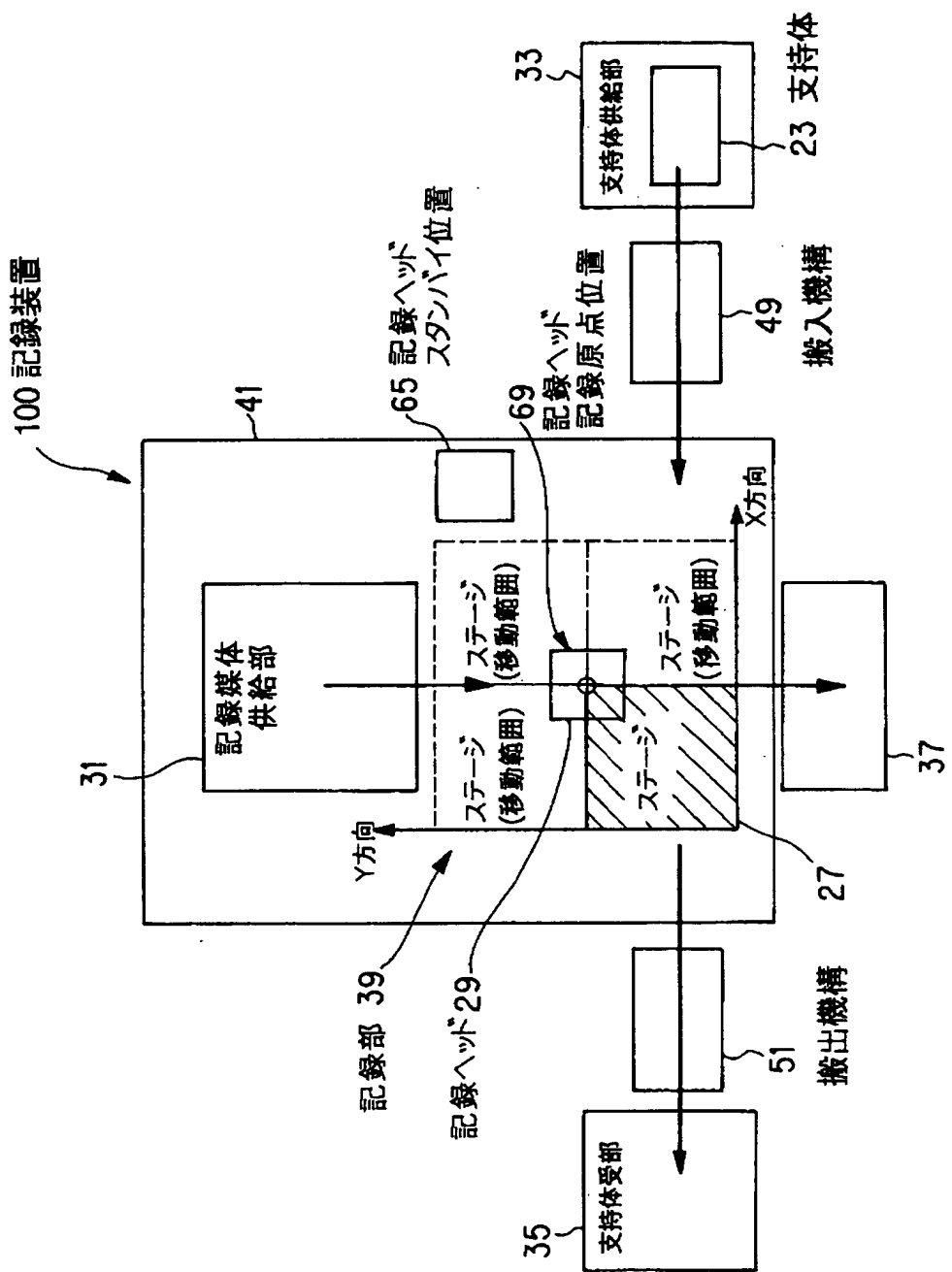
- 2 記録済み部分
- 3 未記録部分
- 5 記録位置
- 7 転写シート
 - 7 a 支持層
 - 7 b 光熱変換層
 - 7 c トナー層
- 2 3 支持体
- 2 5 記録面
- 2 7 ステージ
- 2 9 記録ヘッド
- 3 1 記録媒体供給部
- 3 3 支持体供給部
- 3 5 支持体受部
- 3 7 廃棄箱
- 3 9 記録部
- 4 1 遮蔽フレーム
- 4 3 a 受像層
- 4 9 搬入機構

- 5 1 排出機構
- 5 3 吸盤
- 5 5 吸引源
- 5 9 主制御部
- 6 1 電源部
- 6 3 ホストコンピュータ
- 6 5 記録ヘッドスタンバイ位置
- 6 9 記録ヘッド記録原点位置
- 7 1 凹部
- 7 7 吸引孔
- 8 1 受像シート供給部
- 8 3 転写シート供給部
- 8 5 受像シートロール
- 8 7 受像シート
- 8 7 a 支持層
- 8 7 c 受像層
- 8 9 受像シート搬送部
- 9 9 回転ラック
- 1 0 0 記録装置
- 1 0 1 回転軸
- 1 0 3 転写シートロール
- 1 0 7 転写シート繰り出し機構
- 1 1 3 転写シート搬送部
- 1 2 3 ガイド板
- 1 2 5 吸盤列
- 1 2 7 剥離溝（剥離手段）
- 1 2 9 スクイズローラ（加圧ローラ）
- 1 3 1 剥離爪（剥離手段）
- 1 4 1 記録開始端

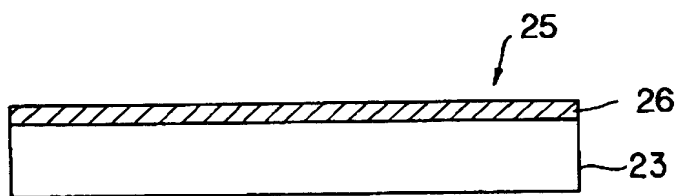
1 4 3 記録終端
2 0 0 第 2 の剥離手段
2 0 1, 2 0 1 R, 2 0 1 G, 2 0 1 B 剥離ローラ
2 0 2 吸引孔
2 0 3 吸引孔
2 0 5 始端吸着部
2 1 1 剥離ローラ回転駆動部
2 1 2 剥離ローラ回転方向位置検出部
2 1 6 剥離ローラ軸方向駆動部
2 1 7 剥離ローラ軸方向移動位置検出部
2 2 0 位置検出センサ
2 5 1 吸引装置
2 5 3 吸引力調整部
2 6 0 ステージ駆動部
2 7 1 剥離ローラ
2 7 3 支持軸
2 7 5 ブラケット
2 7 9 ブラケット
2 8 1 モータ
2 8 3 ギヤ
2 8 5 スライド駆動部
2 9 0 保管ケース
2 9 1 K, 2 9 1 R, 2 9 1 G, 2 9 1 B 保管棚
2 9 5 転写シート供給部
2 9 6 カセット
2 9 7 ピックアップローラ
2 9 8 転写シート置き場
3 2 1 記録装置
3 2 7 ドラム

3 2 9 記録ヘッド
3 3 0 搬送経路
3 3 2 振り分け装置
3 3 5 トレイ
4 2 1 記録装置
4 0 1 剥離板
4 0 2 吸引孔
4 0 3 吸引孔（長孔）
L b レーザービーム
S p スポット

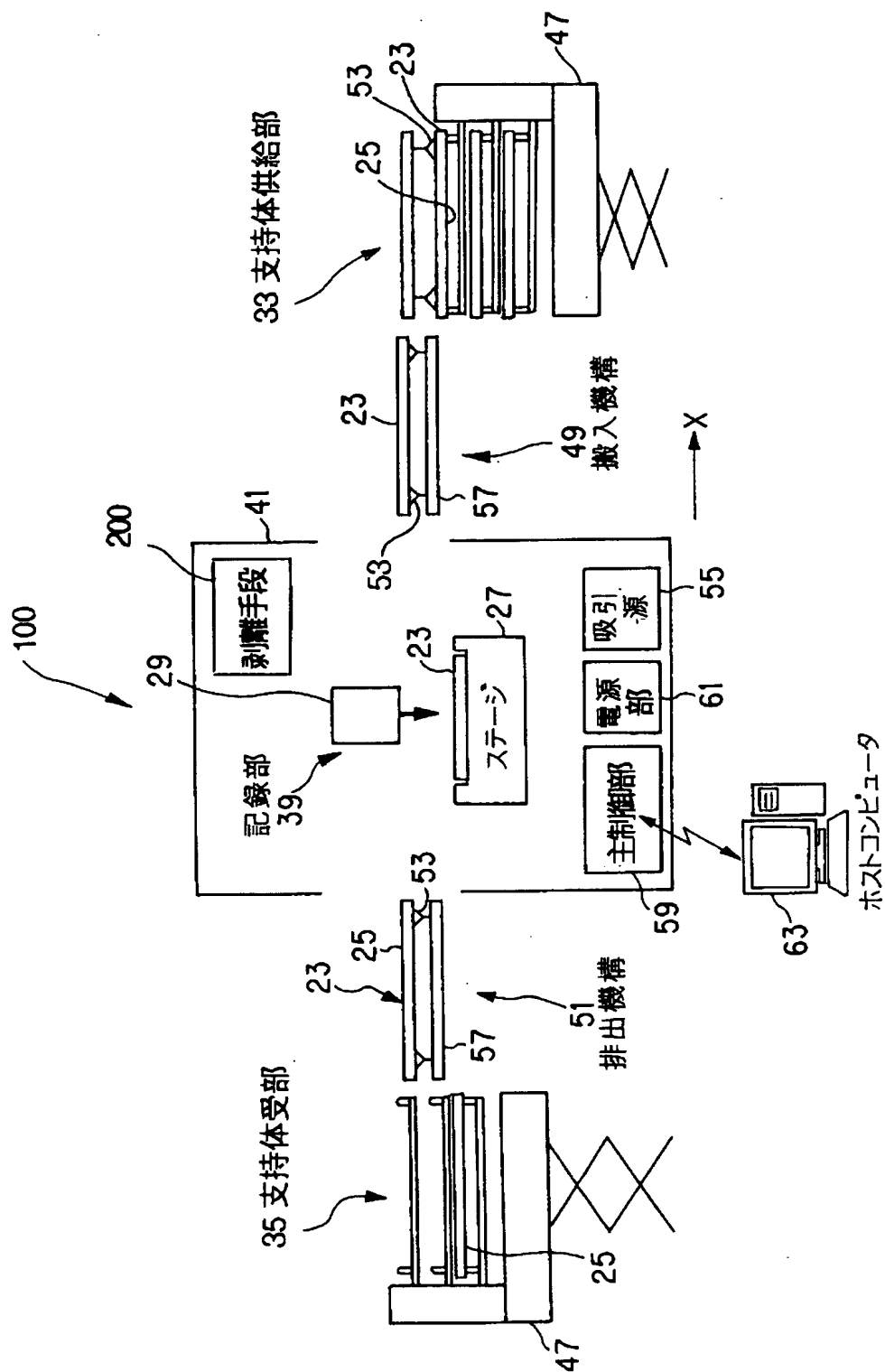
【書類名】 図面
【図 1】



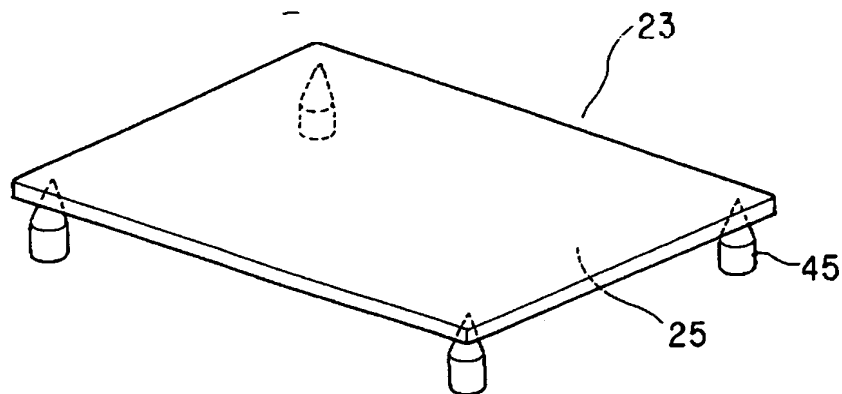
【図 2】



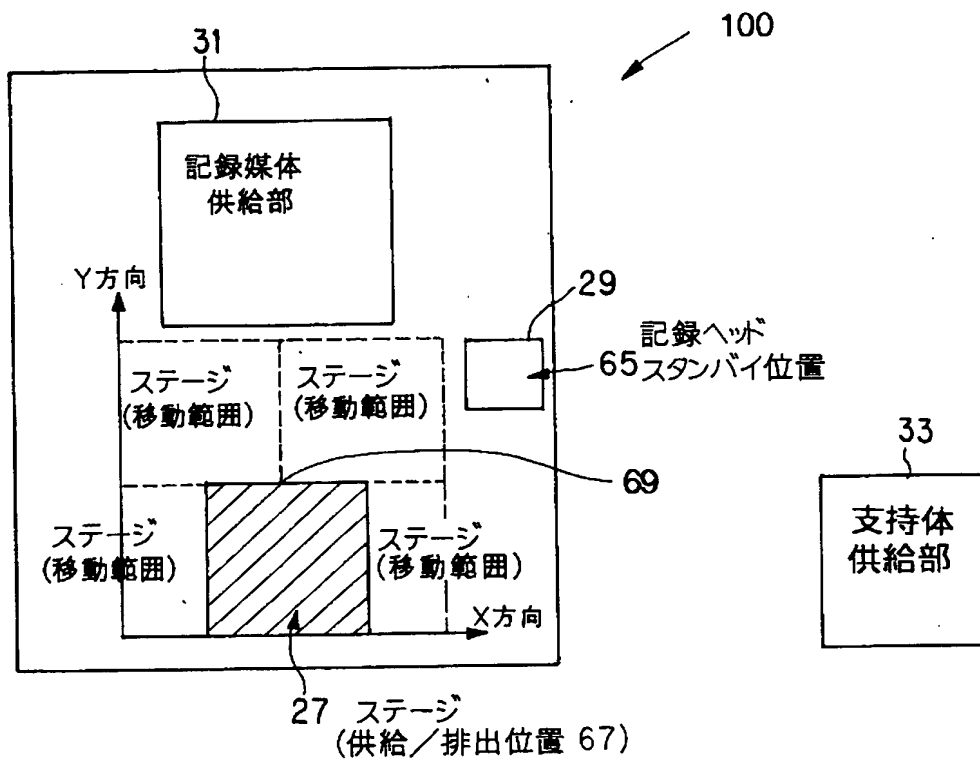
【図 3】



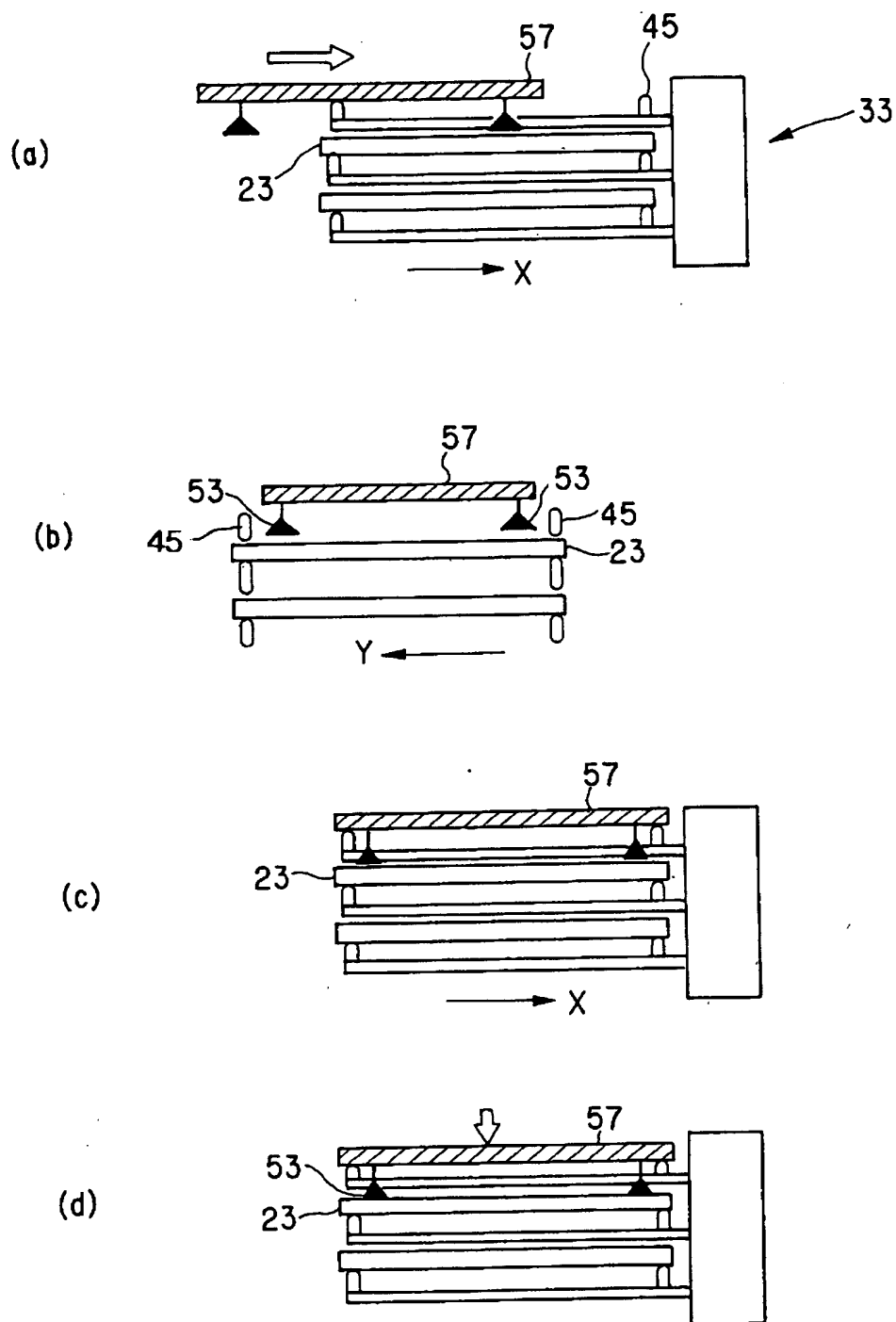
【図 4】



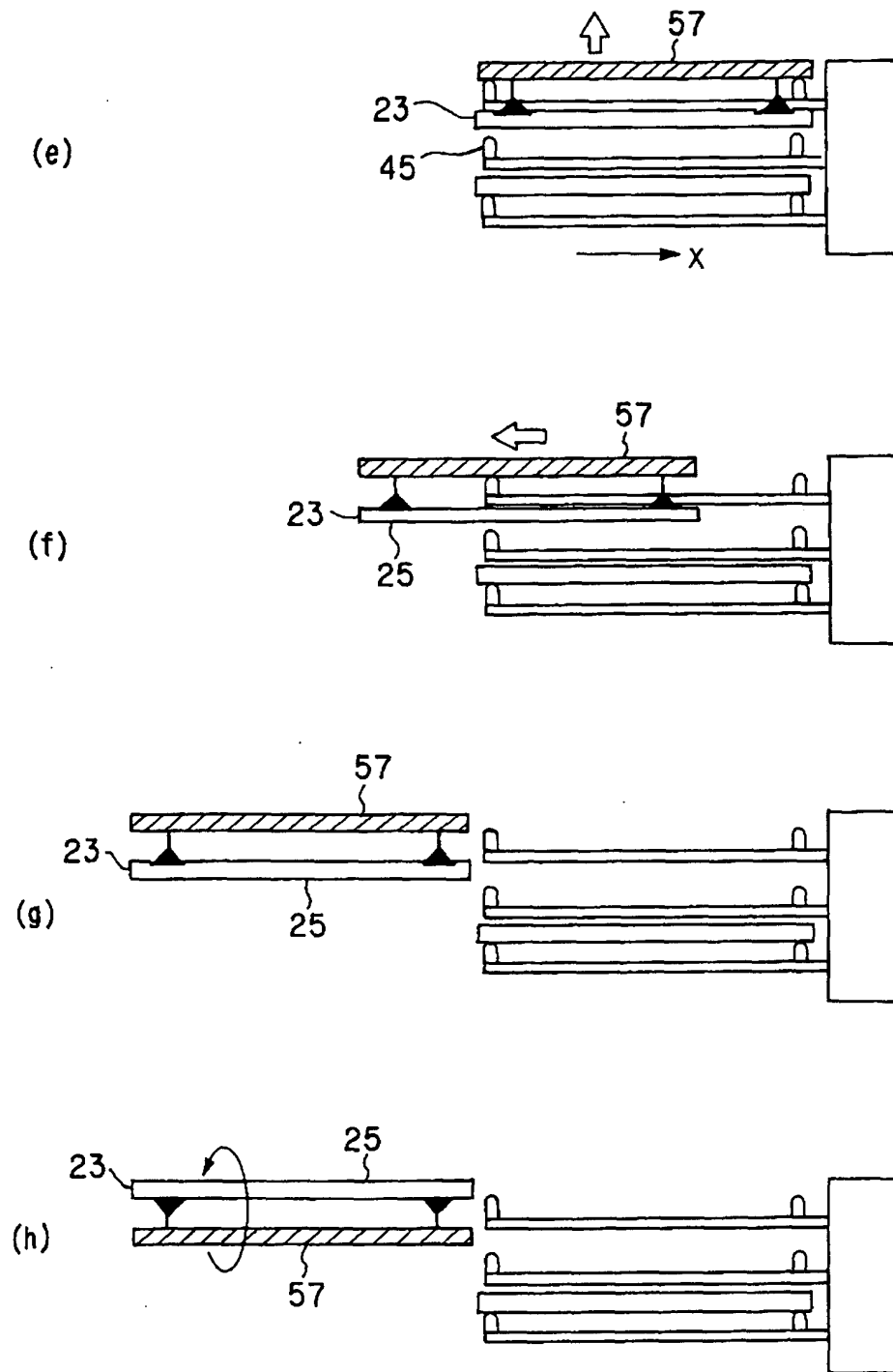
【図 5】



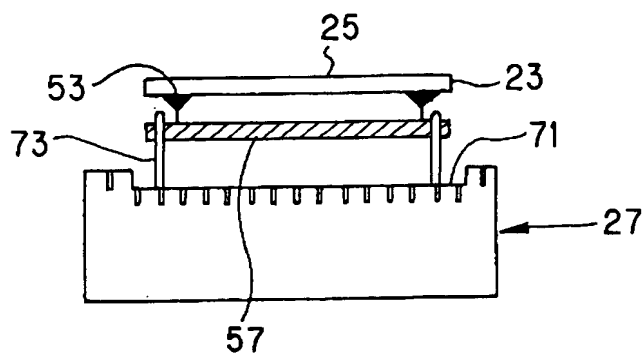
【図 6】



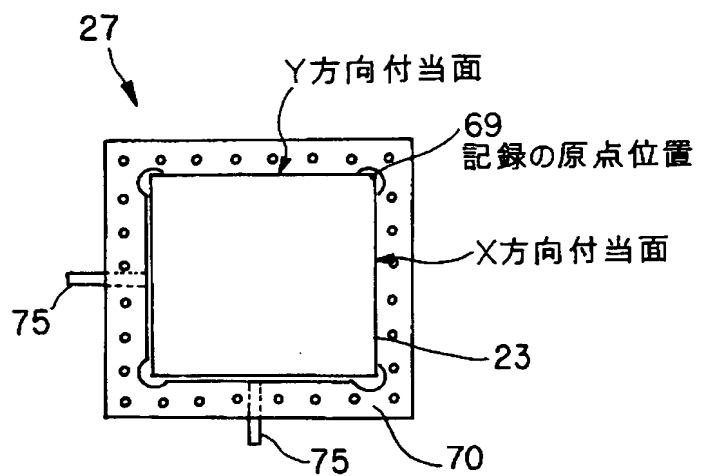
【図 7】



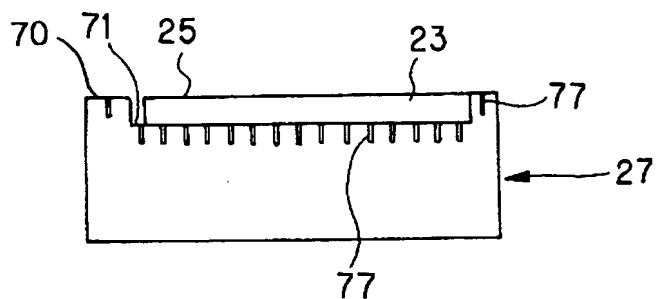
【図 8】



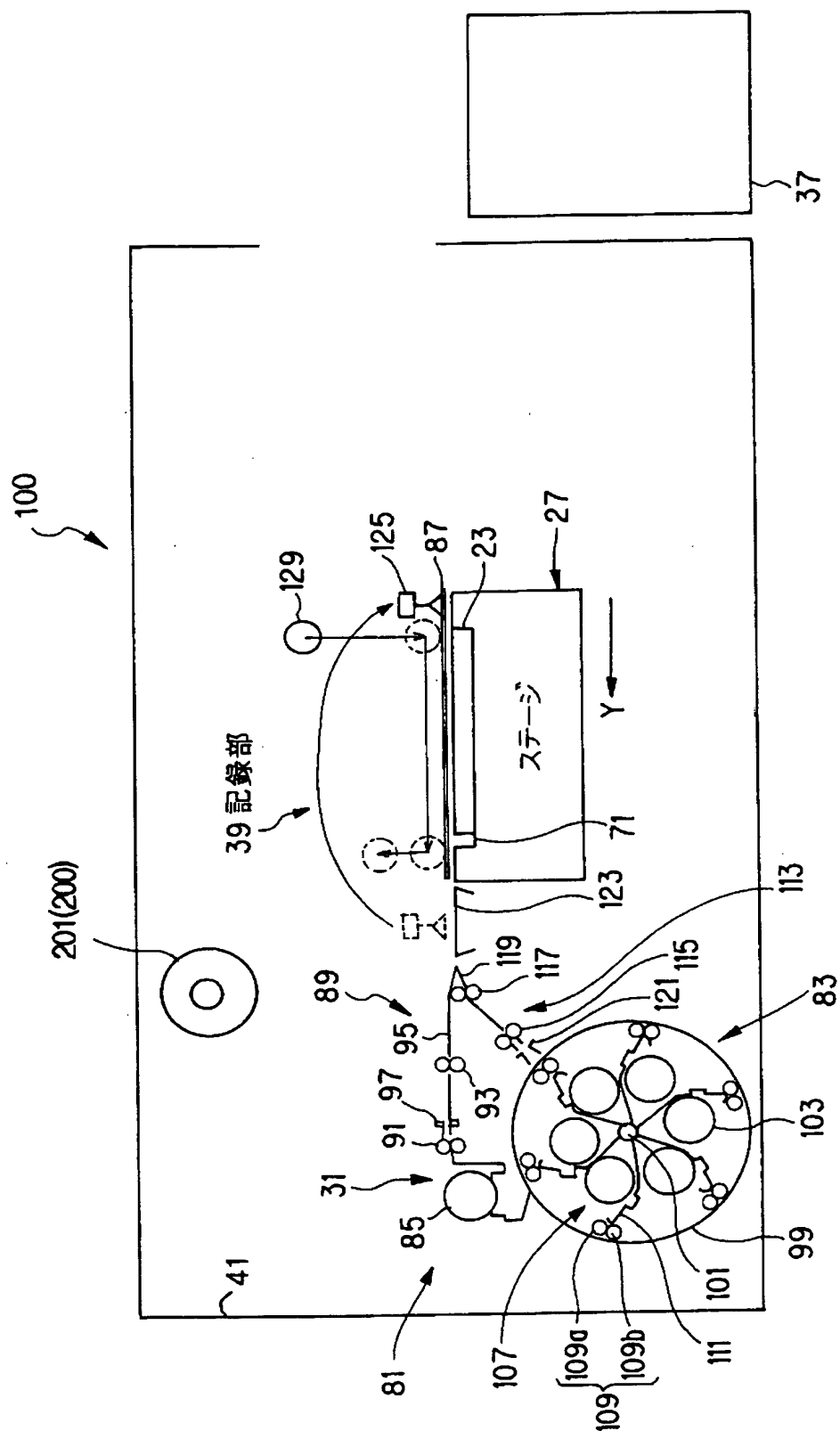
【図 9】



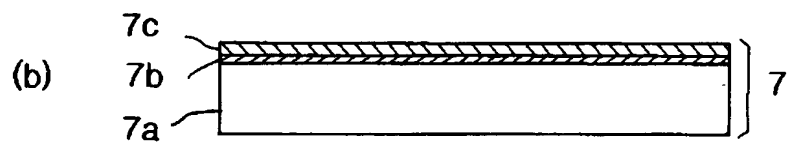
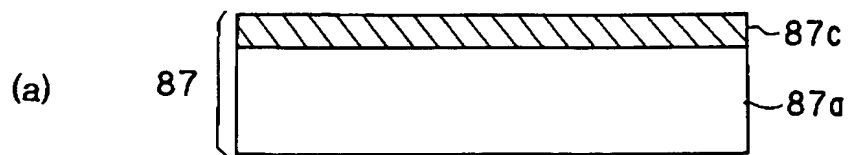
【図 10】



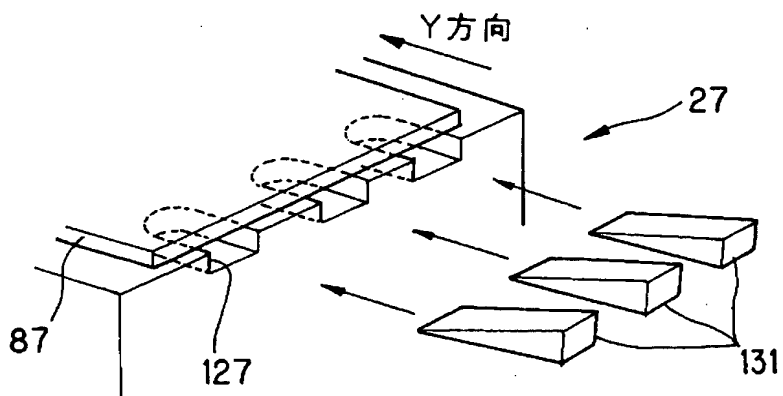
【図 11】



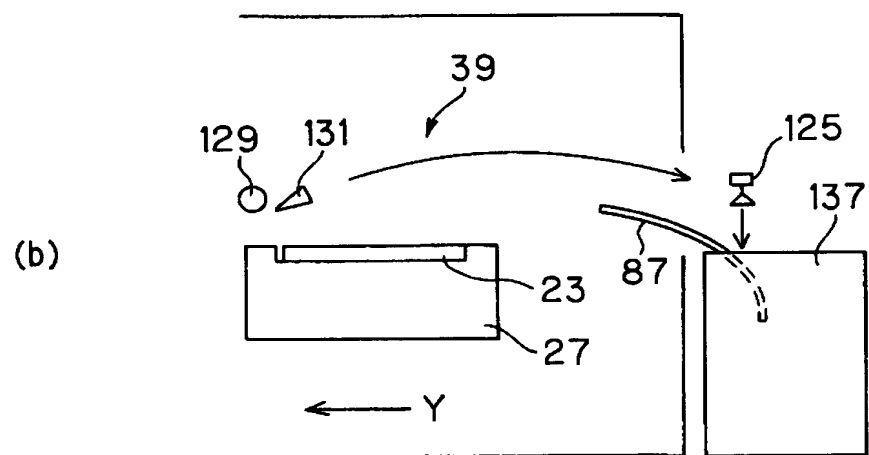
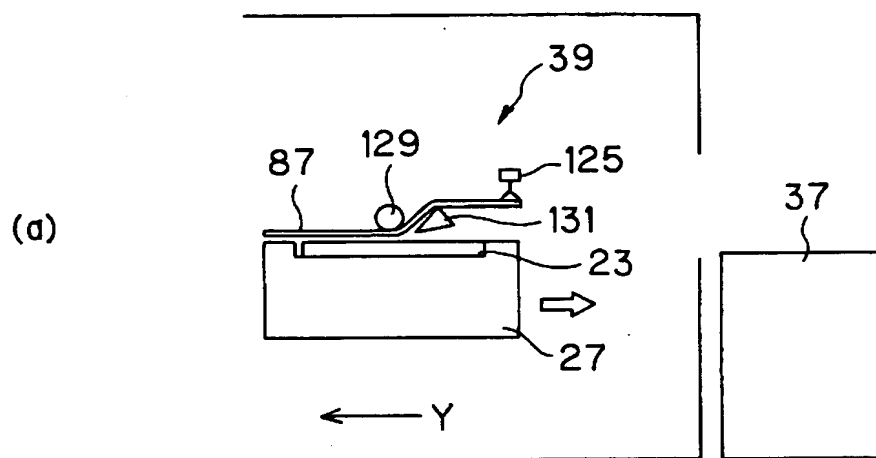
【図 12】



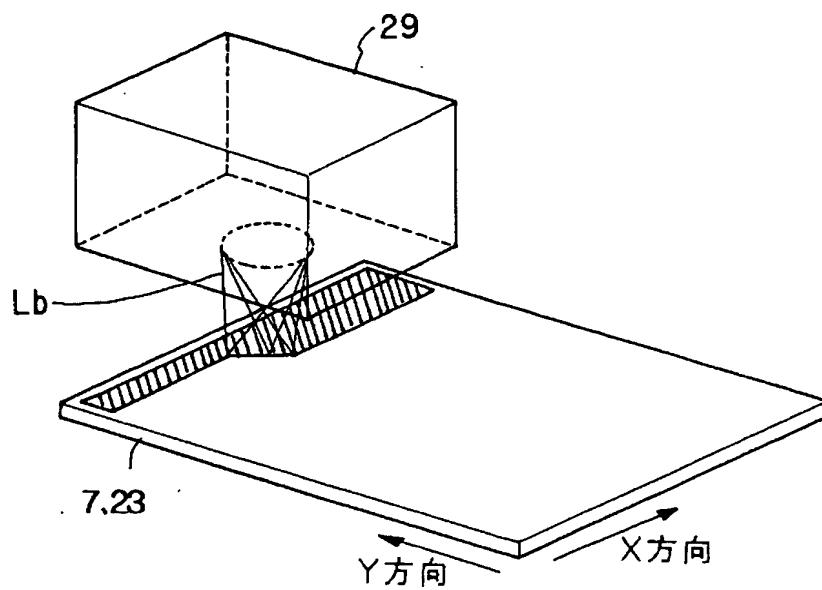
【図 13】



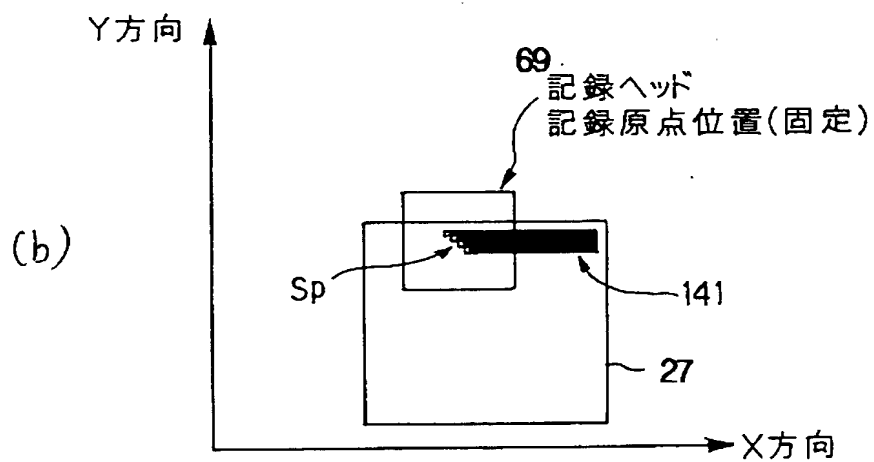
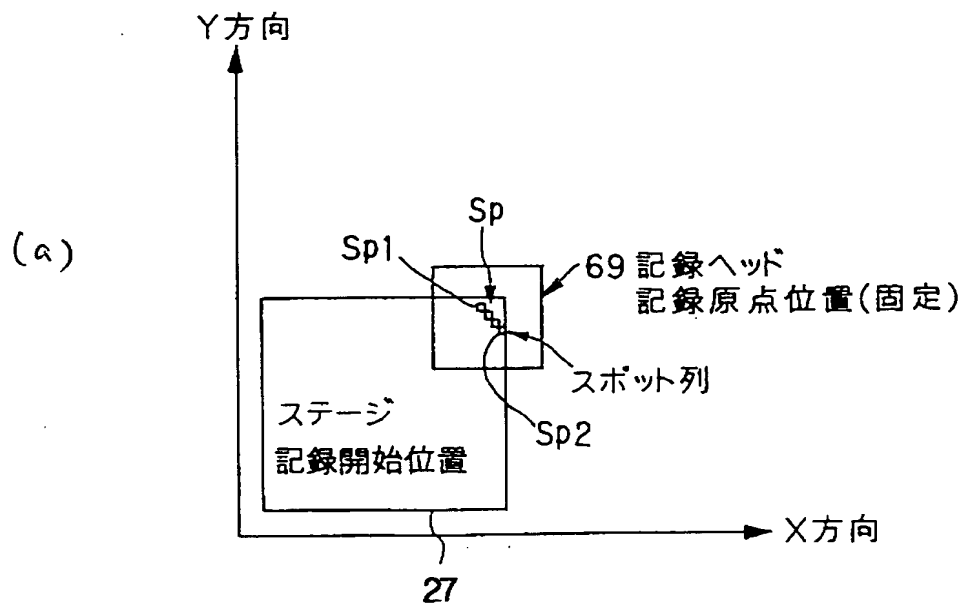
【図 14】



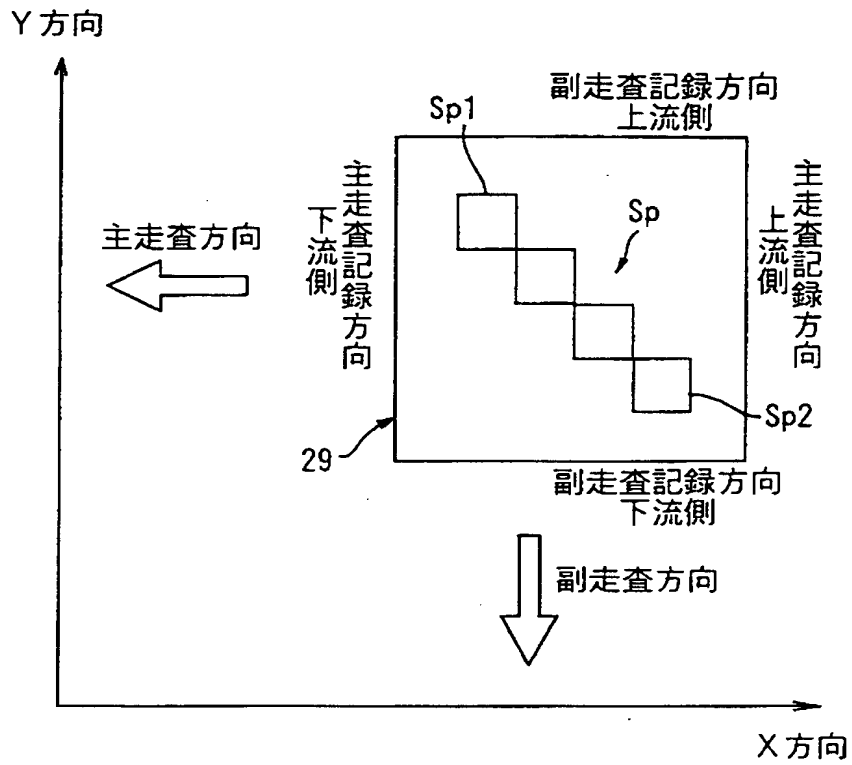
【図 15】



【図 16】

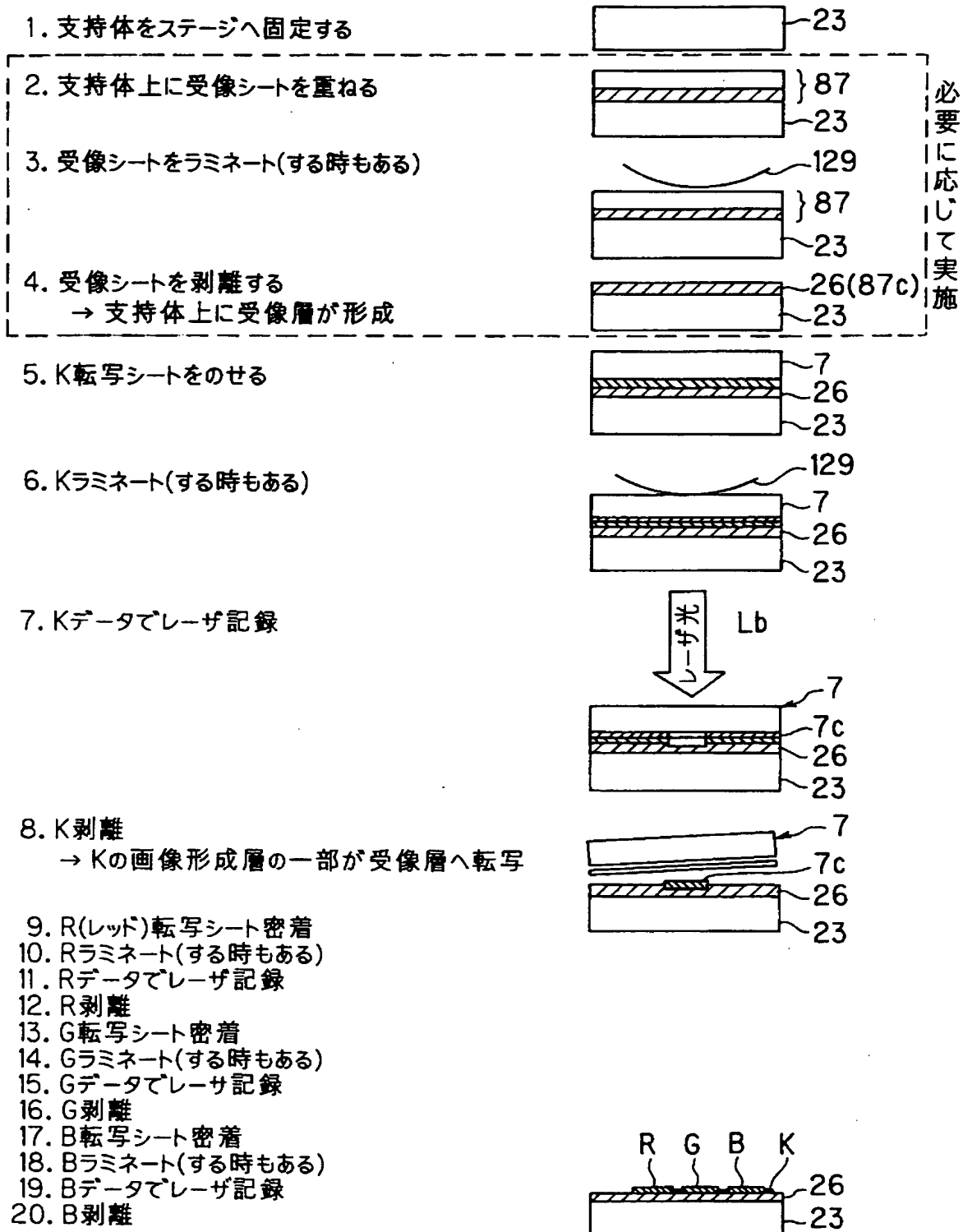


【図 17】

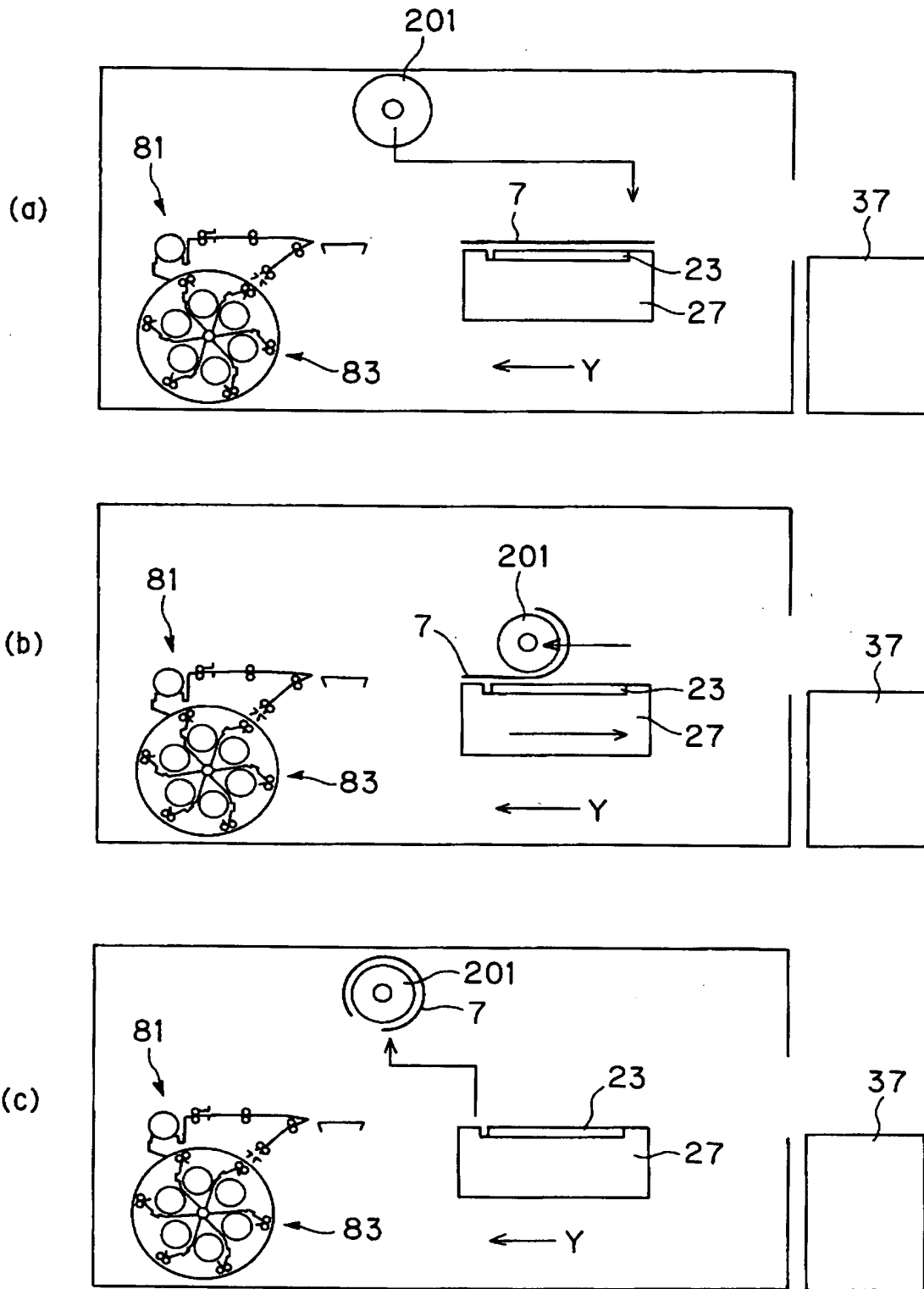


【図 18】

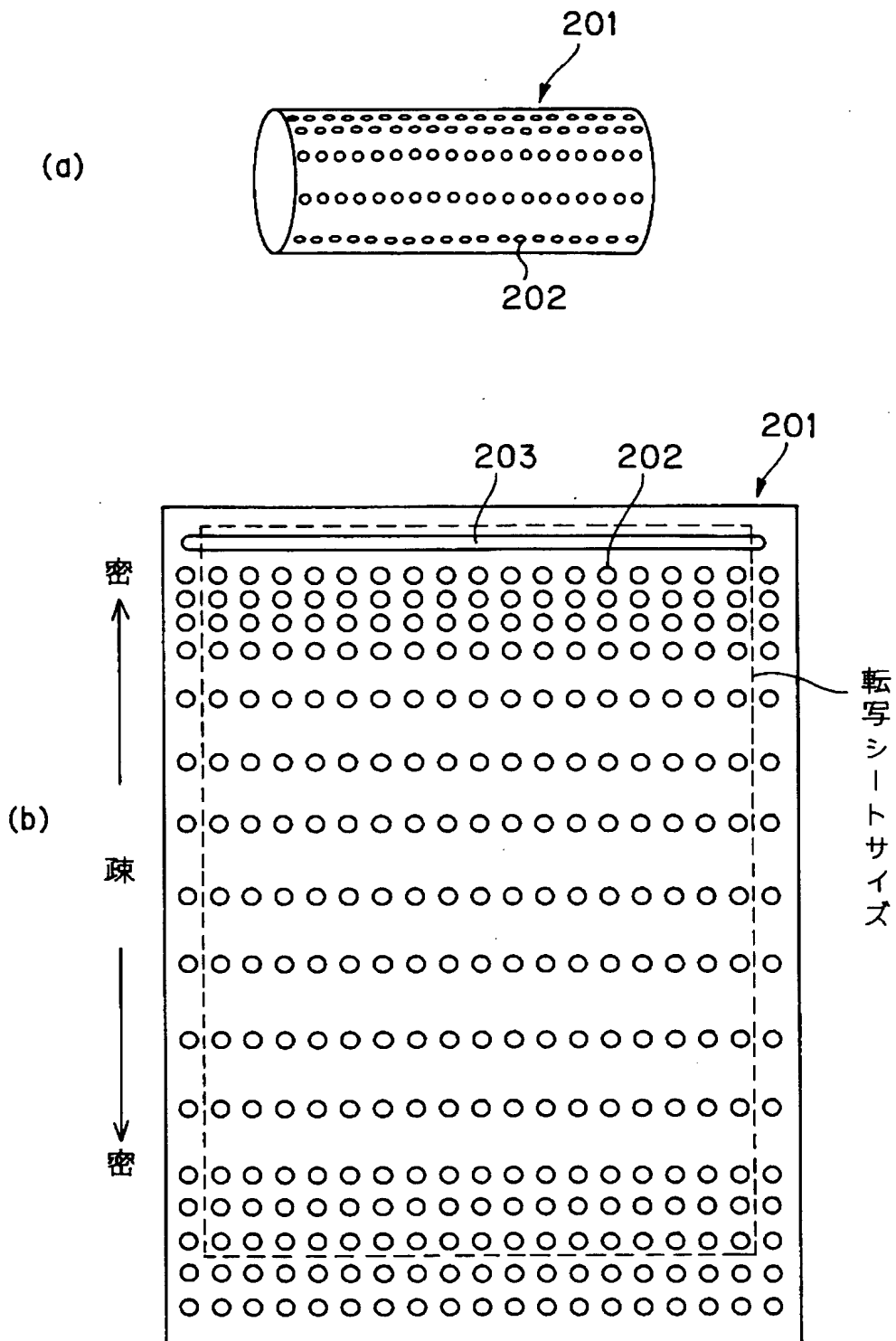
記録工程図



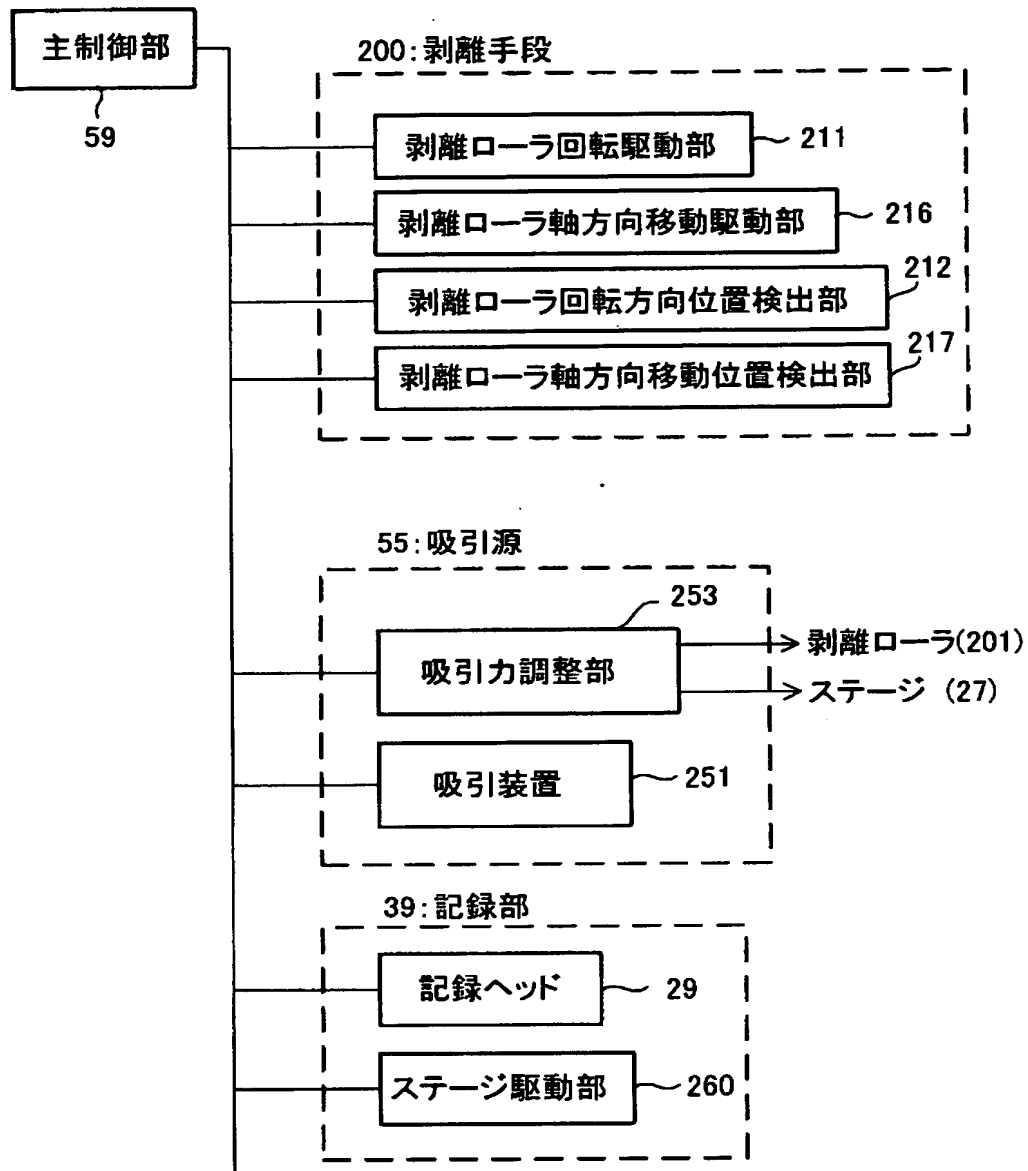
【図 19】



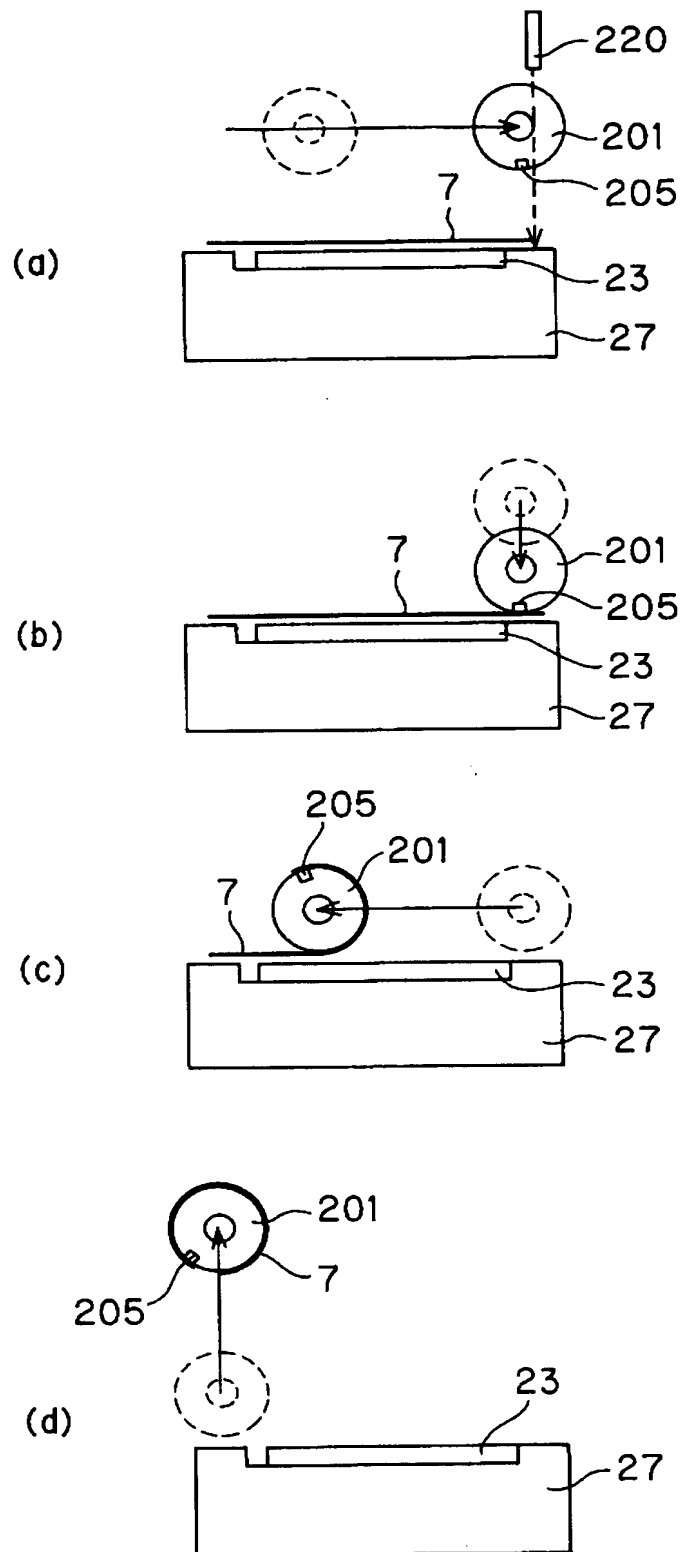
【図 20】



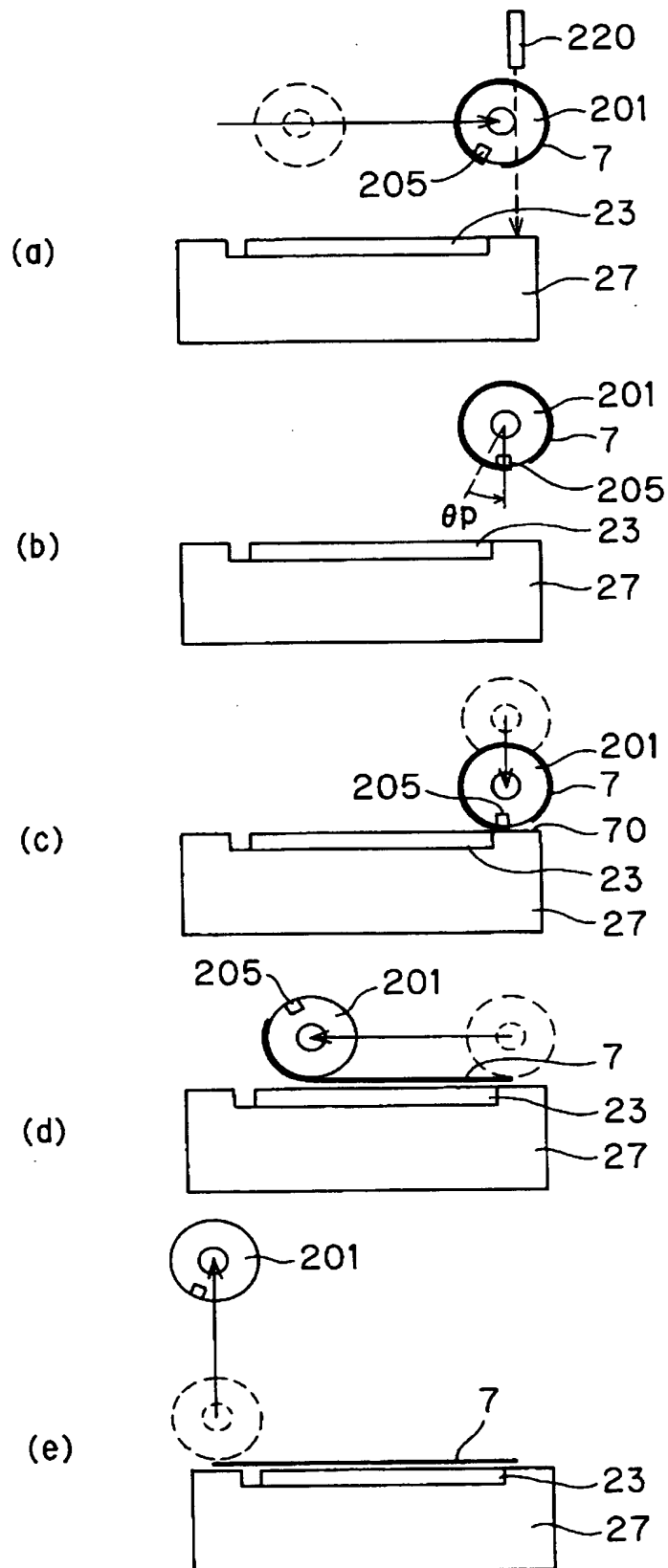
【図 21】



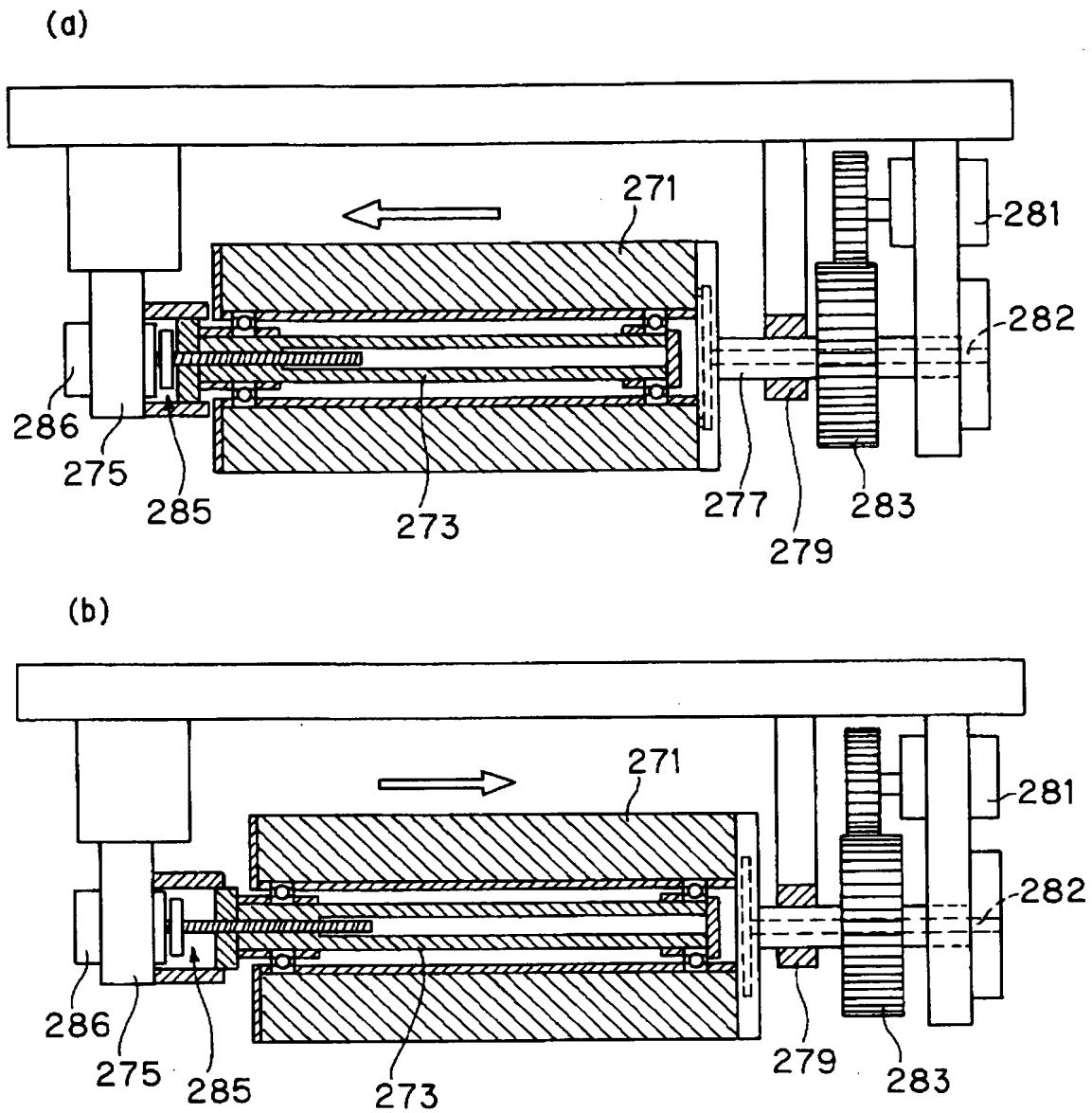
【図 22】



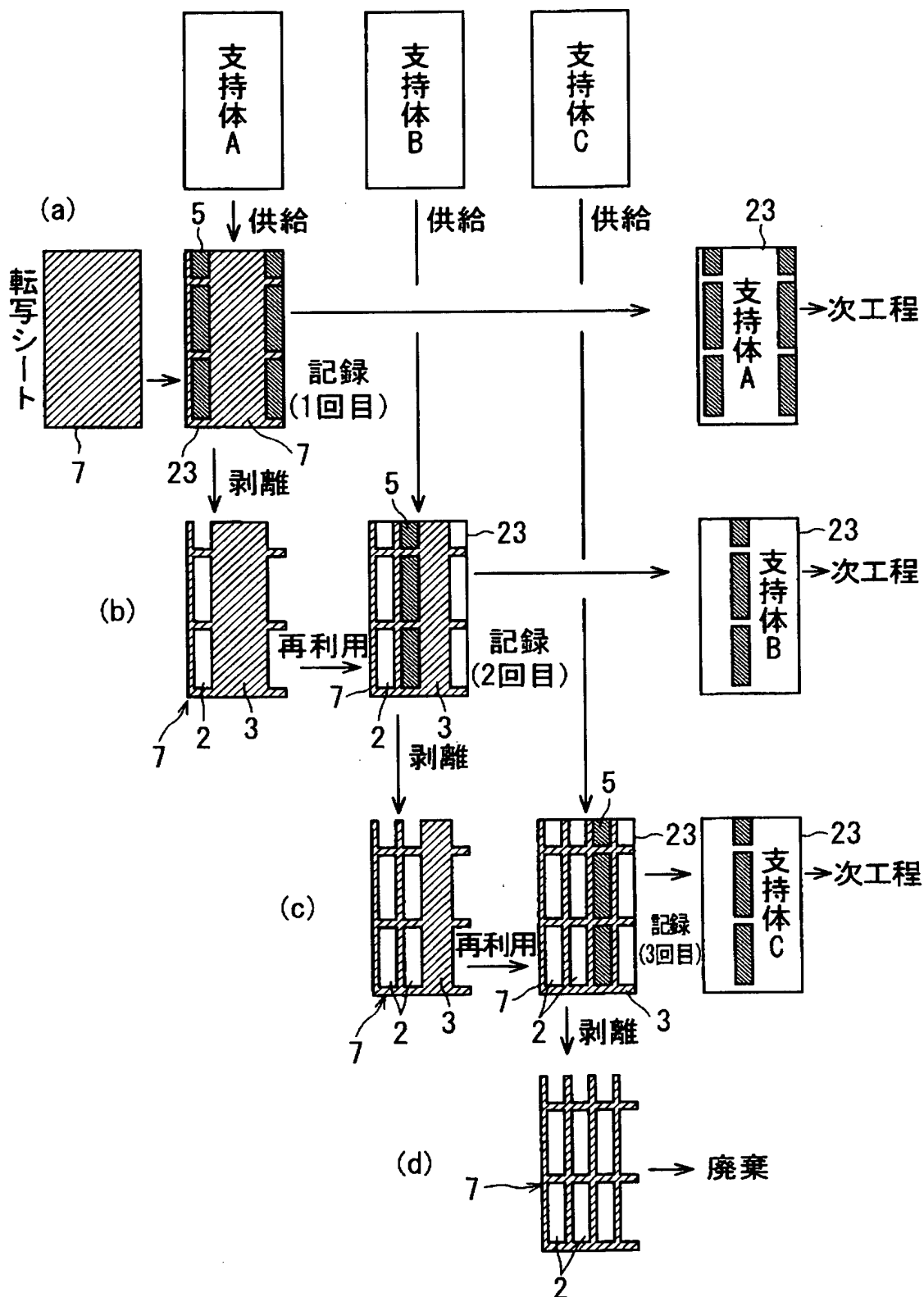
【図 23】



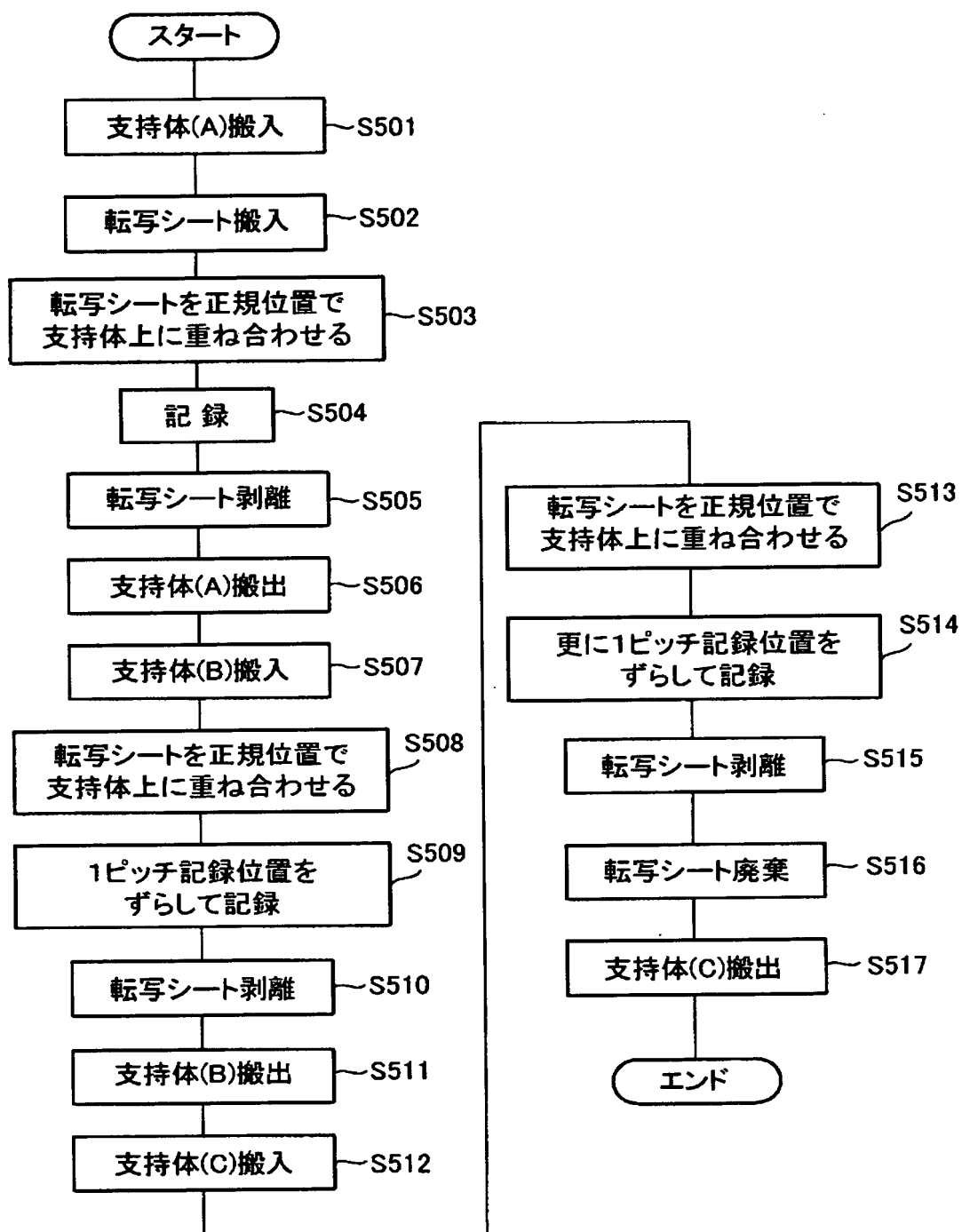
【図 24】



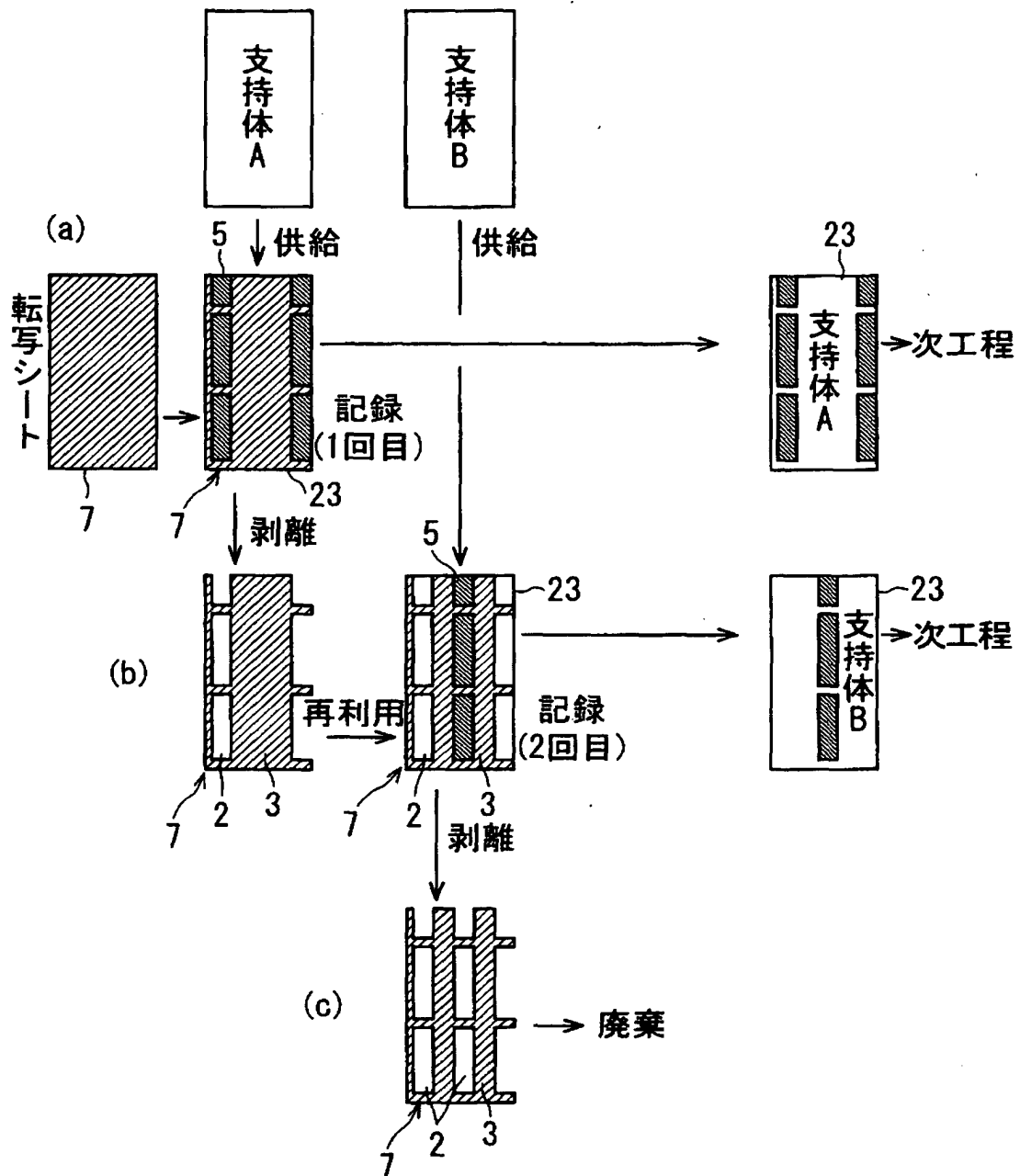
【図 25】



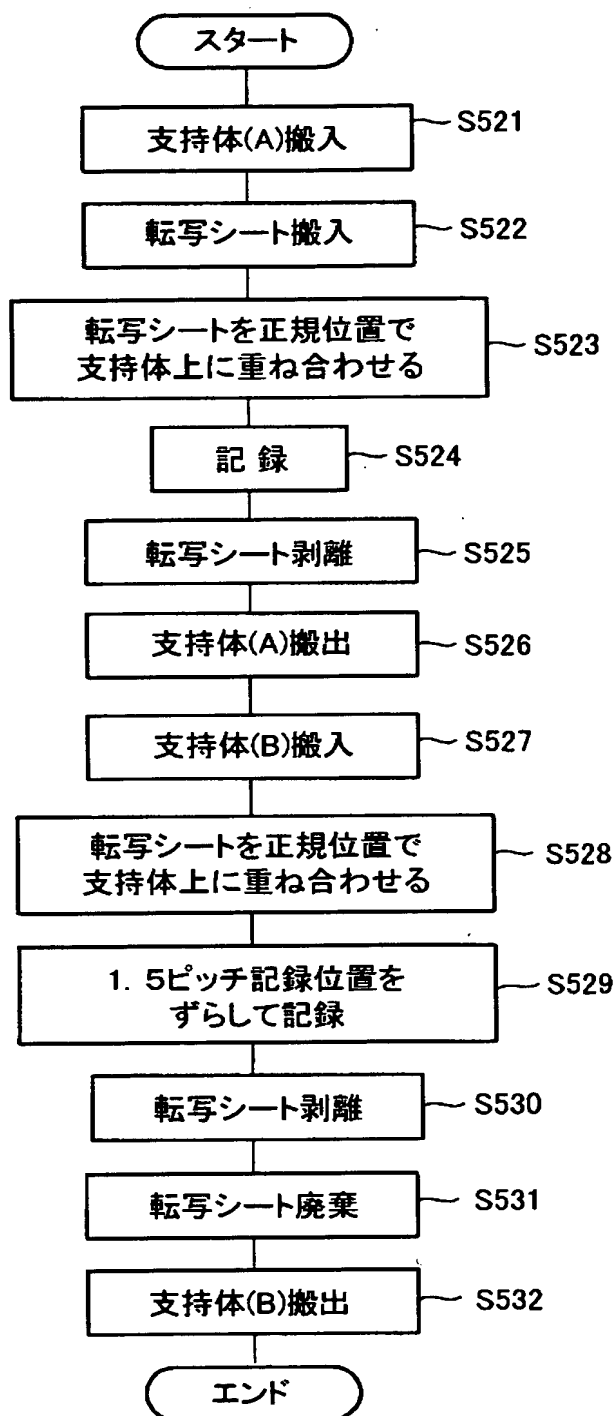
【図 26】



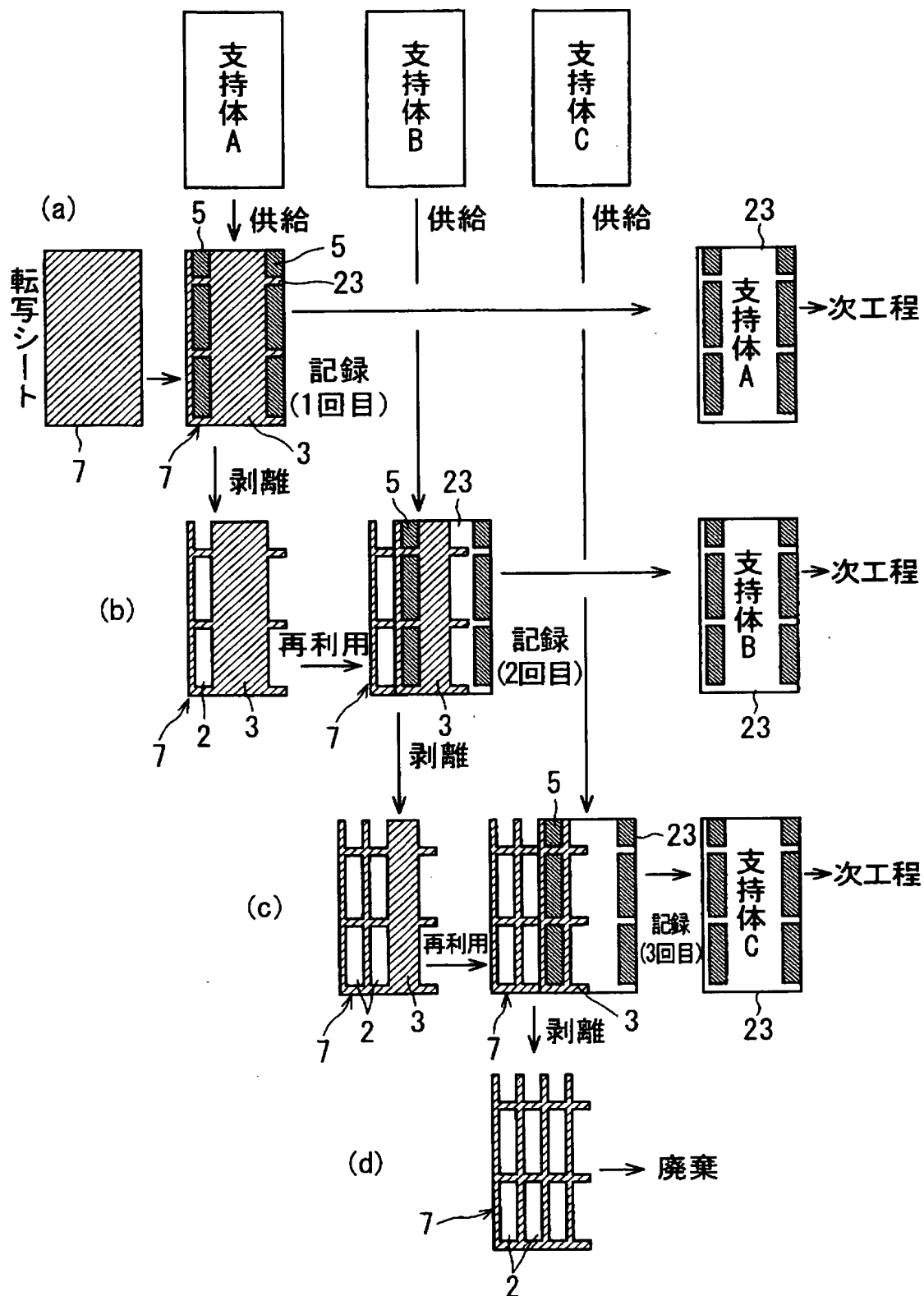
【図 27】



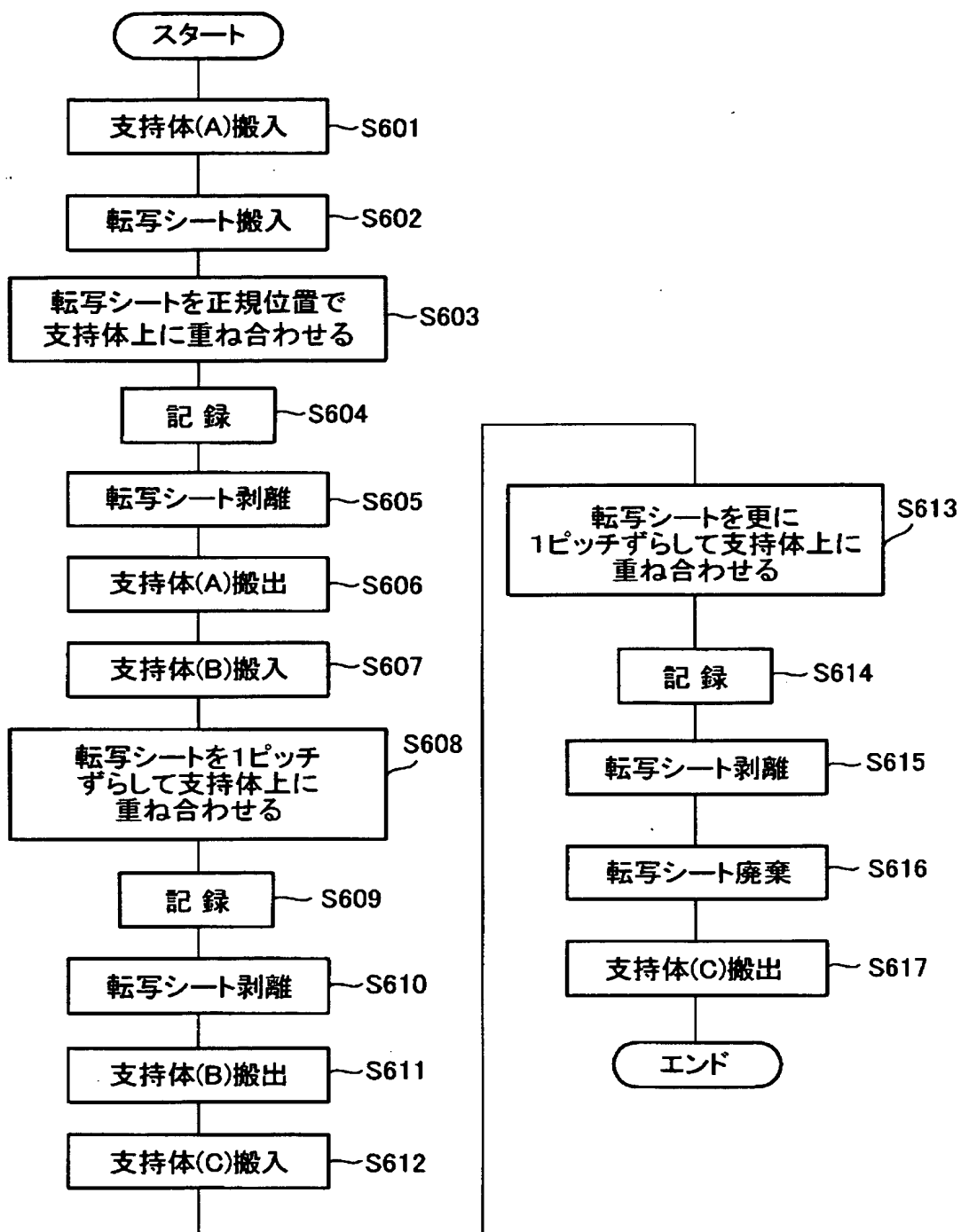
【図 28】



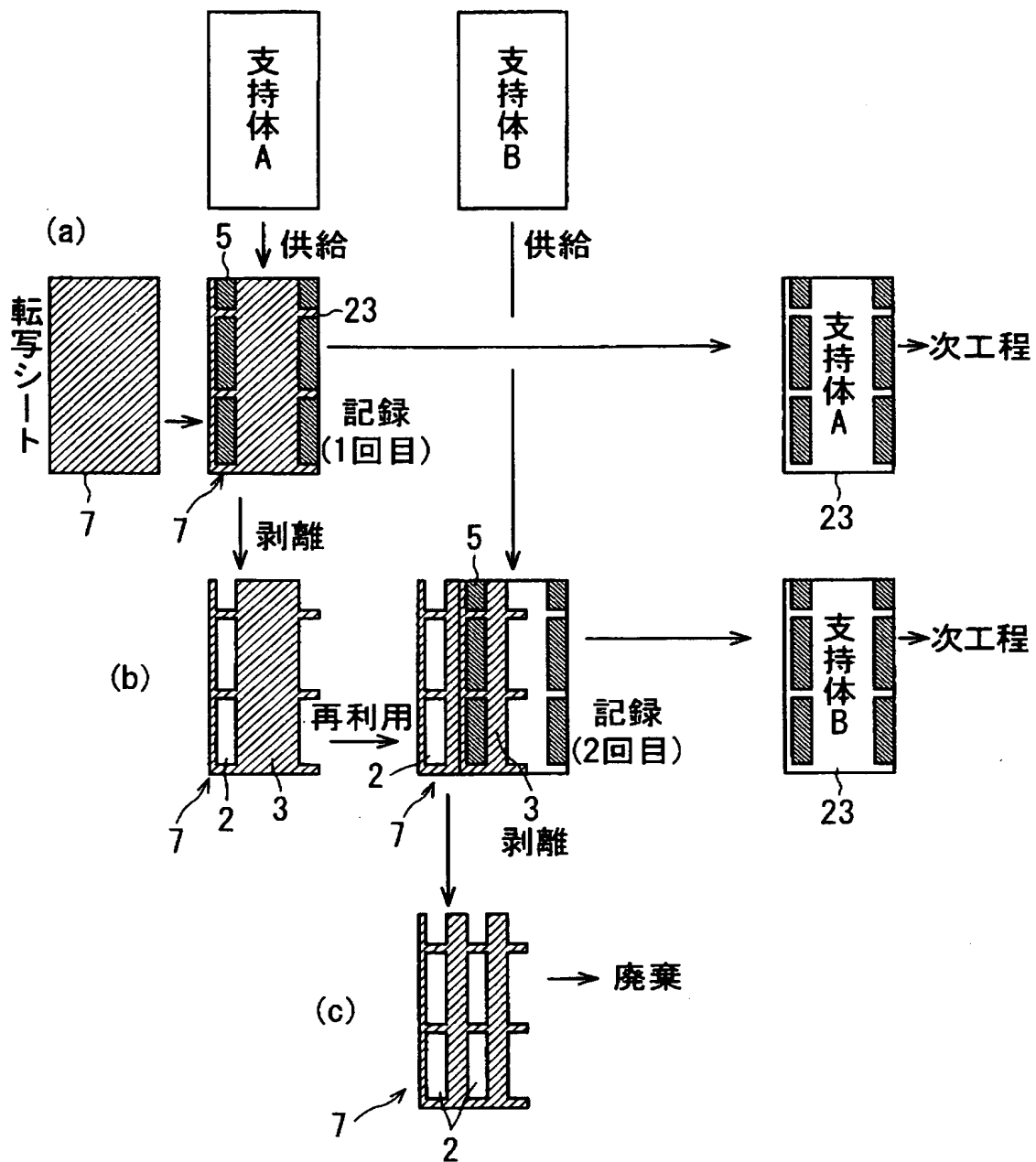
【図 29】



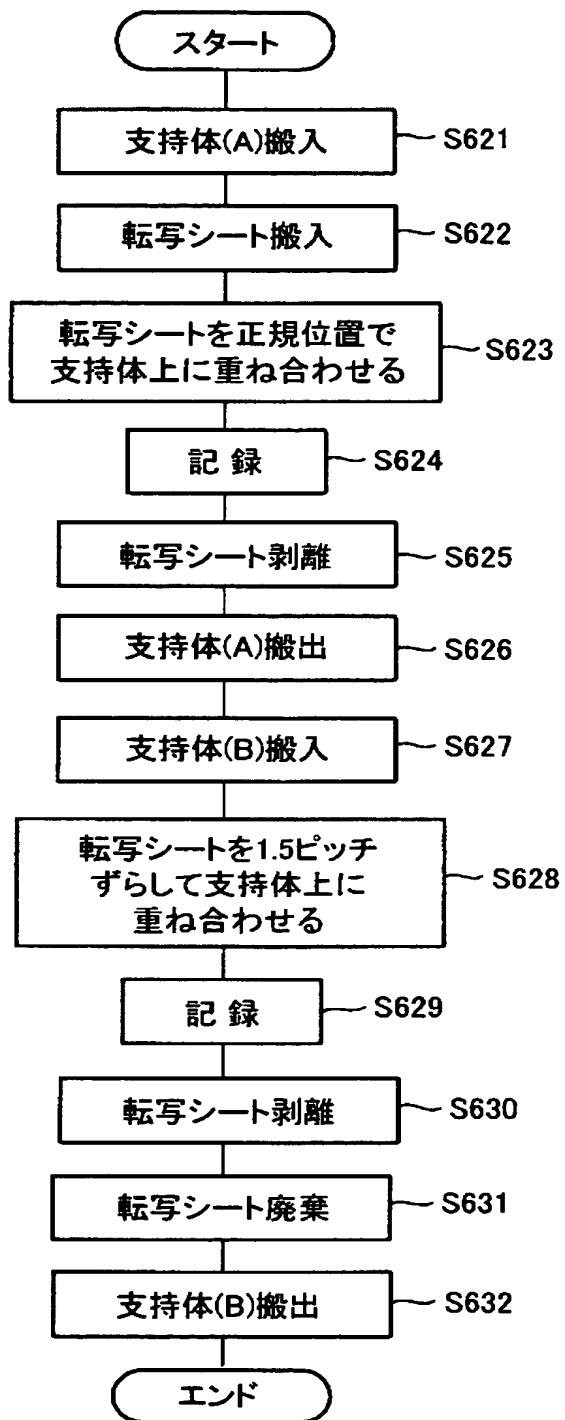
【図 30】



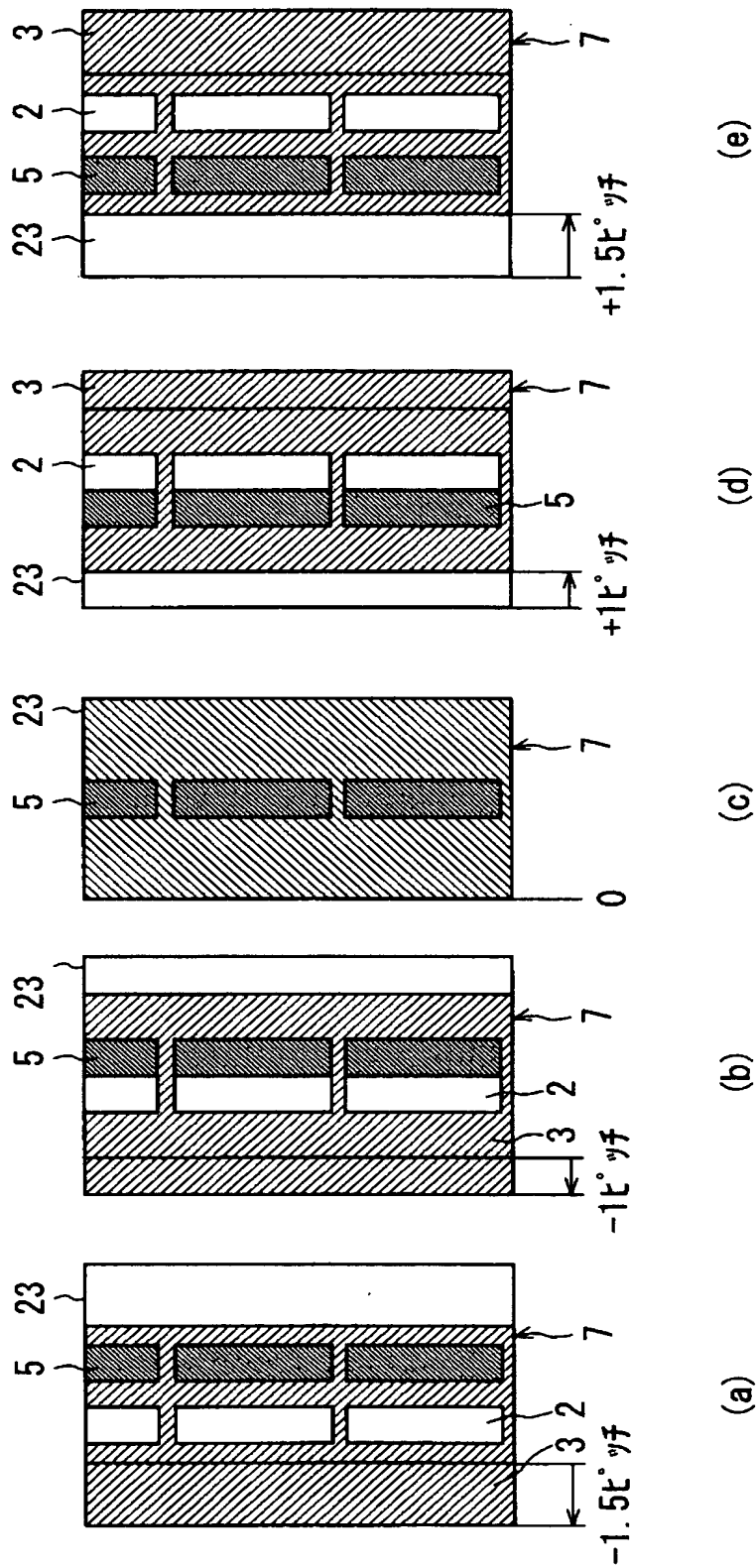
【図 31】



【図 3 2】

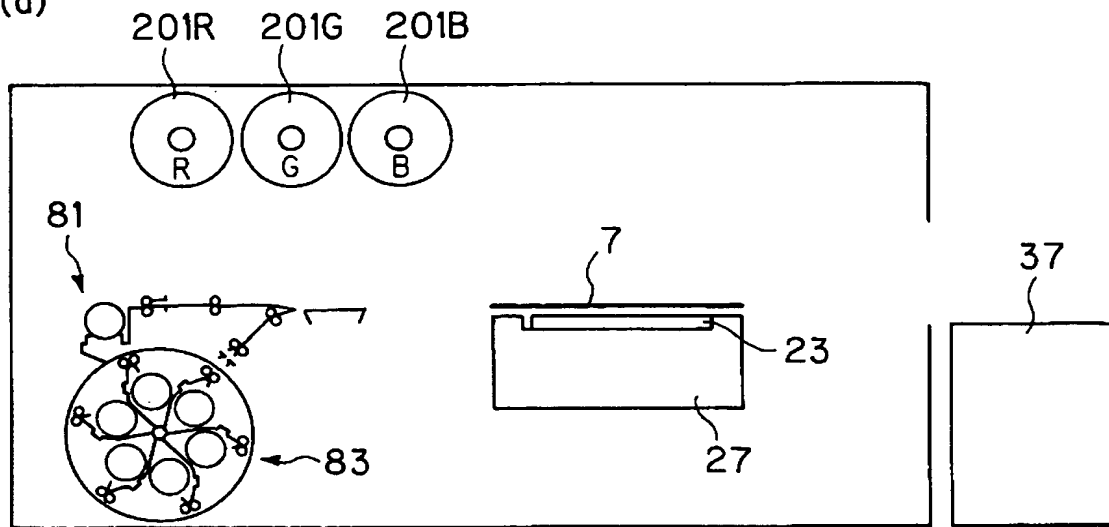


【図 33】

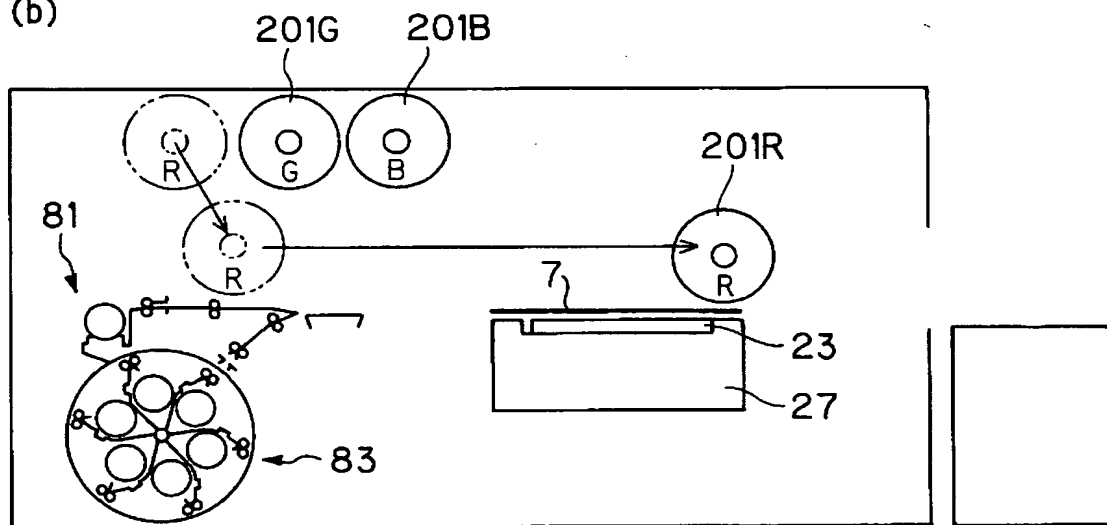


【図 34】

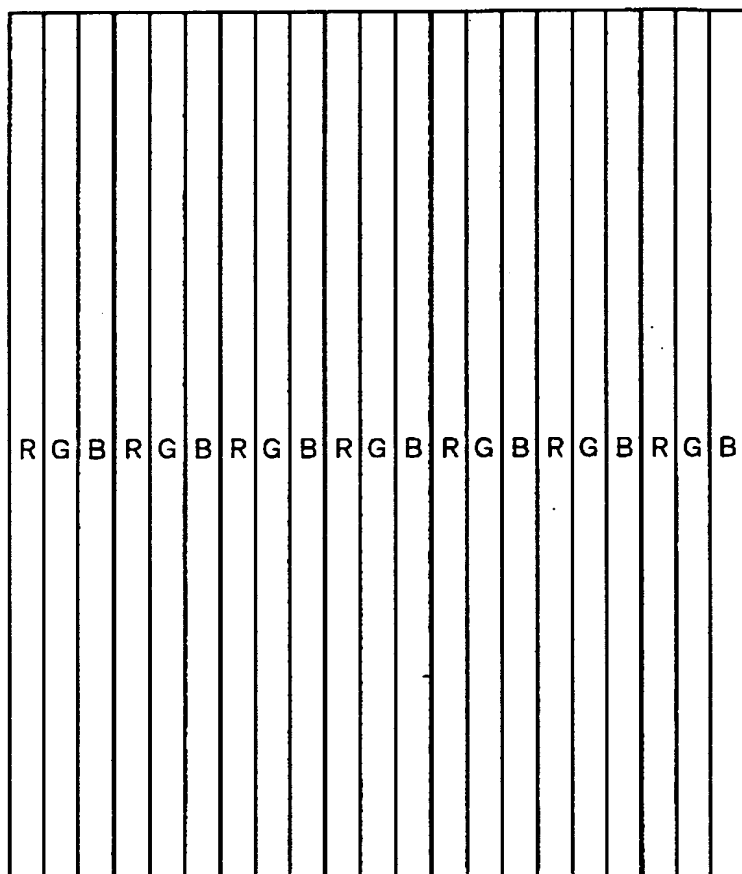
(a)



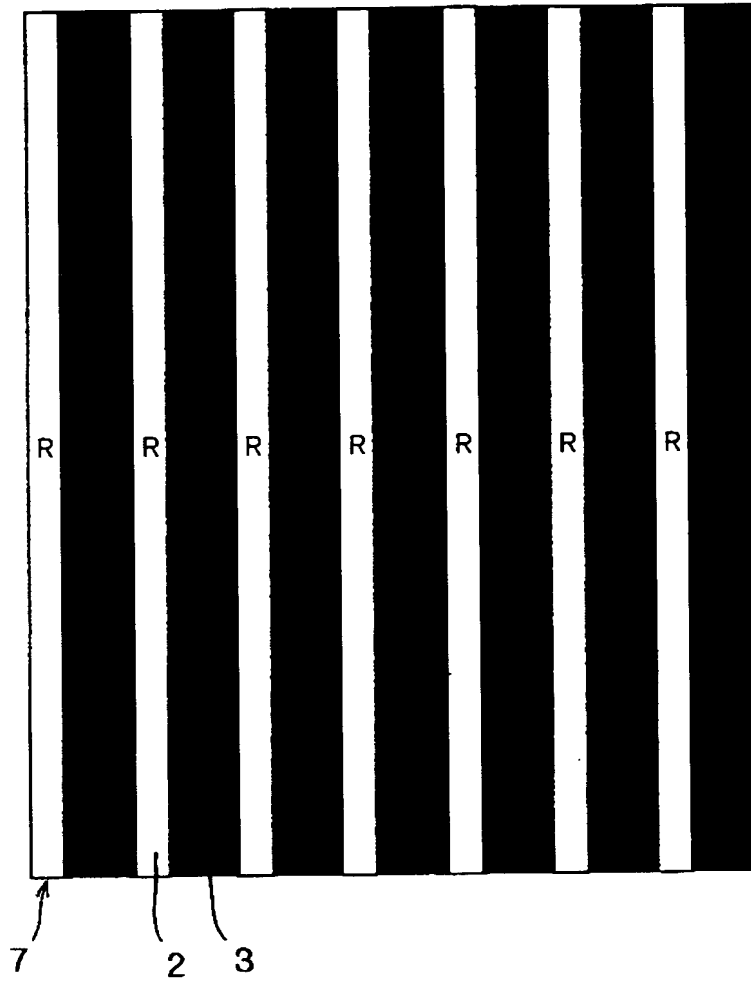
(b)



【図 3 5】



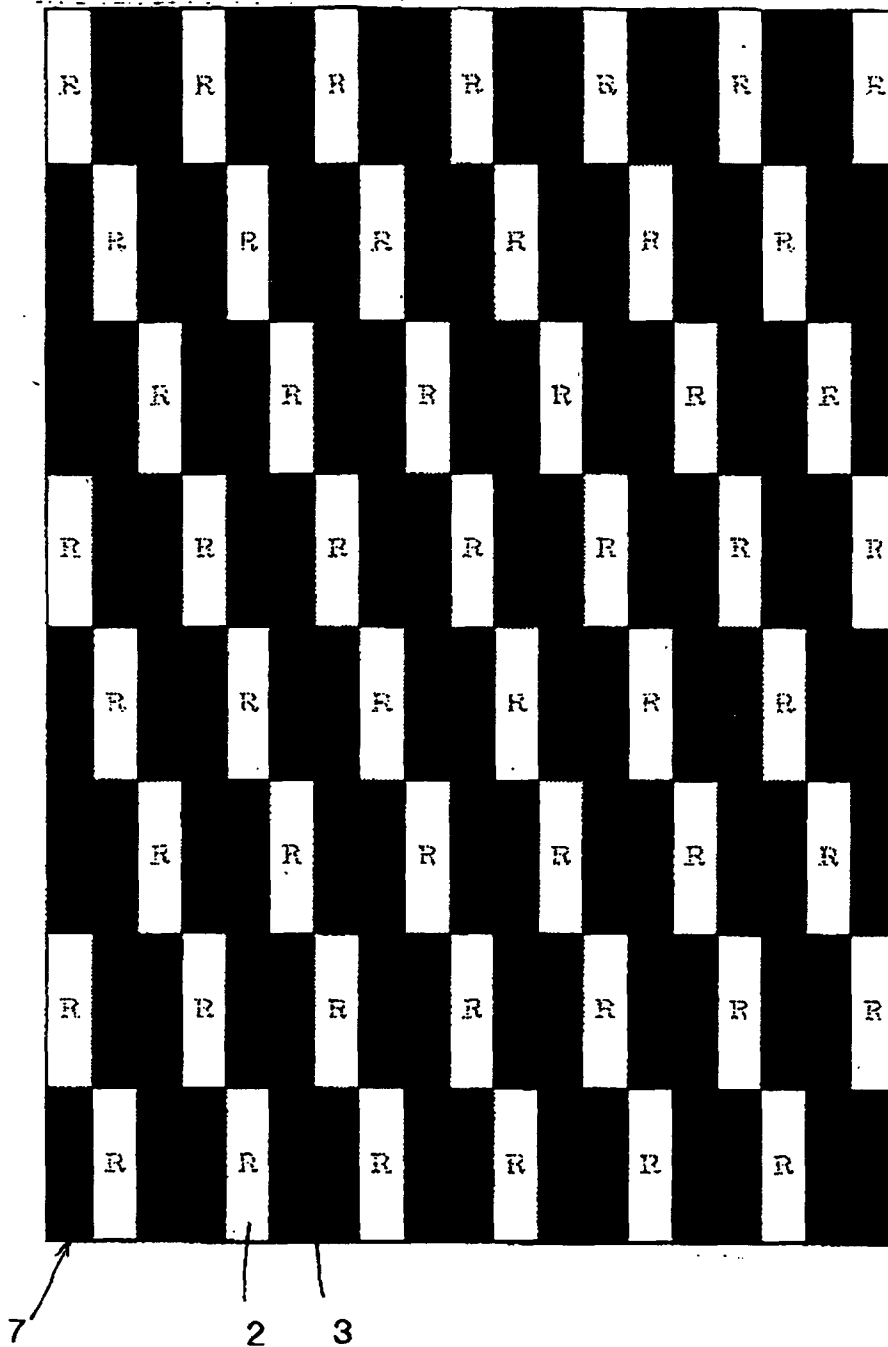
【図 36】



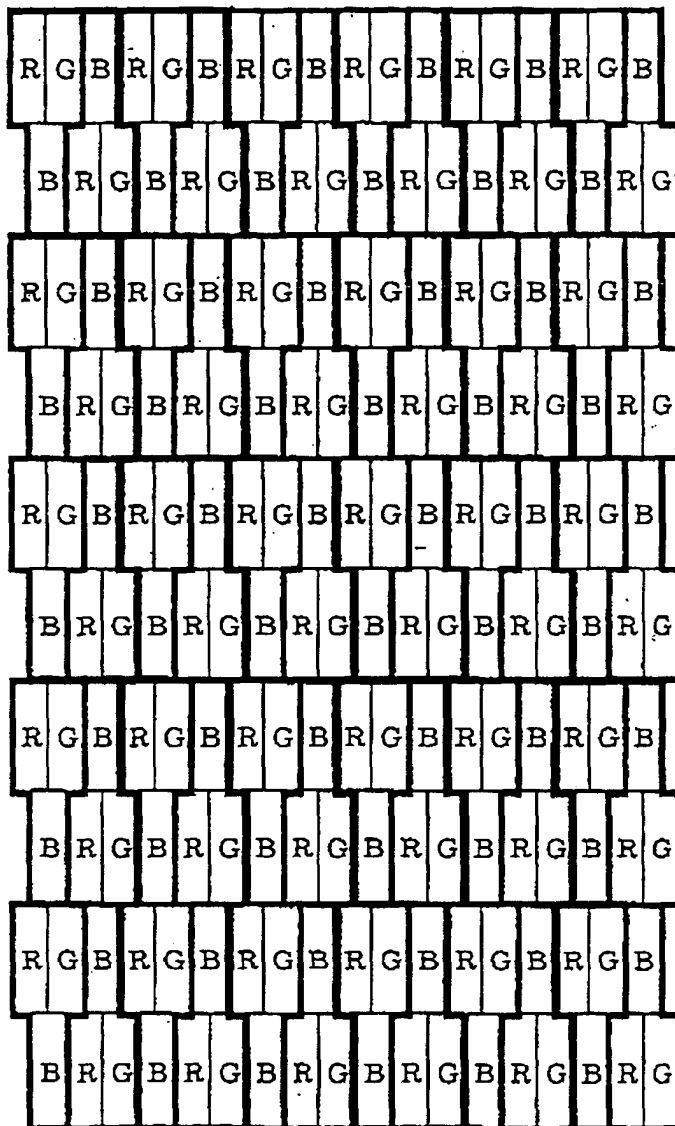
【図 37】

R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R
B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B
G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G
R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R
B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B
G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G
R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R
B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B	R	G	B

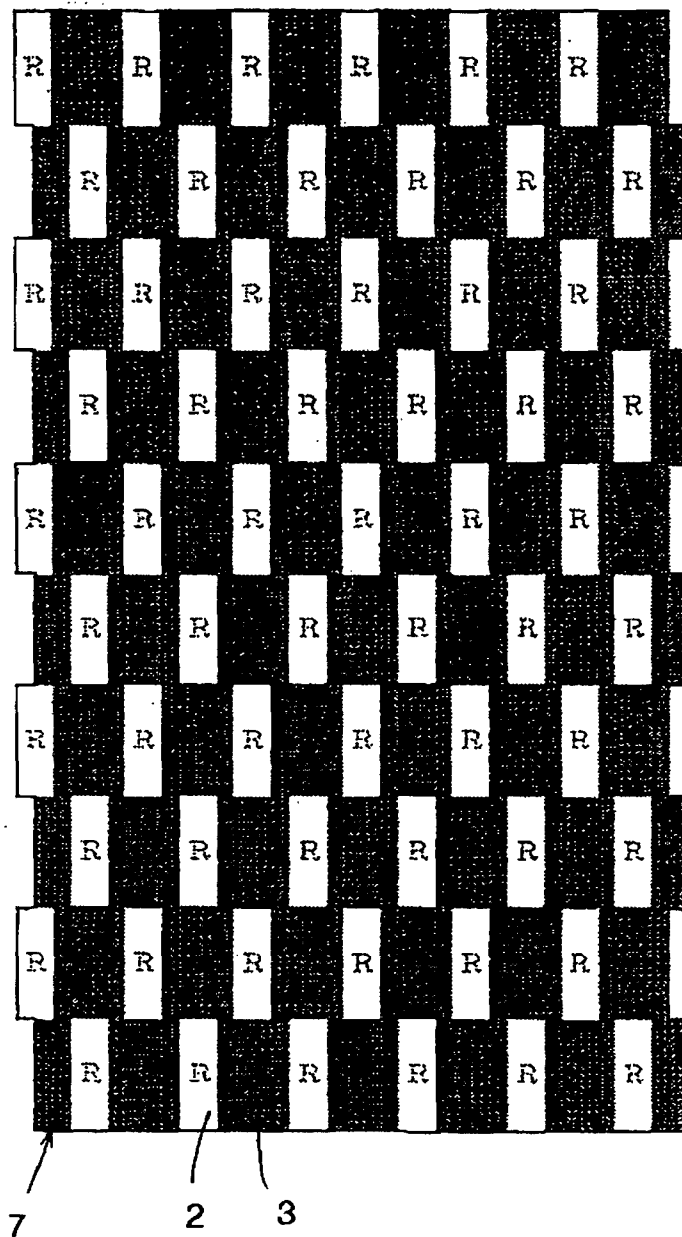
【図 38】



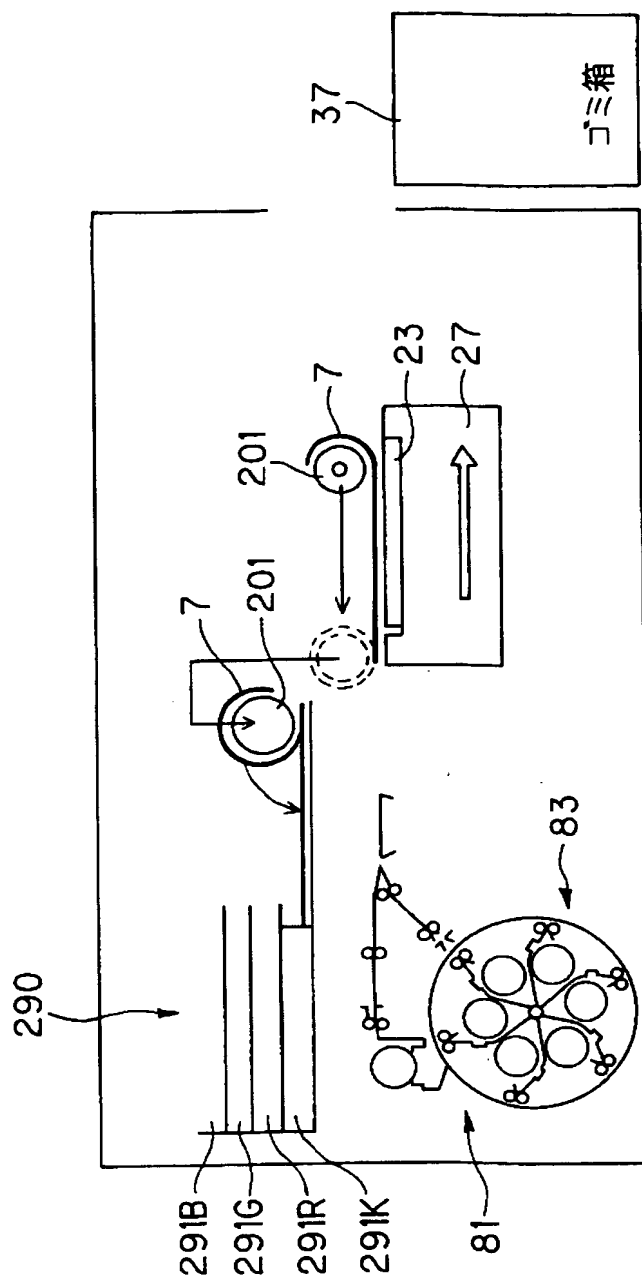
【図 39】



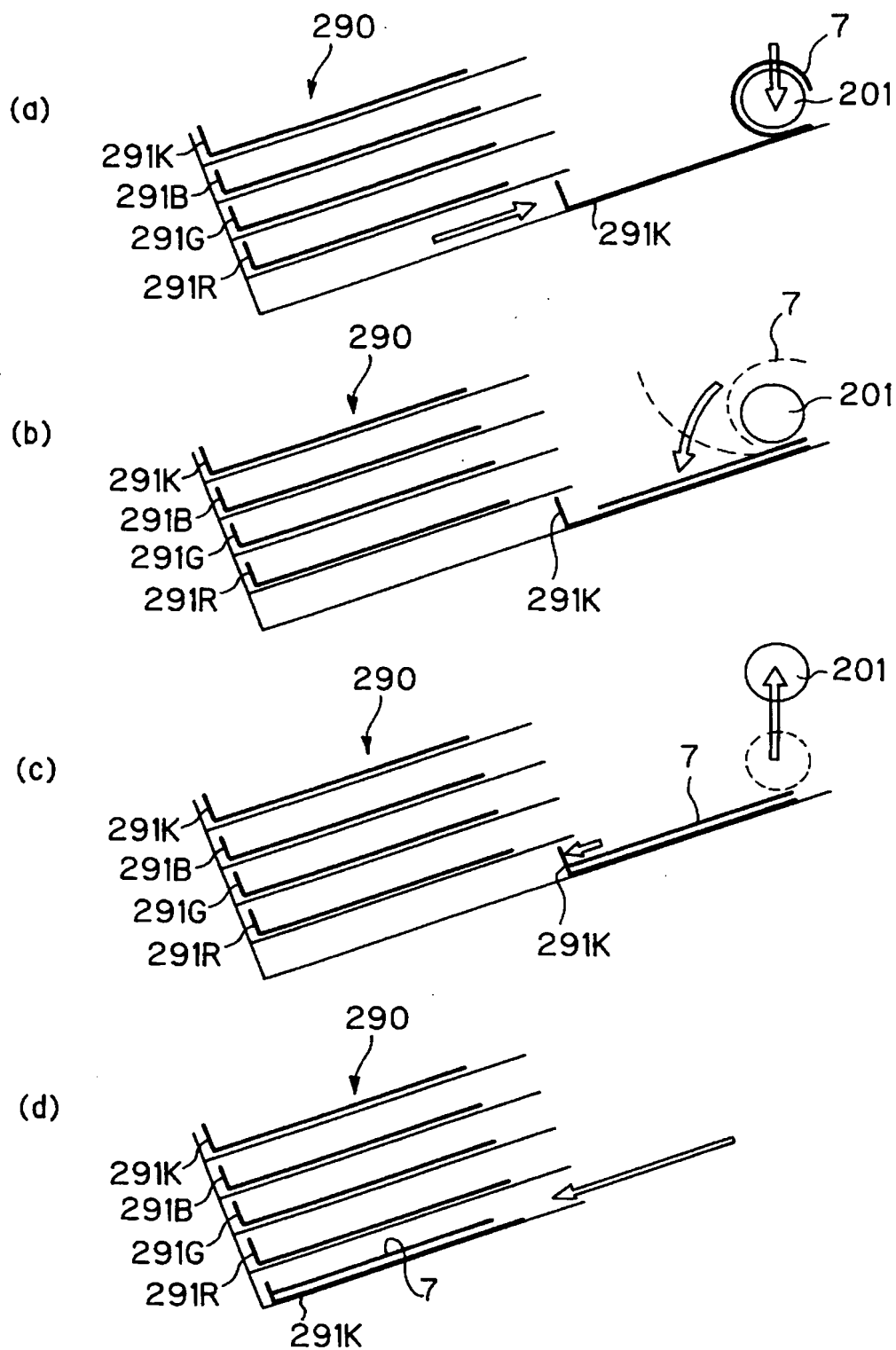
【図 40】



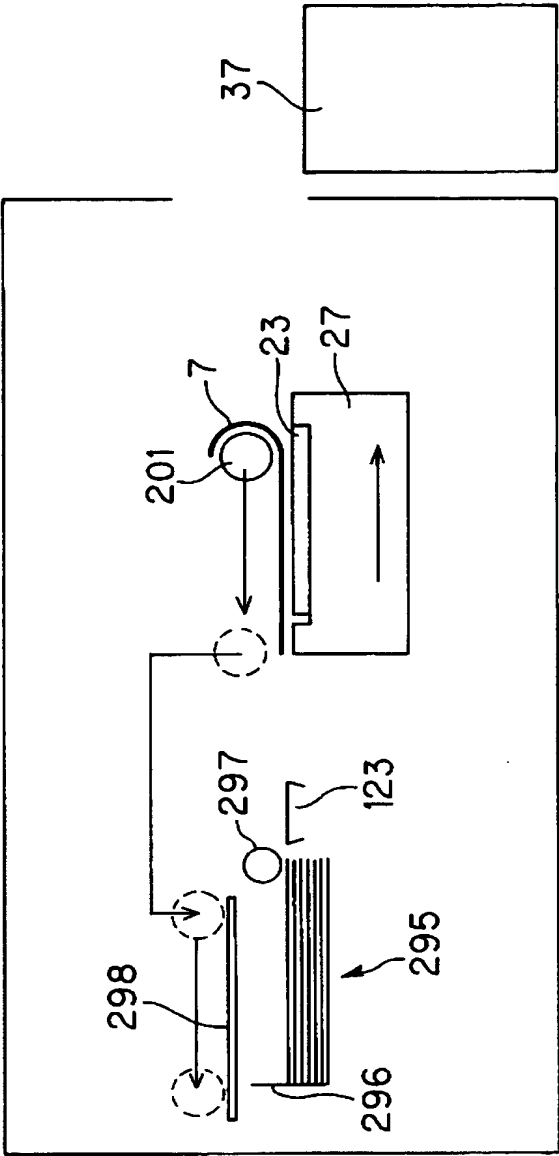
【図 41】



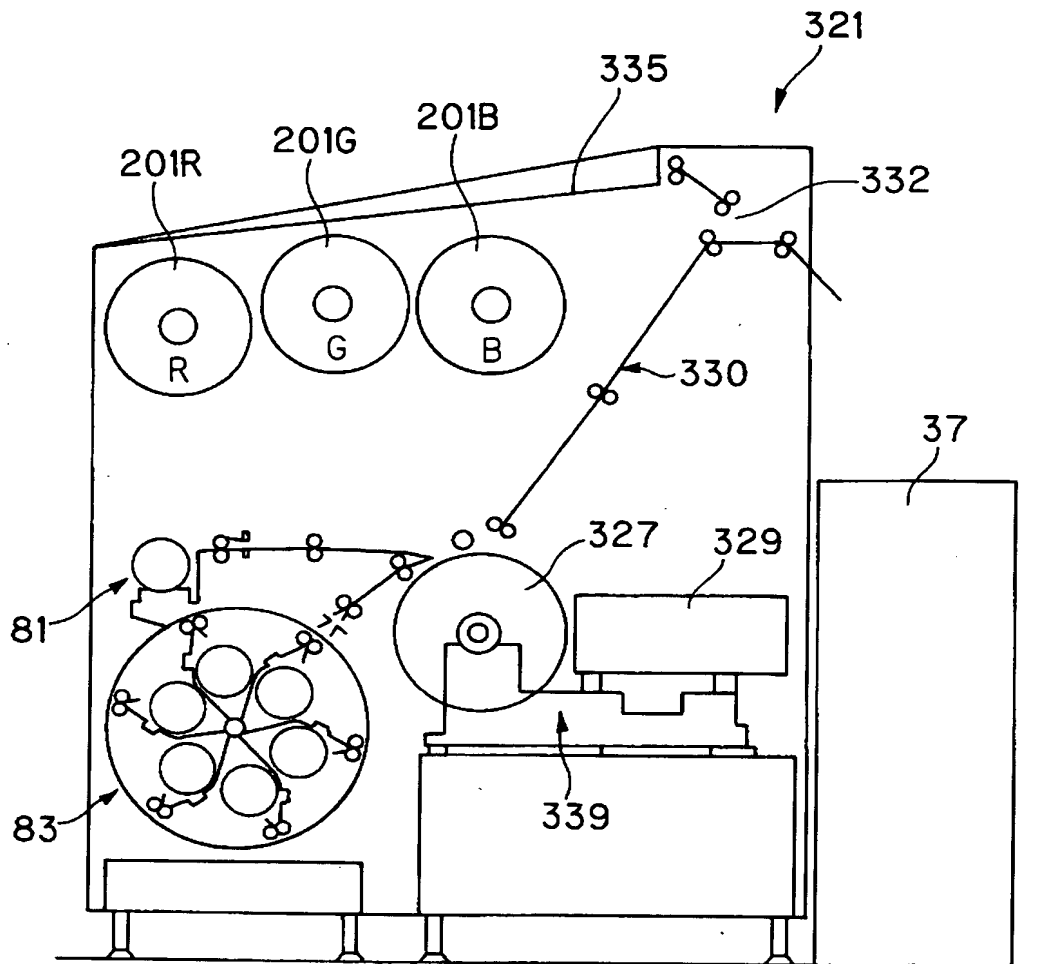
【図 42】



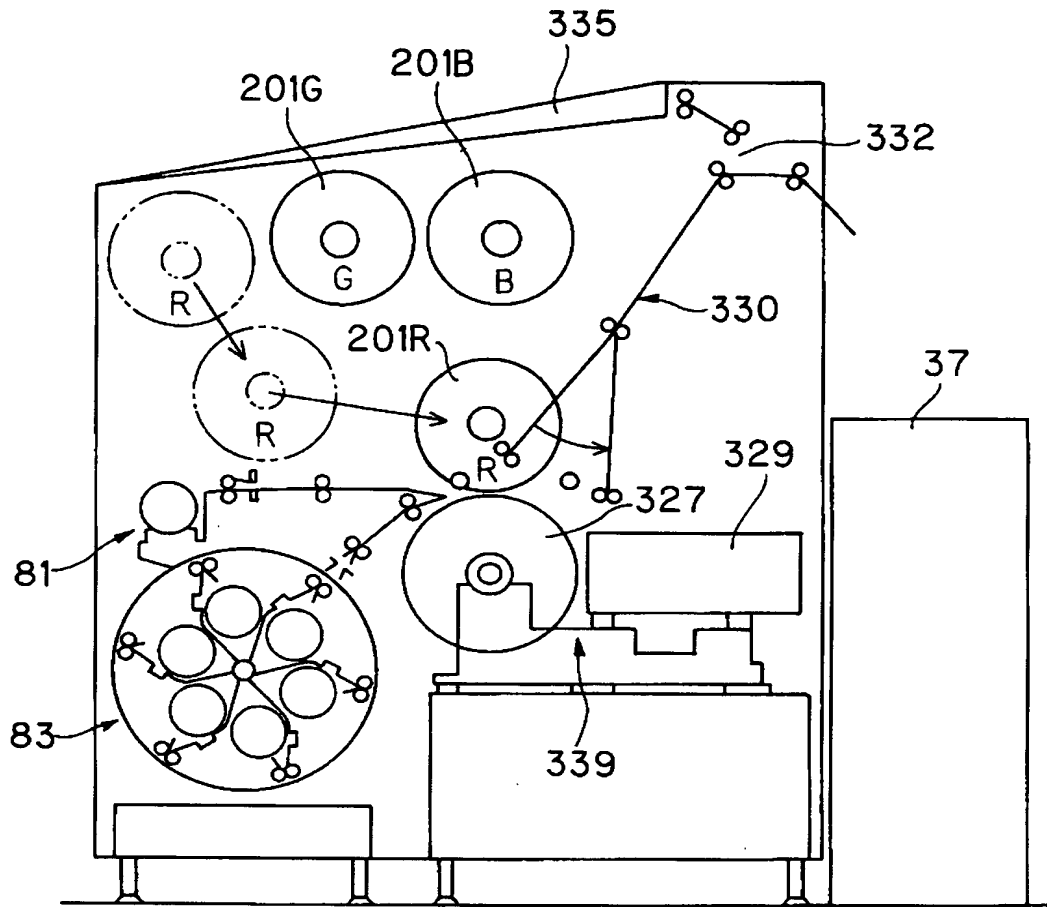
【図 43】



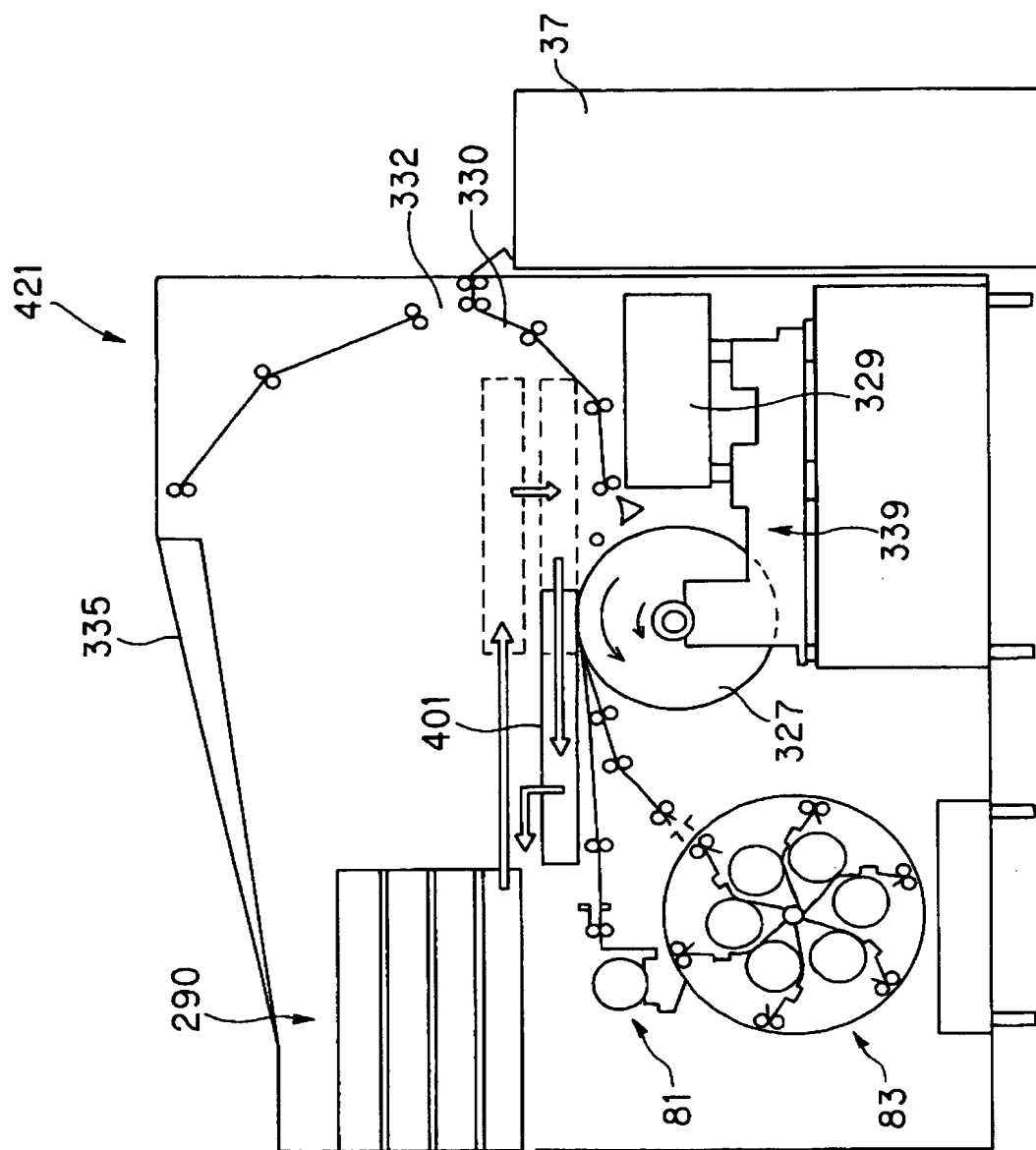
【図 44】



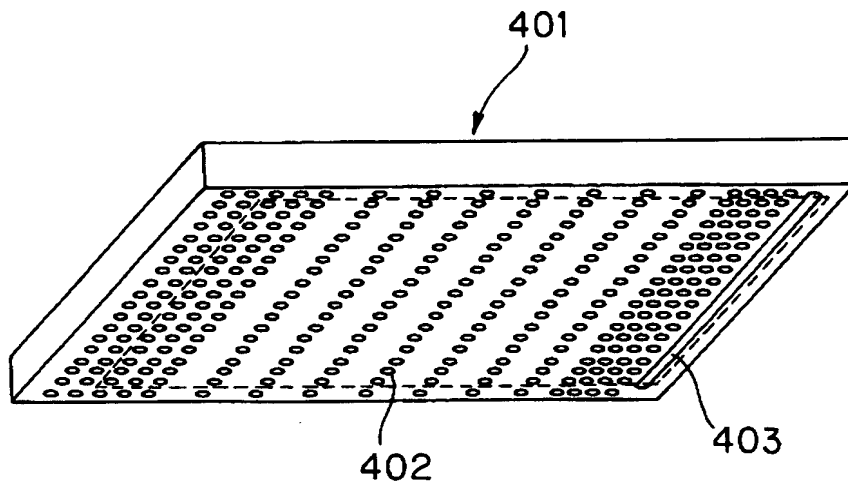
【図 45】



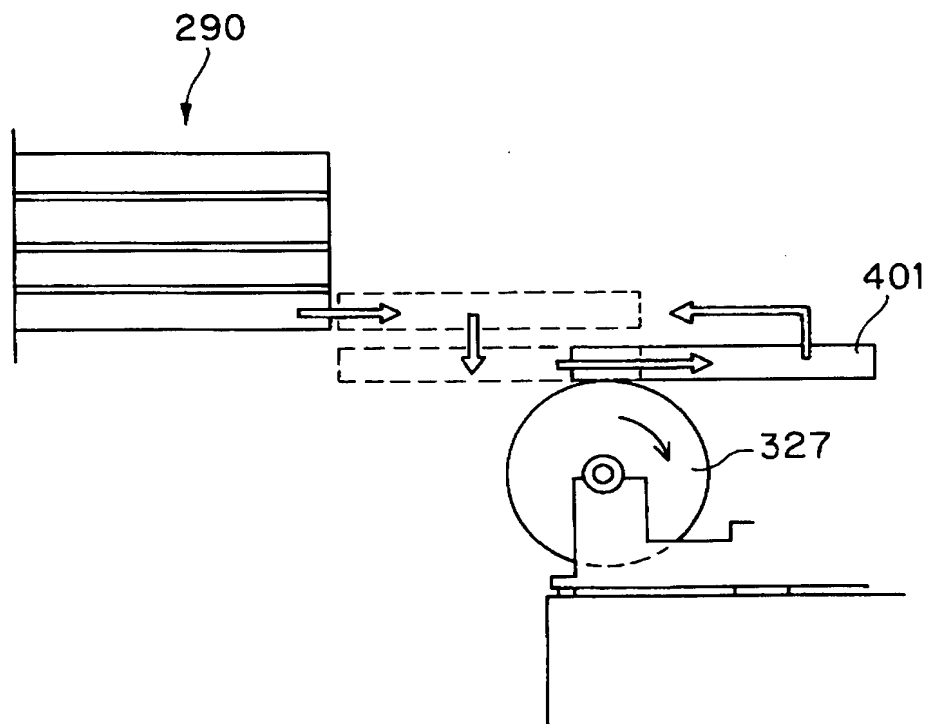
【図 46】



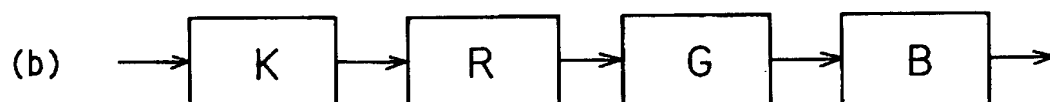
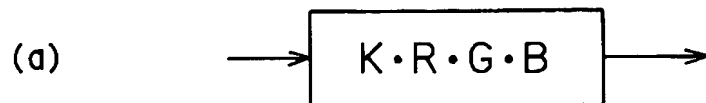
【図 47】



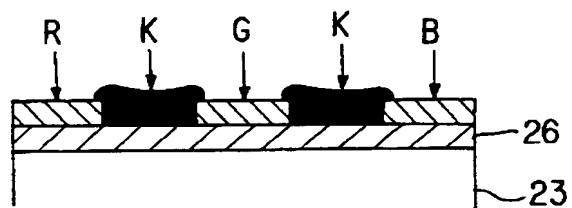
【図 48】



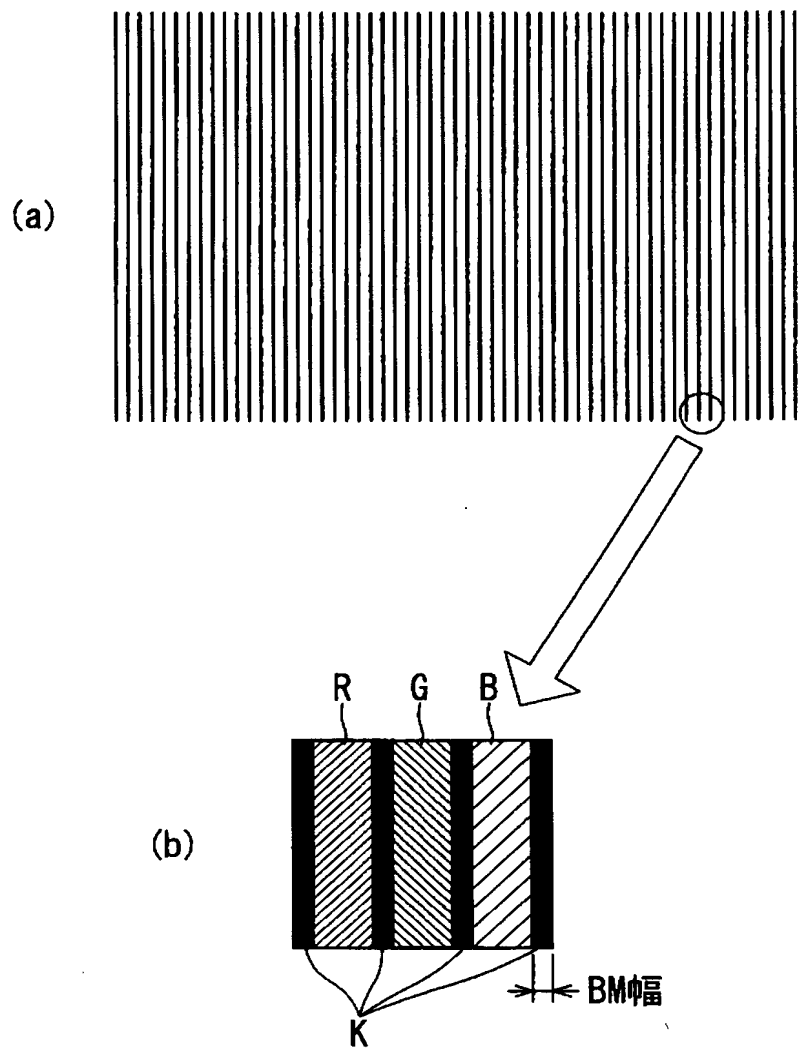
【図 49】



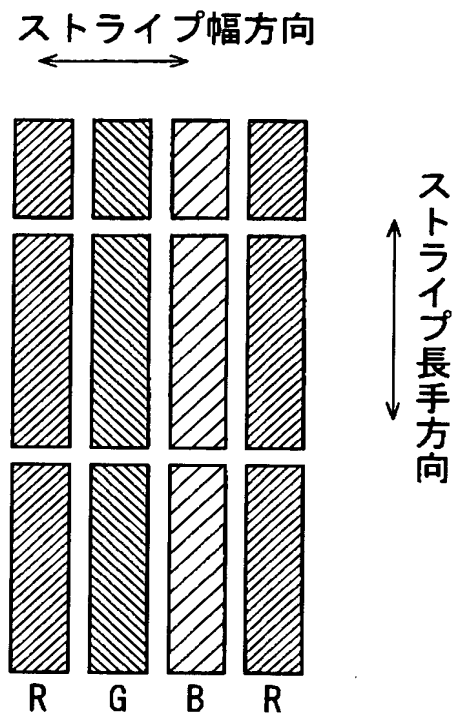
【図 50】



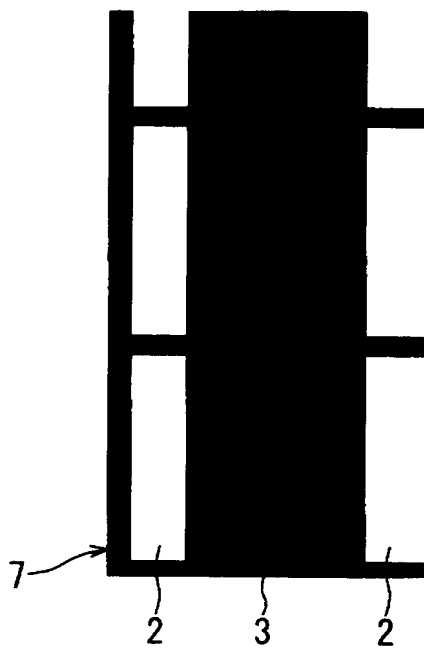
【図 51】



【図 5 2】



【図 5 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 転写シートを複数回の記録に使い回すことにより、資源の有効利用を図り、使用材料の減量による製造コストの低減を図る。

【解決手段】 画像形成層を有する転写シート 7 を支持体 2 3 の記録面上に重ね合わせてストライプ形状を含むパターンを記録し、該記録後に転写シート 7 を支持体 2 3 の記録面から剥離して、支持体 2 3 の記録面に画像形成層をパターン様に転写形成する記録方法であって、支持体 2 3 から剥離した転写シート 7 を、次に搬入した支持体 2 3 の記録面上に戻して重ね合わせ、転写シート 7 の記録済みのストライプ間に存在する未記録部分 3 を用いて支持体 2 3 への記録を行う。例えば、転写シート 7 は剥離前と略同一位置に戻し、記録位置 5 をストライプ形状の配置ピッチで 1 ～ 1.5 ピッチ分ずらして記録することにより、未記録部分 3 を用いて支持体 2 3 への記録を行う。

【選択図】 図 2 5

特願 2002-181421

出願人履歴情報

識別番号

[000005201]

1. 変更年月日

1990年 8月14日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県南足柄市中沼210番地

氏 名

富士写真フイルム株式会社